

授業シラバス

科目名 (英)	外国語 I (実践英会話 I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	Practical English I	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	IR・ホテル&リゾート科				2	曜日/時限	
【担当教員 実務者経験】							
2014年～2017年まで、寝屋川市内の公立中学校にて英語科常勤講師として勤務。 2017年～2018年まで、ワーキングホリデービザにて、オーストラリアでバナナファームや日本食レストランにて勤務。 2019年よりフリーランスに転身し、現在は英語コンサルタント兼コーチとして活動。 主なクライアントとしては、短期間(3～6ヶ月)で英語学習方法をマスターしたい英語初心者となる。							
【授業の学習内容】							
「英会話(英語という言語を使用してのコミュニケーション)」においては、「概念化(言いたいことをシンプルにまとめる力)」「文章化(日本語を瞬時に英語に変換する力)」「音声化(発音力)」が必要不可欠となる。 本授業では、これらをまとめた「スピーキング力」の基礎を実践的課題(1分スピーチ、瞬間英作文、フォニックス)を通して学習する。							
【到達目標】							
中学校レベルの英語の仕組みをマスターし、最低限のコミュニケーション(お店でのやりとり、道を聞かれた時の対応)ができるようになる。 (英検3級合格レベル)							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション、文の成り立ちを理解する。
2回目	「be動詞」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
3回目	「一般動詞」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
4回目	「過去形(be動詞)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
5回目	「過去形(一般動詞)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
6回目	「進行形(現在 / 過去 / 未来)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
7回目	「未来形(will / be going to)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
8回目	「助動詞(can / may / should / must / have to)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
9回目	「受動態」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
10回目	「現在完了形①(概念 / 継続)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
11回目	「現在完了形②(経験 / 疑問 / 否定)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
12回目	「不定詞 / 動名詞」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
13回目	「第4文型 / 第5文型」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
14回目	今学期の総復習を行い、学んだ内容を理解することができるようになる。
15回目	今学期に学んだ内容を理解し、ランダムに問われた内容についての的確に答えることができるようになる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・質問に対しての1分スピーチのクオリティ (100%) ※①概念化②文章化③音声化の3観点で評価
受講生へのメッセージ	基本技術を身につけることが重要です。 休まず、授業後には、習ったことを復習をして、毎回の授業に出席してください。
【使用教科書・教材・参考書】	
・どンドン話すための瞬間英作文トレーニング	



授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅰ (実践英会話Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	Practical English II				30	開講区分	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	2	曜日/時限	
【担当教員 実務者経験】							
2014年～2017年まで、寝屋川市内の公立中学校にて英語科常勤講師として勤務。 2017年～2018年まで、ワーキングホリデービザにて、オーストラリアでバナナファームや日本食レストランにて勤務。 2019年よりフリーランスに転身し、現在は英語コンサルタント兼コーチとして活動。 主なクライアントとしては、短期間(3～6ヶ月)で英語学習方法をマスターしたい英語初心者となる。							
【授業の学習内容】							
「英会話(英語という言語を使用してのコミュニケーション)」においては、「概念化(言いたいことをシンプルにまとめる力)」「文章化(日本語を瞬時に英語に変換する力)」「音声化(発音力)」が必要不可欠となる。 本授業では、これらをまとめた「スピーキング力」の基礎を実践的課題(1分スピーチ、瞬間英作文、フォニックス)を通して学習する。							
【到達目標】							
中学校レベルの英語の仕組みをマスターし、最低限のコミュニケーション(お店でのやりとり、道を聞かれた時の対応)ができるようになる。 (英検3級合格レベル)							

授業計画・内容	
1回目	「現在完了形」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
2回目	「比較級」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
3回目	「関係代名詞」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
4回目	「関係代名詞」の応用的な文章を使いこなせるようになる。
5回目	「区と節」を理解して使いこなせるようになる。
6回目	「前置詞」を理解して使いこなせるようになる。
7回目	「接続詞(名詞節)」を理解して使いこなせるようになる。
8回目	「接続詞(副詞節)」を理解して使いこなせるようになる。
9回目	「品詞(名詞、冠詞)」を理解して使いこなせるようになる。
10回目	「品詞(形容詞、副詞)」を理解して使いこなせるようになる。
11回目	「疑問詞」を理解して使いこなせるようになる。
12回目	「疑問詞(How)」を理解して使いこなせるようになる。
13回目	今学期の総復習を行い、学んだ内容を理解することができるようになる。
14回目	今学期に学んだ内容を理解し、ランダムに問われた内容についての的確に答えることができるようになる。
15回目	1年間の振り返り：1年間で学んだ文法の総復習を行なうことで留学への弾みをつける。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・質問に対しての1分スピーチのクオリティ(100%) ※①概念化②文章化③音声化の3観点で評価
受講生へのメッセージ	基本技術を身につけることが重要です。 休まず、授業後には、習ったことを復習をして、毎回の授業に出席してください。
【使用教科書・教材・参考書】	
・どンドン話すための瞬間英作文トレーニング	



授業シラバス

科目名 (英)	ビジネス (ビジネスコンピューティング I) Business Computing I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
【担当教員、実務者経験】							
航空会社に入社、その後外資系ホテル会社にて秘書業務、学校法人にて秘書科担当教諭として秘書実務・情報処理関連の授業を担当。現在はフリーランスにて、社会人、大学、専門学校にて、情報処理科目講座を担当している。							
【授業の学習内容】							
情報化社会において、いかに情報を効果的に探索・評価・活用するかは、その人の人生において汎用性のある能力となる。そのために、情報リテラシー(情報を活用できる能力)を身につけるべく、最新のアプリケーションソフトを利用して実習する。							
【到達目標】							
職業人として不可欠なICTの可能性を知り、様々な場面でPCを使いこなす事が出来るようになる。							

授業計画・内容	
1回目	インターネットガイダンス(ITリテラシーの概要・理解度テスト・COMメールの使用方法)
2回目	Word① 入力練習・Word基礎(文字入力)・ビジネス文書作成・文書編集①
3回目	Word② 入力練習・文書作成・編集②(効率的な編集方法を知り、手早く文書作成が出来るようになる)
4回目	Word③ 入力練習・表の作成①(表を作成することにより、文書の可視化が出来るようになる)
5回目	Word④ 入力練習・印刷・図形(地図)(ペーパーロスのない印刷方法や図形描写に慣れる)
6回目	Word⑤ 入力練習・便利な機能(検索、置換機能などを知り、効率的な文書編集が出来るようになる)
7回目	Word⑥ 入力練習・ビジュアルな文書作成(ワードアートや画像の利用により可視化された文書を作れるようになる)
8回目	Word⑦ 入力練習・演習問題(演習問題を実施することにより、ビジネス文書作成に慣れる)
9回目	Word⑧ 入力練習・演習問題(演習問題を実施することにより、ビジネス文書作成に慣れる)
10回目	Word⑨ 入力練習・演習問題(演習問題を実施することにより、ビジネス文書作成に慣れる)
11回目	Word⑩ 入力練習・演習問題(演習問題を実施することにより、ビジネス文書作成に慣れる)
12回目	PowerPoint① PowerPointの基本(プレゼンテーションを知る。画面構成)
13回目	PowerPoint② 図形やイラスト・画像の挿入(著作権について知り、コンプライアンスを学ぶ)
14回目	入力テスト/Wordの文書作成 今学期学んだ内容についての的確な文書作成ができるようになる
15回目	PowerPoint③ 表やグラフの利用(プレゼンテーション可視化の必要性について知り、見栄えの良いスライドを作れるようになる)
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・前期試験 実技試験80% ・前期提出物 20%
受講生へのメッセージ	現代社会においてWordやExcel、PowerPointが使えない(苦手)という事は、言えない時代になっています。社会人になってからでは遅いのです。授業を通して、苦手意識を無くし、もっとも得意な分野になってもらえるように一緒に取り組んで参りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
30時間でマスターWord&Excel2010	

授業シラバス

科目名 (英)	ビジネス (ビジネスコンピューティングⅡ) Business Computing Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

航空会社に入社、その後外資系ホテル会社にて秘書業務、学校法人にて秘書科担当教諭として秘書実務・情報処理関連の授業を担当。現在はフリーランスにて、社会人、大学、専門学校にて、情報処理科目講座を担当している。

【授業の学習内容】

情報化社会において、いかに情報を効果的に探索・評価・活用するかは、その人の人生において汎用性のある能力となる。そのために、情報リテラシー(情報を活用できる能力)を身につけるべく、最新のアプリケーションソフトを利用して実習する。

【到達目標】

職業人として不可欠なICTの可能性を知り、様々な場面でPCを使いこなす事が出来るようになる。

授業計画・内容

1回目	PowerPoint④ 課題発表と準備(課題作成にあたり、デザインシートの作成やデータ収集が出来るようになる)
2回目	PowerPoint⑤ 課題作成と発表準備(効率よく課題作成や発表準備に取り組むことが出来るようになる)
3回目	PowerPoint⑥ 発表(プレゼンテーションの実際)作成課題の発表、発表者以外は、評価シートを作成する(発表を体験することにより、スライドの完成度だけでなく、態度、言葉遣い、表情、視線などにも配慮することが出来るようになる)
4回目	PowerPoint⑦ 発表(プレゼンテーションの実際)作成課題の発表、発表者以外は、評価シートを作成する(発表を体験することにより、スライドの完成度だけでなく、態度、言葉遣い、表情、視線などにも配慮することが出来るようになる)
5回目	PowerPoint⑧ 発表(プレゼンテーションの実際)作成課題の発表、発表者以外は、評価シートを作成する(発表を体験することにより、スライドの完成度だけでなく、態度、言葉遣い、表情、視線などにも配慮することが出来るようになる)
6回目	Excel① 基本操作・データ入力・表の作成編集(Excelの基本操作を知り、効率的な表編集が出来るようになる)
7回目	Excel② 数式と関数Ⅰ(Excelの数式や関数を扱えるようになり、業務で応用出来るようになる)
8回目	Excel③ 表の編集・条件付き書式(見栄えの良い表作成と条件付き書式を使えるようになり、効率の良い業務に応用出来るようになる)
9回目	Excel④ グラフ作成・練習問題実施(用途に合わせて、グラフを作成出来るようになる。また、練習問題を実施し、実力養成を図る)
10回目	Excel⑤ 印刷方法、シート操作、関数Ⅱ(印刷方法、シート間の入力方法、関数Ⅱを実施し、業務での応用が出来るようになる)
11回目	Excel⑥ 演習問題実施(演習問題を実施することにより、ビジネス場面でのExcel利用が出来るようになる)
12回目	Excel⑦ データベース機能(データベース機能を学ぶ事により、ビジネス場面でのExcel利用が出来るようになる)
13回目	表作成・関数・グラフ・データベース機能を使用したExcelの機能を確認し、理解度を確認することができる
14回目	今学期の内容で理解出来ていなかった点などを、クリアにする事により、スキルを高めよりExcelを利用出来るようになる
15回目	Excel⑧ 総合演習(Excelの機能を利用して、演習問題に取り組む事により、ビジネス場面での応用が出来るようになる)

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・前期試験 実技試験80%
・前期提出物 20%

受講生への メッセージ

現代社会においてWordやExcel、PowerPointが使えない(苦手)という事は、言えない時代になっています。社会人になってからでは遅いのです。授業を通して、苦手意識を無くし、もっとも得意な分野になってもらえるように一緒に取り組んで参りましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

30時間でマスターWord&Excel2010
30時間でマスタープレゼンテーション+PowerPoint2010

授業シラバス

科目名 (英)	ホスピタリティマナー (マナー・プロトコール I) Manor protocol I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	IR・ホテル & リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員_実務者経験】

関西電力株式会社に入社。コールセンター実務を経て社内講師として指導に携わる。本社人事部門に移動後は社員教育・採用全般に携わる。2002年からマナー・コミュニケーション講師としての活動を開始。独立後の現在は年間200件を超える企業研修を担っている。日本電信電話ユーザ協会講師として電話対応コンクール指導やコンクール審査員を務める。コンクール指導においては、全国大会入賞者を輩出する実績を持つ。また、日本マナー・プロトコール協会初の認定講師としても活動。インバスケカードゲーム認定トレーナー、メンタルヘルスマネジメント検定 I 種講師としても活動する。大学・専門学校非常勤講師。

【授業の学習内容】

日本において長く継承されてきた礼儀作法・しきたり、国際儀礼として習得すべきプロトコール、ビジネスにおけるマナー等について、知識はもちろんのこと、意味や歴史を学ぶことで、「相手を尊重し、思いやる心」がより一層高まるとともに、目に見える「形」としてスムーズに表現できるようになると考える。当授業は、マナーやプロトコールを習得することで自身に自信をつけ、就職活動や社会生活におけるキャリア形成にも役立てていただける内容である。

【到達目標】

- ・相手を尊重し、思いやる心を持ち、その心を「立ち居振る舞い」や「言葉」で表現できるようになる。
- ・就職活動や今後の社会人生活をより有意義なものにする「マナー」や「プロトコール」を学び、自信をもって振る舞えるようになる。
- ・前・後期授業終了後、後期授業最終回に学内で実施するマナー・プロトコール検定3級にチャレンジし、納得のいく結果を出す。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション: 授業の目的、進め方等を理解できる。マナー・プロトコール検定3級の検定概要が理解できる マナーとは何か: 慶事・弔事の意味、マナー・エチケット・礼儀・作法の違い、マナーやプロトコールを学ぶ意義が説明できるようになる
2回目	マナーの歴史と意味①: 日本の礼儀・作法の成り立ち、西洋のマナー、エチケットの成り立ちについて説明できるようになる
3回目	マナーの歴史と意味②: アジアのマナーについて説明できるようになる 確認テスト①: 序章・一章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 国際人としてのプロトコール①: プロトコールの原則、具体的な席次例が説明できるようになる
4回目	国際人としてのプロトコール②: 社交の場でのコミュニケーション、パーティの種類とマナー、挨拶・握手と紹介のマナーについて説明できるようになる
5回目	国際人としてのプロトコール③: 国旗の掲揚方法、国旗の扱い、礼拝の場でのマナー、実用コミュニケーション、日本の伝統文化について説明できるようになる 国旗掲揚ワークで掲揚方法を体感することにより、正しい国旗掲揚ができるようになる
6回目	確認テスト②: 二章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 社会人に必要なマナー①: 第一印象の重要性、表情、挨拶、お辞儀、身だしなみ、立ち居振る舞い、敬語の種類と変換について説明できるようになる
7回目	社会人に必要なマナー②: 敬語の注意点、敬称のつけ方、クッション言葉、聴き方の基本、話し方の基本について説明できるようになる 言葉遣いワークで正しい言葉遣いを徹底的に習得することにより、就職活動や社会人生活で適切な言葉が活用できるようになる
8回目	社会人に必要なマナー③: 和装・洋装のマナーについて説明できるようになる
9回目	社会人に必要なマナー④: 喜ばれる贈答、祝儀袋・不祝儀袋のマナーと使い方について説明できるようになる 祝儀袋・不祝儀袋ワークで表書きを練習することにより、正しく祝書きができるようになる
10回目	社会人に必要なマナー⑤: 手紙のマナーについて説明できるようになる 手紙作成ワークで書き方を練習することにより、正しく手紙が書けるようになる
11回目	確認テスト③: 三章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる ビジネスシーンのマナー①: ビジネスマナーの必要性、社会人の心構え、会社の仕組み、プロ意識、仕事の進め方、名刺の扱い方について説明できるようになる 名刺交換ワークで名刺交換を練習することにより、正しく名刺交換できるようになる
12回目	ビジネスシーンのマナー②: 電話対応のマナー、トラブル対応、来客対応のマナーについて説明できるようになる 電話対応・来客対応ワークで対応練習をすることにより、好印象な接客対応ができるようになる
13回目	ビジネスシーンのマナー③: ビジネス文書のマナー、電子メールのマナーについて説明できるようになる
14回目	1～12回目の授業を振り返り、理解度を確認する。自身の強み・弱みを認識する
15回目	前期試験の振り返りにより、自身の強み・弱みを認識するとともに、弱みの改善ができる 確認テスト④: 四章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 総合の振り返りおよび質疑応答をすることで、さらに自信を持ってマナーを実践できるようになる

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は「筆記試験点数」とする。
受講生へのメッセージ	前後期終了後にマナープロトコール3級検定を受験する授業です。合格することで自信につながり、就職活動時にもアピールができます。また、1年間かけてマナーを学ぶことで好印象を与えるマナーが実践できるようになります。1年間頑張りましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

マナー & プロトコールの基礎知識

授業シラバス

科目名 (英)	ホスピタリティマナー (マナー・プロトコールⅡ) Manor protocol Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

関西電力株式会社に入社。コールセンター実務を経て社内講師として指導に携わる。本社人事部門に移動後は社員教育・採用全般に携わる。2002年からマナー・コミュニケーション講師としての活動を開始。独立後の現在は年間200件を超える企業研修を担っている。日本電信電話ユーザ協会講師として電話応対コンクール指導やコンクール審査員を務める。コンクール指導においては、全国大会入賞者を輩出する実績を持つ。また、日本マナー・プロトコール協会初の認定講師としても活動。インバスケカードゲーム認定トレーナー、メンタルヘルスマネジメント検定Ⅰ種講師としても活動する。大学・専門学校非常勤講師。

【授業の学習内容】

日本において長く継承されてきた礼儀作法・しきたり、国際儀礼として習得すべきプロトコール、ビジネスにおけるマナー等について、知識はもちろんのこと、意味や歴史を学ぶことで、「相手を尊重し、思いやる心」がより一層高まるとともに、目に見える「形」としてスムーズに表現できるようになると考える。当授業は、マナーやプロトコールを習得することで自身に自信をつけ、就職活動や社会生活におけるキャリア形成にも役立てていただける内容である。

【到達目標】

- ・相手を尊重し、思いやる心を持ち、その心を「立ち居振る舞い」や「言葉」で表現できるようになる。
- ・就職活動や今後の社会人生活をより有意義なものにする「マナー」や「プロトコール」を学び、自信をもって振る舞えるようになる。
- ・前・後期授業終了後、後期授業最終回に学内で実施するマナー・プロトコール検定3級にチャレンジし、納得のいく結果を出す。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション: 授業の目的、進め方等を理解できる。また、マナー・プロトコール検定2級、3級試験の内容が理解できる 理解度確認テスト: マナー・プロトコール検定練習問題を活用したテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる マナーとは何か: 慶事・弔事の意味、マナー・エチケット・礼儀・作法の違い、マナーやプロトコールを学ぶ意義が説明できるようになる
2回目	マナーの歴史と意味、日本の礼儀作法の成り立ち、西洋のマナー・エチケットの成り立ち、マナーのマナーについて説明できるようになる 国際人としてのプロトコール①: プロトコールの原則、具体的な席次例、社交の場でのコミュニケーション、パーティの種類とマナーが説明できるようになる
3回目	国際人としてのプロトコール②: 挨拶・握手と紹介のマナー、外国人への贈り物、国旗の扱い、礼拝の場でのマナー、異文化コミュニケーション、日本の伝統文化について説明できるようになる
4回目	小テスト: 授業内容を出题するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 社会人に必要なマナー①: 第一印象の重要性、表情、挨拶、お辞儀、身だしなみ、立ち居振る舞い、敬語の種類と変換、敬語の注意点、敬称のつけ方、クッション言葉、聴き方の基本、話し方の基本について説明できるとともに好印象のマナーが実践ができるようになる
5回目	社会人に必要なマナー②: 和装・洋装のマナー、喜ばれる贈答、祝儀袋・不祝儀袋のマナーと使い方、手紙のマナーについて説明できるようになる
6回目	ビジネスシーンのマナー: ビジスマナーの必要性、社会人の心構え、会社の仕組み、プロ意識、仕事の進め方、名刺の扱い方、電話応対のマナー、トラブル対応、来客対応のマナー、ビジネス文書のマナー、電子メールのマナーについて説明できるようになる
7回目	小テスト: 授業内容を出题するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 食事のマナー①: テーブルマナーの基本、和食のマナー、日本料理の基本知識、食事のいただき方、美しい箸使い、食事のタブー、和室の作法について説明できるようになる
8回目	食事のマナー②: 西洋料理のマナー、テーブルセッティング、カトラリーの使い方、食事のいただき方、中国料理と各国料理のマナーについて説明できるようになる
9回目	お酒のマナー: お酒の種類、ワインの基本知識、その他のお酒の楽しみ方について説明できるようになる
10回目	小テスト: 授業内容を出题するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 「冠」のしきたり: 冠婚葬祭、陰陽道の考え方、日本の主な通過儀礼、出産祝い、七五三のお祝い、入園・入学祝い、その他のお祝い事について説明できるようになる
11回目	結婚のしきたり: 結婚の歴史、結婚のマナー、手紙のスタイル、服装のルール、招待状のマナー、会場のマナー、お返しについて理解できるようになる
12回目	「葬」のしきたり: 仏式の葬儀、神式の葬儀、キリスト教式の葬儀、葬儀・告別式でのマナー、注目のしきたりについて理解できるようになる 「祭」のしきたり: 4月の行事、5月の行事、6月の行事、7月の行事、8月の行事、9月の行事、10月の行事、11月の行事、12月の行事について説明できるようになる
13回目	1～11回目の授業を振り返り、理解度を確認する。自身の強み・弱みを認識する
14回目	振り返りにより自身の強み・弱みを認識するとともに、弱みの改善ができる 模擬試験および質疑応答により、検定2級、3級に向けて自信が持てるようになる
15回目	学習内容について復習し、ランダムに問われる質問に的確な返答ができるようになる

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は「筆記試験点数」とする。

受講生へのメッセージ

3級取得者は2級取得を、3級未取得者は3級試験を取得することにより就職活動時や就職後に役立てていただけます。マナー習得と資格取得を目指し、半年間頑張りましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

マナー&プロトコールの基礎知識

授業シラバス

科目名 (英)	伝統文化 (着付 I) Kimono Wearing I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
【担当教員_実務者経験】							
装道礼法着付学院で資格を取得後、複数の美容院で着付を担当する。ブライダル業界で新郎新婦列席者の着付及びアテンドをフリーで行っている。							
【授業の学習内容】							
数ある日本の伝統文化に関わりのある着物に関わる知識を深めることで広く伝統文化にふれ、着付という現代では専門的な技術を学ぶ。							
【到達目標】							
着物にまつわる知識や歴史を知り、着物や帯のたたみ方、浴衣の自装・他装の習得から長襦袢と袷の着物までの自装ができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	【オリエンテーション】 ミニ講義「サービス業での着付けの重要性」 座礼、着物のたたみ方、準備を学ぶ。
2回目	【ベア練習①】デモンストレーション 浴衣の他装を学ぶ。
3回目	【ベア練習②】 浴衣の他装を学ぶ。
4回目	【ベア練習③】 浴衣の半幅帯の他装を学ぶ。
5回目	【ベア練習④】 ミニ講義「着物の歴史」 浴衣の他装ができるようになる。
6回目	【個人練習①】 浴衣の自装を学ぶ。
7回目	【個人練習②】 半幅帯の自装を学ぶ。
8回目	【個人練習③】 半幅帯の変わり結びができるようになる。
9回目	【個人練習④】 浴衣の自装ができるようになる。
10回目	【前期試験】 浴衣の自装テスト20分 筆記テスト15分
11回目	浴衣でカフェにお出かけ 着物の所作を学ぶ。(予定)
12回目	【袷の着物自装①】 ミニ講義「冠婚葬祭の着物」 長襦袢のたたみ方、着方を学ぶ。
13回目	【袷の着物自装②】 デモンストレーション 着物の着方を学ぶ。
14回目	【袷の着物自装③】 ミニ講義「着物の模様・染」 着物の着方を学ぶ。
15回目	【袷の着物自装④】 着物までの自装ができるようになる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・自装テスト+筆記テスト
受講生への メッセージ	実技中心の授業となります。 復習しながら新しいことを積み重ねて習得するので、毎回の授業の流れがとても大切になります。 一緒に頑張りましょう！
【使用教科書・教材・参考書】	
足袋、肌襦袢、長襦袢、補正タオル 髪が長い方は必ず髪ゴム・髪留めをもってきてください。	

授業シラバス

科目名 (英)	伝統文化 (着付Ⅱ) Kimono Wearing Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
学科	IR・ホテル & リゾート科	授業 形態	演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

装道礼法着付学院で資格を取得後、複数の美容院で着付を担当する。ブライダル業界で新郎新婦列席者の着付及びアテンドをフリーで行っている。

【授業の学習内容】

数ある日本の伝統文化に関わりのある着物に関わる知識を深めることで広く伝統文化にふれ、着付という現代では専門的な技術を学ぶ。

【到達目標】

着物にまつわる知識や歴史を知り、着物や帯のたたみ方、浴衣の自装・他装の習得から長襦袢と袷の着物までの自装ができるようになる。

授業計画・内容

1回目	名古屋帯のたたみ方 太鼓結びの自装を学ぶ。
2回目	名古屋帯で太鼓結びの自装を学ぶ。
3回目	★ミニ講義「織の着物・織の帯・染の帯」 名古屋帯で太鼓結びの自装を学ぶ。
4回目	名古屋帯で太鼓結びの自装を学ぶ。
5回目	袴のたたみ方 袴の他装を学ぶ。
6回目	袴の他装ができるようになる。
7回目	★ミニ講義「季節の舞妓かんざし」 帯揚げ・帯締めの変り結びができるようになる。
8回目	名古屋帯で変り結びの他装ができるようになる。
9回目	★ミニ講義「家紋」 名古屋帯で太鼓結びの自装を学ぶ。
10回目	着物の自装テスト(15分)
11回目	名古屋帯で太鼓結びの自装を学ぶ。
12回目	名古屋帯で太鼓結びの自装ができるようになる。
13回目	名古屋帯の自装テスト (帯・帯揚げ・帯締め 25分)
14回目	振袖の他装を学ぶ。
15回目	振袖の他装ができるようになる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・自装 実技試験
・筆記試験

受講生への メッセージ

実技中心の授業となります。
復習しながら新しいことを積み重ねて習得するので、毎回の授業の流れがとても大切になります。
一緒に頑張りましょう！

【使用教科書・教材・参考書】

足袋、肌襦袢、長襦袢
髪が長い方は必ず髪ゴム・髪留めをもってきてください。

授業シラバス

科目名 (英)	マーケティングセールス (マーケティング) Marketing	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

15年間のゲーム開発(プランナー、ディレクター、プロデューサー)を経て、2018年に研修会社を設立。
 <エマージェンス・ジャパン合同会社 代表> <https://emergence-japan.com/>

【授業の学習内容】

企画立案は、ただ単にアイデアを考えれば良いというものではありません。そこにはいくつかの段階とノウハウがあります。それらの段階とノウハウを身に着け、企画立案の基礎能力をつける。

【到達目標】

サービス内容や新しいプランなどを的確かつ効率的に組立て、提案できるようになる。

授業計画・内容

1回目	【オリエンテーション】 企画立案から企画書作成、プレゼンテーションまでの流れと概要を理解する
2回目	【マーケティング①】 課題を構成する要素を分析し、定義を明確にできるようになる
3回目	【マーケティング②】 分解要素をリサーチし、課題を再定義できるようになる
4回目	【マーケティング】 ホテル、エアライン、インパウンド観光業界の動向やトレンドを調査し、ポジショニングできるようになる
5回目	【コンセプト】 ミッションとコアアイデアを立案できるようになる
6回目	【ブレインストーミング①】 コアアイデアを実現する具体策の発案ができるようになる
7回目	【ブレインストーミング②】 コアアイデアを実現する具体策の発案ができるようになる
8回目	【ブレインストーミング③】 コアアイデアを実現する具体策をブラッシュアップできるようになる
9回目	【ブレインストーミング④】 コアアイデアを実現する具体策をブラッシュアップできるようになる <演習実施>
10回目	【企画立案】 アイデアの実現性を検討し、プロジェクトへ昇華できるようになる
11回目	【プレゼン資料の作成】 プレゼン資料の効果的な構成を理解し、土台を作れるようになる
12回目	【プレゼン資料の作成】 効果的なプレゼン資料が作成できるようになる
13回目	【プレゼンテーション】 チームごとにプレゼンテーションの演習①とフィードバック <演習実施>
14回目	【プレゼンテーション】 チームごとにプレゼンテーションの演習②
15回目	【振り返り】 半年間の振り返りを行い、各自の課題を明確にすることができる

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。
 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
 ・演習課題の完成度 100%

受講生へのメッセージ

これから創造力が重要性を増す時代です。
 創造力は生まれ持った才能ではなく、知識と技術で向上します。
 入社した時点で、戦力になれるよう準備しましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

パワーポイントのスライド、模造紙、付箋紙、カラーペン

授業シラバス

科目名 (英)	サービススキル (ウォーキング I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
	Walking & Posture I	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	IR・ホテル & リゾート科				2	曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

大学卒業後 株式会社りそな銀行へ入行。この頃からO脚や身体の不調に悩まされる。その原因が無意識にとっていた自己流の姿勢や歩き方が原因と知り、「正しく立つ・歩く」ことによりO脚が改善される。一般社団法人Csにてウォーキング講師の資格を取得し、2014年に独立。多くの人に「正しく立つ・歩く」ことで起きる健康面での変化や内面の変化、そして身だしなみの中には「姿勢や歩き方」が含まれることを伝えたく様々な企業様で研修も行う。現在、教室を軸に、イベント、セミナー等で幅広く活躍中。

【授業の学習内容】

「正しい姿勢・正しい歩き方」「立ち居振る舞い・所作」を学ぶ。外面と整えることは相手に対する思い遣りの気持ちを表すことであり、また見えない自分自身の心を整えるためでもあることを理解する。信頼感の与えられる人材を育てる。

【到達目標】

人前にでた際に自信を持って立ち居振る舞いが行えるよう、身だしなみを完璧に整えることができるようになる。身だしなみの中には「姿勢や歩き方・所作・表情」まで含まれることを理解しながら、360度どの角度から見られても印象の良い綺麗な立ち居振る舞いができるようになる。

授業計画・内容

1回目	講師自己紹介。学生自己紹介。なぜ「正しく立つ・歩く」「立ち居振る舞い」が大切かを「心×形の法則」と共に学び理解できるようになる。。BEFORE写真として普段の姿勢を撮影。
2回目	正しい靴の履き方・脱ぎ方・姿勢作りのポイントを理解できるようになる。ウォーキングの前に動的ストレッチを行い、歩行に必要な筋肉の使い方を理解できるようになる。
3回目	姿勢・靴の履き方・脱ぎ方の復習。ウォーキングレッスンは下半身のポイント(着地方法・歩幅・つま先の角度・足首の曲げ伸ばし、膝・ふくらはぎの筋肉の使い方・骨盤の角度・位置・大殿筋意識するなど)を1つずつ丁寧に練習しながら、頭と身体で理解できるようになる。前半の回数までは筋肉強化レッスンを行うことで筋肉をより意識できるようになる。
4回目	
5回目	
6回目	動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングレッスンは下半身の意識するポイントから上半身の意識するポイント(腹筋の使い方・腕の正しい振り方・首の立て方・目線の置く位置)などをつけくわて、トータル的に正しく美しい歩行ができるようになる。筋肉強化ウォーキングから通常ウォーキングへレベルアップをはかりできるようにする。
7回目	
8回目	途中経過として姿勢写真撮影を行い、折り返し時点での成長具合を確認。動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングは上半身の意識するポイントを比重を置きながら、トータルで正しく美しい歩行ができるようになる。スピードアップをしてもフォームが崩れないように筋肉を使いながら歩行ができるようになる。
9回目	動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングは上半身の意識するポイントを比重を置きながら、トータルで正しく美しい歩行ができるようになる。スピードアップをしてもフォームが崩れないように筋肉を使いながら歩行ができるようになる。
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	これまでの学習について総復習を行い、苦手な点を明確にして練習できる。
14回目	これまでの学習についてランダムに問われる内容に、的確な返答をすることができる
15回目	フィードバックを行い、試験でできていた点、できていなかった点を振り返る。姿勢のAFTER写真撮影をし、綺麗に作られるようになったか確認する。そして前期の総復習ならびに前期終えての感想、反省点など後期の目標を改めて落とし込み後期への意識を高めることができるようになる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・入退室時の挨拶・お辞儀が行えているかどうか プラスα
・姿勢作り・ウォーキングのポイントを意識して正しくできているかどうか 50%(筆記試験50%)

受講生へのメッセージ

ウォーキングを習うと聞くと、モデルさんや舞台上に立つ人だったり何か特別な人が習うものと感じていると思いますが、人間はみな二足歩行です。特別な人だけでなく「正しく立つ・歩く」知識や技術は皆さんも知る必要があります。私自身がそうだったように無意識にとっているその姿勢や歩き方が実はマイナスな印象にうつっていたり、身体の不調を引き起こす原因になっている可能性もあります。人前に立った際に、またどんなシーンにおいても好感の持てる人になるよう身につけていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書は適時、配布
持ち物: スニーカー(紐靴)・動きやすい服装・飲み物

授業シラバス

科目名 (英)	サービススキル (ウォーキングⅡ) Walking & Posture Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

大学卒業後 株式会社りそな銀行へ入行。この頃からO脚や身体の不調に悩まされる。その原因が無意識にとっていた自己流の姿勢や歩き方が原因と知り、「正しく立つ・歩く」ことによりO脚が改善される。一般社団法人Csにてウォーキング講師の資格を取得し、2014年に独立。多くの人に「正しく立つ・歩く」ことで起きる健康面での変化や内面的変化、そして身だしなみの中には「姿勢や歩き方」が含まれることを伝えたく様々な企業様で研修も行う。現在、教室を軸に、イベント、セミナー等で幅広く活躍中。

【授業の学習内容】

後期は前期に引き続きフラットウォーキングを行いつつ、ヒールウォーキングを身につける。
また様々なシーンにおいて美しくふるまうコツを具体的に練習していく。
外面を整えることは相手に対する思いやりの気持ちを持つことであり、おもてなしの心を形を代表するためにあることを理解し、社会人マナーとして身につける。
信頼感の与えられる人材を育てる。

【到達目標】

就職活動や冠婚葬祭のシーンにおいて必要不可欠なヒールウォーキングを美しく正しくできるようになる。日常生活での美しい所作も学び、ものを大切に扱う心も育てられるようになる。姿勢・フラットウォーキング・ヒールウォーキング・所作トータルでできるようになり、即戦力のある立ち居振る舞いを身につけられるようになる。

授業計画・内容

1回目	前期に続き姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。 所作レッスンでは座り方指導。座り姿勢にこそ品格が現れることを伝え、正しい座り姿勢から立ち方まで一連の流れを美しくできるようになる。 (就職活動に活かせるよう実践を交える) 手しぐさの法則は女子学生のみ。ものの丁寧な扱い方(カバンの持ち方・傘の持ち方など)を仕事一つで表現できるようになる。
2回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。 所作レッスンはコミュニケーションに欠かせない「素敵な笑顔の作り方」をできるようになる。笑顔もたらず効果・笑顔の種類・顔の主な筋肉の説明・表情筋トレーニングを行いできるようになる。(手鏡ご持参ください。)
3回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。 所作レッスンではヒールでのスマートな階段の昇り降りのポイントやコツ、並びにエレガントに魅せるしゃがみ方等できるようになる。
4回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。 疲れにくいヒール選び(試着のポイント・デザイン選び)並びにシーン別(仕事・パーティー、カジュアル等)脚が綺麗に見えるヒールの高さ選びの教式を学びできるようになる。
5回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。 所作レッスンはスマートにコートやジャケットを脱ぎ着できるようになる。(企業訪問した際に恥ずかしくないマナーを理解してできるようになる。)
6回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
7回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
8回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
9回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
10回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
11回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
12回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
13回目	今学期学んだ内容を復習し、指示に対して的確な姿勢を取れるようになる。
14回目	今学期学んだ内容について、互いに歩き方・姿勢を確認し、評価し合うことができるようになる。
15回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・姿勢・ヒールウォーキング 60点
・ジャケットの脱ぎ方たのみ方 40点

受講生へのメッセージ

就職活動で必要不可欠なヒールウォーキングを行っていきます。ヒールウォーキングが綺麗にできるようになれば、女性としてワンランク上の振る舞いができ自信のある立ち居振る舞いができるようになります。前期同様、引き続き動的ストレッチを行いつつ「厳しく楽しく」学びましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書は適時、配布
持ち物:スニーカー(紐靴)・動きやすい服装・飲み物

授業シラバス

科目名 (英)	企業研究 (企業研究 I) Company Reserch I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
学科名	IR・ホテル & リゾート科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員_ 実務者経験】

ウェスティン大阪レストランMGR及びフロントMGR、客船飛鳥F&Bヘッドウェイター、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。1996年第1回 日本メートルドテルコンクール第5位。現在はホテル・レストランコンサルタントとして活動。ラグジュアリーホテル副総支配人、全日本メートルド・テル連盟 副会長、メートルド・セルヴィスの会 幹事、国際メートルド・テル連盟 会員。
CGB(フランス・ジョルジュバティスト協会)主催サービスコンクール世界大会運営委員。 CGB後援サービスコンクール日本大会(メートルド・セルヴィス杯) 審査員

【授業の学習内容】

企業様(ホテル)よりホテルプロモーションのテーマを頂き、クライアント(ホテル)の現状、プロモーションのターゲット、ゴール等をヒアリングする。授業では、グループワークにより実際にマーケティング、企画立案、提案構築、制作、発表することにより、企画提案書の立案方法、制作方法、プレゼンテーションの技法を学ぶ。

【到達目標】

実際に商品化が可能なホテルプロモーションをグループワークで制作することにより、マーケティングによる顧客ニーズの理解、効果的なホテルプロモーションの作り方、企画広報の進め方を学び、効果的なプレゼンテーションができるようになる。

授業計画・内容

1回目	科目概要・目標解説： 企画書制作の基本が理解できるようになる。
2回目	テーマ発表： 1. 企業訪問、ショールーム、課題説明、情報収集、ヒアリング、質疑応答を確認し、実践できる。
3回目	科目概要・目標解説： 企画書制作の基本が理解できるようになる。
4回目	研究概要の構築： 1. 企画書の目的設定 2. ゲスタターゲットの設定、マーケットリサーチ、ブレインストーミング、プラン案の抽出ができる。
5回目	研究内容の構築： 1. プランの絞込み 2. 提案内容の実行できる方法論の策定 3. 予算、スケジュールの策定 4. 提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の確認ができる。
6回目	プレゼンテーション内容決定： 1. 問題点の整理 2. 提案内容(プラン)の決定 3. 提案のメリット構築 4. 提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の解決方法が決定できる。
7回目	プレゼンテーション資料作成ができる： 1. 問題点の整理 2. 提案内容 3. 提案のメリット 4. 予算 5. スケジュール 6. 問題点とその解決方法
8回目	プレゼンテーション資料作成ができる： 1. 問題点の整理 2. 提案内容 3. 提案のメリット 4. 予算 5. スケジュール 6. 問題点とその解決方法
9回目	プレゼンテーション資料完成ができる： 1. プレゼンテーション内容の確認、精査、修正等 2. 最終準備
10回目	第1回プレゼンテーションに必要な準備を行い、実践ができる： 1. プレゼンテーション 2. フィードバック
11回目	プレゼンテーション内容レビューを行う： 1. 企画書の目的設定精査 2. ゲスタターゲットの設定精査 3. プレゼンテーション・プランの最終決定
12回目	プレゼンテーション内容レビューを行う： 1. 提案内容の実行できる方法論の確定、予算、スケジュールの設定 2. 提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の再確認と解決。
13回目	授業内プレゼンテーションに必要な準備をし、実践できる： 1. 授業内でのプレゼンテーション 2. レビュー 3. 内容の最終確認、精査、修正 最終準備
14回目	プレゼンテーション内容レビューを粉羽： 1. 提案内容の実行できる方法論の確定、予算、スケジュールの設定 2. 提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の再確認と解決。
15回目	最終プレゼンテーションに必要な準備を来ない、実践できる： 1. 各班プレゼンテーション 2. 企業様審査 3. レビュー

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50%+授業態度(授業を聴く態度、制作する態度、チームワーク)10%+企画内容評価40%を評価基準とする。

受講生への メッセージ

ホテル現場の方からのお話を参考に、実際に商品化できる企画立案を目標としてグループワークにより構築・制作します。企画提案を実践することにより、他者の意見や業界の様々な考え方の基礎を学ぶ事が出来ます。

【使用教科書・教材・参考書】

授業のテーマについて、講師が参考資料を適宜準備する。
使用ソフト： Power Point 他

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅱ (留学英語Ⅰ) English for Study abroad I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員・実務者経験】

ニューヨークでの留学を経験後、留学カウンセリング事業を立ち上げて代表を務める。留学に関するアドバイスをを行う傍ら、大学にてTOEICの指導を4年間行っている。
また、TOEICの対策ではなく英文法の基礎を応用させる教育スタイルを採用しており、最近では社会人向けの英文法講座のメイン講師も務める。

【授業の学習内容】

英語に対して苦手意識を持っていたり、英語力が伸び悩むのは中高の英語学習に対する苦手意識が原因であることがほとんどです。この授業ではもう一度中高の英文法を、最優先事項にのみ絞って復習します。また、改めて学んだ英文法を使って文章読解を行うことで、自分の身に付けた能力が活かされているという体験をしていきます。
さらに、他の英語の先生方とも連携をし英文法のみならず英会話の場面においても英文法が大事であるということを学んでいきます。

【到達目標】

英文法を基礎からしっかりとマスターし、自分の英文法の知識を整理する。その上で、英文を読んでいくことで、どんな文章や会話でも自力で理解できる力を身に付けます。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション・文の成り立ち・英語の構造について / 日本語との違いを構造から理解することでこれから学習していく基礎が作れるようになる。
2回目	Be動詞について / Be動詞の役割を理解することでこれらの英語学習の基盤ができ、学習がしやすくなる。
3回目	一般動詞について / 英語の根幹となる一般動詞の役割を理解できるようになる。
4回目	過去形(Be動詞)について / Be動詞の過去形の文章が読めたり、自分で文章を作ることができるようになる。
5回目	過去形(一般動詞)について / 一般動詞の過去形が使えることで自分自身で文章を作ることができるようになる。
6回目	進行形(現在形・過去形)について / これまでに学んだ知識を踏まえて進行形を学ぶことで、進行形の感覚を掴む。
7回目	未来形について / 未来形と助動詞についての理解を深める。
8回目	助動詞について / 助動詞のルールを知るだけでなく、コアの意味を理解することで正しく助動詞が使えるようになる。
9回目	受動態について / これまで学んできた能動態ではない文章の感覚を掴むことで、受動態の文章を自ら作り、使えるようになる。
10回目	現在完了形(概念・継続) / 日本語にはない現在完了の概念を理解し、現在完了の文章が読み書きできるようになる。
11回目	現在完了形(経験・疑問/否定)について / 前回の知識を応用して疑問文・否定文を学ぶことで、より現在完了の文章を日常会話で取り入れられるようになる。
12回目	不定詞・動名詞について / 英語の幅を広げる上で非常に大事な不定詞・動名詞を理解することで、より具体的な文章を書けるようになる。
13回目	第4文型・第5文型 / 高校で学習し混乱しがちな2つの文型を復習することで、英語の苦手意識を克服できるようになる。
14回目	今学期学んだ内容について、ランダムに問われる質問に対して的確な返答ができるようになる。
15回目	今学期学んだ内容を確認し、次の学期に向けて自分の課題を見つけることができる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。

・前期試験 筆記試験100点の40%計算を行う。

受講生への メッセージ

皆さんの中には英語に対して苦手意識を持っている方もいらっしゃるかと思います。ですが、中高の英文法をきっちりマスターし理解を深めることで確実に英語力は伸びていき苦手意識も自然と拭えるようになります。
また、留学を控えている方は海外でのコミュニケーションに大きな不安を抱えておられるかと思いますが、基礎力があれば会話は成立します。中高の時には分らなかった文法も一緒に楽しく学べば必ず理解できるかと思いますので、一緒に頑張りましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

TOEICテスト書き込みノート 文法編 (Gakken)

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅱ (留学英語Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	English for Study abroadⅡ	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	IR・ホテル&リゾート科			2	曜日/時限		

【担当教員・実務者経験】

ニューヨークでの留学を経験後、留学カウンセリング事業を立ち上げて代表を務める。留学に関するアドバイスを行う傍ら、大学にてTOEICの指導を4年間行っている。
また、TOEICの対策ではなく英文法の基礎を応用させる教育スタイルを採用しており、最近では社会人向けの英文法講座のメイン講師も務める。

【授業の学習内容】

前半部は前期で扱いきれなかった内容や、留学に向けて必要な文法の知識を学ぶ。
中盤から後半にかけては、「童話」をグループ毎に分かれて英訳をしていき最後に全員の前で発表を行う。

【到達目標】

来年に控える留学に向けて、文法の基礎が頭に入っているだけでなくそれらを使って表現をすることができるようになる。

授業計画・内容

1回目	現在完了：現在完了の全ての用法が理解できるようになる。
2回目	比較：比較級の文法が理解出来て、読めるようになる。
3回目	関係代名詞①：関係代名詞の働きを理解できるようになる。
4回目	関係代名詞②：前回の内容を踏まえて更に発展的な関係代名詞の文章が読めるようになる。
5回目	句と節：句と節それぞれの定義を理解することで文章を区切って読めるようになる。
6回目	前置詞：前置詞の働きと使い方を理解することでより具体的な描写ができるようになる。
7回目	接続詞①：接続詞の名詞節の働きが理解できるようになる。
8回目	接続詞②：従位接続詞の副詞節の役割が理解出来て、より長い文章を読めるようになる。
9回目	品詞①：英語における名詞と冠詞の役割を理解できるようになる。
10回目	品詞②：形容詞・副詞の働きを理解し、文章をかたまりで捉えられるようになる。
11回目	疑問詞①：5W1Hを理解することで、相手により具体的な質問ができるようになる。
12回目	疑問詞②：Howを使った文章を理解することで留学中でも困らないような質問ができるようになる。
13回目	今学期学んだ内容について、ランダムに問われる質問に的確な返答ができるようになる。
14回目	今学期学んだ内容を復習し、理解度と課題を確認することができる。
15回目	1年間の振り返り：1年間で学んだ文法の総復習を行なうことで留学への弾みをつける。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。

・後期筆記試験(100点満点)を実施し、40%計算を行う。

受講生への メッセージ

留学まで残り半年ですので、毎回出席して準備万端で出発できるようにしましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

TOEICテスト 書き込みノート文法編

授業シラバス

科目名 (英)	コミュニケーション (コアマネジメントベーシック I) Core Management Basic I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
		授業 形態	講義	時間数 (単位)	60 4	開講区分 曜日/時限
学科	IR・ホテル&リゾート科					
【担当教員 実務者経験】						
プライダル企業を中心に、様々な企業に対する人材育成トレーニング歴15年、および部下指導歴20年の経験を持つ。井上は「禁断の気質学 フォートロジー®」の著者。						
【授業の学習内容】						
行動心理学のベーススキルを学ぶことで、問題解決の糸口を見つけることができる。それによって社会人としてのストレスフリーの環境を作り出すことは、学生が社会人になった時にとっても有効なスキルとなり得る。この授業を通して、社会人として必須となるコミュニケーションスキルを学ぶ。						
【到達目標】						
<コアマネジメント>心理学的な脳の仕組みを理解し、自分と他人とのコミュニケーションを円滑にする手段として、実生活で使えるようになる。 気質学>生まれ持っている人間の4つのエネルギーについて理解し、自分のエネルギーバランスから行動や考え方の特性を知り、「自分らしさ」を理解することができる。						

授業計画・内容	
1・2回目	(オリエンテーション) 授業内容を説明し、学ぶ意義を理解することができる
3・4回目	(気質学基礎知識②) 4つのエネルギーの特性を学び、それぞれの行動形態を理解することができる
5・6回目	(気質学基礎知識④) 4つのエネルギーの特徴を理解し、見分け方することができる
7・8回目	(特別講義①)～オリエンテーション-何を学ぶのか、どのように効果的に学ぶのか～ 企業や現在の社会ニーズとしてオンライン(テレワーク)を導入されている企業も多く、オンラインとリアルな融合をテーマにオンラインにて効果的に学習をすすめる為の方法について理解し、オンラインに対応できるようになる。皆さまとのラポール(心理的安全性)を創り出し、強いチームになる素地を築き上げます
9・10回目	気質学基礎知識①～⑥までの授業内容の理解度の確認と復習
11・12回目	(気質学基礎知識③) 4つのエネルギーのクレーム対応を理解し、実生活で活用できるようになる(2)
13・14回目	(特別講義②)～イントロダクション-なぜ学ぶのか、何を学ぶのか～ 企業人事に求められる人財になる為に必要なことを理解する質の高いコミュニケーション、場創りメソッドを理解することができるようになる
15・16回目	(基礎知識の応用③) 実生活での事例から、4つの気質の行動形態を理解することができる(3)
17・18回目	気質学基礎知識 理解度の確認と復習(1)
19・20回目	(基礎知識①) 心理学的な脳の仕組みを知って、その働きを理解することができる(1)
21・22回目	(特別講義③)～主体性を作り出す～ 圧倒的な成果を創り出す為の「場創り」(意識・質の高いコミュニケーションを使えるようになる)を再現性高く生み出す知識・技術力が身につく、成果を出しやすい自分自身の習慣を理解することができるようになる
23・24回目	(基礎知識④) 信頼関係を築くスキルを学び、理解することができる
25・26回目	(特別講義④)～ゴールイメージを思い描く～ チームが一丸となる 理念浸透の構造理解と圧倒的Vision構築ができるようになる
27・28回目	(基礎知識⑦) 五感を通して物事を記憶し、発信する仕組みを理解することができる(2)
29・30回目	授業内容の理解度確認と復習(1)を行うことができる
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40% とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・テスト演習60% ・制作課題の提出率および完成度50%
受講生へのメッセージ	コアマネジメントを学ぶことで、どうしてこのような行動をするのか、どうしてこのような感情になるのか、自分のことや相手のことがわかるようになり、コミュニケーションがしやすくなります。社会に出ると様々な年代、様々なタイプの人と関わることになり、コミュニケーションスキルの習得はとても重要ですので、楽しく身に付けていきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
・コアマネジメントベーシック／一般社団法人国際ライセンスマネジメント機構 断の気質学	



授業シラバス

科目名 (英)	コミュニケーション (フォートロジー気質学Ⅰ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	Fortology I	授業 形態	講義	時間数 (単位)	60	開講区分	
学科	IR・ホテル&リゾート科				4	曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

プライダル企業を中心に、様々な企業に対する人材育成トレーニング歴15年、および部下指導歴20年の経験を持つ。井上は「禁断の気質学 フォートロジー®」の著者。

【授業の学習内容】

行動心理学のベーススキルを学ぶことで、問題解決の糸口を見つけることができる。それによって社会人としてのストレスフリーの環境を作り出すことは、学生が社会人になった時にとても有効なスキルとなり得る。この授業を通して、社会人として必須となるコミュニケーションスキルを学ぶ。

【到達目標】

行動心理学のベーススキルを学ぶことで、問題解決の糸口を見つけることができる。それによって社会人としてのストレスフリーの環境を作り出すことは、学生が社会人になった時にとても有効なスキルとなり得る。この授業を通して、社会人として必須となるコミュニケーションスキルを学ぶ。

授業計画・内容

1・2回目	(基礎知識①)自分のエネルギー配分を知って、自分の特性を理解することができる
3・4回目	(基礎知識③)2つに分類される行動形態を学び、共通した特性を理解することができる
5・6回目	(基礎知識⑤)接客における4つのエネルギーの相性を理解し、実生活で活用できるようになる(1)
7・8回目	(基礎知識⑥)接客における4つのエネルギーの相性を理解し、実生活で活用できるようになる(2)
9・10回目	(基礎知識⑦)4つのエネルギーのクレーム対応を理解し、実生活で活用できるようになる(1)
11・12回目	(基礎知識の応用①)実生活での事例から、4つの気質の行動形態を理解することができる(1)
13・14回目	(基礎知識の応用②)実生活での事例から、4つの気質の行動形態を理解することができる(2)
15・16回目	(基礎知識の応用④)4つのエネルギーの特徴を理解し、コミュニケーションを円滑することができる
17・18回目	気質学基礎知識 理解度の確認と復習(2)
19・20回目	(基礎知識②)心理学的な脳の仕組みを知って、その働きを理解することができる(2)
21・22回目	(基礎知識③)コミュニケーションの流れと、自分と相手を観察する方法を理解することができる
23・24回目	(基礎知識⑤)非言語によるコミュニケーションを学び、活用することができる
25・26回目	(基礎知識⑥)五感を通して物事を記憶し、発信する仕組みを理解することができる(1)
27・28回目	(基礎知識⑧)目の動きからわかる思考パターンを理解することができる
29・30回目	授業内容の理解度確認と復習(2)
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・テスト演習50% ・制作課題の提出率および完成度50%
受講生へのメッセージ	コアマネジメントを学ぶことで、どうしてこのような行動をするのか、どうしてこのような感情になるのか、自分のことや相手のことがわかるようになり、コミュニケーションがしやすくなります。社会に出ると様々な年代、様々なタイプの人と関わることになり、コミュニケーションスキルの習得はとても重要ですので、楽しく身に付けていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

・コアマネジメントベーシック／一般社団法人国際ライセンスマネジメント機構
禁断の気質学

授業シラバス

科目名 (英)	F&B概論・演習 (料飲・レストランオペレーション I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	木下 雅仁
	Food & Beverage・Restaurant Operation I	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
学科	IR・ホテル&リゾート科					曜日/時限	
【担当教員 実務者経験】							
1983宝塚ホテル、1986ヒルトン大阪、2006神戸ベイシェラトン、2010スイスホテル南海大阪、及び(株)リゾートトラストを経て、現在 ㈱北山貿易のホテル部門に在籍中。 神戸ベイシェラトンにおいてはシェラトンのブランドトレーナーをしていました。 料飲部を中心に宿泊部 人事総務部など多岐にわたる職務経験を授業に生かしていきたいと考えています。							
【授業の学習内容】							
レストラン、バー、ラウンジおよびバンケットを中心に動作、知識を学びます。また料飲部以外の他部門のオペレーションにも言及し、料飲部がホテル組織のなかで がどう位置付けがなされているのかなども学びます。 レストランでのサービス動作の習得のみに終わらず企業人としての基礎的な心構えや所作をも身につける授業にしたいと考えています。							
【到達目標】							
FBオペレーションに携わるうえで必要な基礎知識と動きを習得する。さらにキャプテンクラスをサポートできる程度の知識の習得を目指します。							

授業計画・内容	
1回目	開講に際して講師挨拶と自己紹介、学生全員の自己紹介自己PRなどを行う ホテルの業種や業界、組織図について知ることができる
2回目	ソーシャルスタイル(4つの個性、特徴)を学び自分を知る、さらに相手を知ることができる
3回目	基本の動作および接客用語を実際に使い習得することができる(接客用語と礼、歩き方、ノック、お迎え、お見送りまで)
4回目	OE(シルバークラウドウェア、チャイナウェア、グラスウェア、リネン)、FF&Eなどの用語や用途、取り扱いが理解できる サービススタンダードとは何かを理解できる
5回目	レポーティングと5W1Hの重要性及び”ハウレンソウ”とは何かを知ることができる プレゼンテーションスキルを身につけることができる (相手にメッセージを伝える技術)
6回目	基本的なテーブルマナーを知ることができる
7回目	レストランとバンケットの基本のテーブルセッティングを習得できる
8回目	メニューとオーダーテイク、ドリンクサービスを体験しそれを理解できる (コーヒーカップ、ソーサー、ゴブレット、タンブラー、ワイングラスなどの扱い方)
9回目	オーダーテイクとフードサービスを体験しそれを理解できる (プレート、プラッター、サーバー、チューリンなどの扱い方)
10回目	予約と電話応対を実際に行い重要なポイントを習得できる
11回目	FBサービスの一連の動作確認とゲストとの会話を体験し重要なポイントを習得できる
12回目	コンプレイン、クレームとは何か、そしてどのように対応をするのかを理解できる 課題指示
13回目	課題について各自でプレゼンを行い、講評を行う
14回目	今学期学んだ内容を復習し、問われた質問に的確な返答ができるようになる。
15回目	今学期学んだ内容について自分の課題を見つけ、次の学期の学習内容を把握することができる
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10%+ 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・期末の試験において実技40%、筆記60%の比率にて評価する。 ・ ・
受講生への メッセージ	全員参加を基本とします。グループワークやアクティビティも取り入れ授業を進めていきます。 講師から的一方通行ではなく出席者には必ず発言を求め、動きを求める授業にしたいと考えます。 一流のホテルエを目指して頑張りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
テキスト、OE、リネンなど	

授業シラバス

科目名 (英)	F&B概論・演習 (料飲・レストランオペレーションⅡ) Food & Beverage・Restaurant OperationⅡ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	木下 雅仁
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限
【担当教員 実務者経験】							
1983宝塚ホテル、1986ヒルトン大阪、2006神戸ベイシェラトン、2010スイスホテル南海大阪、及び(株)リゾートトラストを経て、現在(株)北山貿易のホテル部門に在籍中。 神戸ベイシェラトンにおいてはシェラトンのブランドトレーナーをしていました。 料飲部を中心に宿泊部、人事総務部など多岐にわたる職務経験を授業に生かしていきたいと考えています。							
【授業の学習内容】							
レストラン、バー、ラウンジおよびバンケットを中心に動作、知識を学びます。また料飲部以外の他部門のオペレーションにも言及し、料飲部がホテル組織のなかで がどう位置付けがなされているのかなども学びます。 レストランでのサービス動作の習得のみに終わらず企業人としての基礎的な心構えや所作をも身につける授業にしたいと考えています。							
【到達目標】							
FBオペレーションに携わるうえで必要な基礎知識と動きを習得する。さらにキャプテンクラスをサポートできる程度の知識の習得を目指します。							

授業計画・内容	
1回目	前菜 スープ 魚介 肉 野菜 チーズ デザートなどで使用される食材を学び 知識を得る
2回目	在阪ホテル館内見学実体験する
3回目	西洋料理調理法の基本的な食材の仕込みの表現、切り分け方、焼き方を分類し理解する
4回目	(振り返り)おじきの仕方から接客用語唱和 言葉使いの基本マナーを学び 再習得出来る
5回目	ワインの分類、ぶどう品種、フランス6大ワイン産地を知る 後半はテーブルクロス掛け方技術習得
6回目	料理名や食材名からメニュー構成まで学習し知識を得る
7回目	銀食器、陶磁器、ガラス容器の説明及び食器類の名称の知識を習得
8回目	フランス式、ロシア式、イギリス式、アメリカ式のサービスの違いやレストランスタッフの任務の知識を習得
9回目	「5W・1H」の基本や一般的救護方法 食の禁忌(タブー)知識を習得
10回目	HRS実技試験概要の把握 グループ練習でサービスの流れを把握出来るようになる
11回目	HRS実技試験シミュレーション 合格ラインのレベルに引き上げる
12回目	過去授業の重要箇所を復習し、各自自分の課題を見つけることができる
13回目	これまで学んだ内容を確認し、問われる質問に対して的確な返答ができるようになる
14回目	これまで学んだ内容を理解し、各自自分の課題を確認することができる
15回目	(モチベーションアップ研修)ホテルレストラン就職に向けての心構えを身につける
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・期末の試験において実技40%、筆記60%の比率にて評価する。 ・ ・
受講生へのメッセージ	全員参加を基本とします。グループワークやアクティビティも取り入れ授業を進めていきます。 講師から的一方通行ではなく出席者には必ず発言を求め、動きを求める授業にしたいと考えます。 一流のホテルエを目指して頑張りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
レストラン業務の基礎、OE、リネンなど	

授業シラバス

科目名 (英)	ホテル概論・演習 I (ホテル基礎 I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	高橋 健二
	Hotel Basic I	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
学科	IR・ホテル&リゾート科					曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

1981年4月神戸ポートピアホテル入社。フレンチレストランをはじめ、宴会サービス、レストランマネージャー、VIPアテンドなど携わる。1992年4月トラジャル旅行ホテル専門学校入社。ホテル学科長、キャリアサポート、プライダル学科設立など経験する。ホテル学科だけで3000名の卒業生を輩出する。2004年9月関西唯一のホテル専門の教育・人材会社、株式会社ホテリエスタッフ設立。関西のホテル業界を中心に教育と人材の供給に努めている。

【授業の学習内容】

ホテル業界の接客・接遇、ホテルの歴史、ホテル業界の現状・将来性・課題などを幅広く学び、ホテル業界の魅力を持ってもらうこと目標とする。また、国内および海外のホテルチェーンも学び、将来の就職先の目安を決められるようになります。そして、ホテル業界の基本的なマナー・ホスピタリティを学び、ホテル業界での心構えも習得する。

【到達目標】

国内の様々なホテルチェーンや外資系のホテルチェーンを学び、それぞれの希望の将来の就職先のホテルを決めることができるようになる。そして、ホテルの基本を学び、ホテルマンらしい振る舞いや行動、言動などができるようになる。

授業計画・内容

1回目	講師の自己紹介・ホテル基礎の授業の概要と進め方・重要性を理解することができるようになる。
2回目	接客の基本、第一印象やキャスト・お辞儀の重要性を学び、接客の基本を理解できるようになる。
3回目	ホテルでの接客・接遇・サービスをプロのホテルエの立場から解説するため、さらに接客の重要性や魅力を理解できるようになる。
4回目	ホテル業界でのサービス・接遇・おもてなしを探り、個々の目標を持つことができるようになる。
5回目	ホテル業界の将来性・魅力を学び、ホテル業界の憧れを現実的に知ることができる。
6回目	ホテルの語源・定義や観光業界でのホテルの位置づけを学び、ホテルの基本を把握することができるようになる。
7回目	ホテルの組織・役割・各部署(宿泊・料飲・宴会・営業・管理)などを知ることにより、ホテルでの具体的な仕事を学ぶ。
8回目	海外のホテルチェーンの歴史を日本の既存ホテルから学び、将来の就職先のホテルの目標を持つことができるようになる。
9回目	国内の日本資本のホテルの歴史を学び、外資系と比較し、将来の就職先のホテルとして位置づけることができるようになる。
10回目	リゾートホテル・ビジネスホテル・旅館・ゲストハウスなど関西を中心にその他の宿泊施設の紹介。シティホテルとの比較ができるようになる。
11回目	世界と日本のホテルの格付けとレストランの格付けを学び、各ホテルの比較ができるようになる。
12回目	アルバイト・インターンシップのホテル業界の心構えを学び、実際の職場で役立てることができる。
13回目	ホテル業界でのマネジメントの基礎を学び、現在のアルバイト、将来の仕事に活かすことができる。
14回目	これまで学んだ内容を復習し、問われる質問に対して的確な返答ができるようになる。
15回目	これまで学んだ内容を確認し、各自自らの課題を把握することができる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。

◎ 筆記試験を100点満点 100%

受講生へのメッセージ

ホテル業界の基礎から現状、そしてホテルの紹介と幅広くホテル業界を学んでいきます。そして、接客や心構えなどホテル業界の裏側も学びますので、ホテル業界の魅力や将来性をきっと見つけることができると思います。最終的には、ホテルマンらしい振る舞いや行動が自信を持ってできるようになりますので、積極的に授業に望んでいただけることを期待しています。

【使用教科書・教材・参考書】

・「新ホテル総論」 一般財団 日本ホテル教育センター ・「ホテルビジネス 基礎編」 一般財団 日本ホテル教育センター

授業シラバス

科目名 (英)	宿泊オペレーション (宿泊オペレーション I) Front Office Operation I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	辻倉 一毅
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

高校卒業後に、単独NZに渡り、ホテルにて勤務。帰国後は、東京ディズニーランドで準社員として5年間Disneyサービスに触れ、サービスの真髄を学ぶ。退社後、ヒルトン大阪、ヒルトン東京ベイ、ヒルトン小田原リゾート&スパなどで、合計15年以上勤務。主に宿泊部フロント、ベル、コンシェルジュ業務、社内トレーニング業務、人材育成や、オーベルジュの支配人として職務に携わる。

【授業の学習内容】

宿泊部門の各セクションの役割と連動を認識し、ロールプレイングを行うことで接客スキルの向上と基本業務スキルを習得する。
現在のホテルゲストのニーズや傾向を学び、おもてなしの引き出しを多く持てる実践型の授業内容とする。

【到達目標】

ホテルの顔として、宿泊部門で必要とされる表情・姿勢・接客用語を習得し実践演習を行うことによって即戦力としての技能を身につけ、自信を持って活躍できるようになる。

授業計画・内容

1回目	前期授業の概要説明並びに自己紹介を通じて全員で宿泊部門の疑問点や不安解消に向けてコミュニケーションを図る。
2回目	(宿泊部門の使命と役割) 予約⇒チェックイン⇒チェックアウト⇒清掃までの一連の流れを学ぶ。
3回目	お客様から見られていることを理解・意識して、魅せるスタッフとなる表現力を養うことが出来る。
4回目	(ベル業務の理解①) ベル業務の1日を通しての内容を理解し、ゲストの誘導方法やワゴンの使い方をロールプレイングを通じて学ぶ。
5回目	(ベル業務の理解②) ベル業務の1日を通しての内容を理解し、現状のゲストニーズと、今後求められるサービスを考察することで、想像力と対応力を養うことが出来る。
6回目	(ベル業務の応用①) お部屋までのご案内や観光施設へのインフォメーション業務をロールプレイングを通じて学ぶ。
7回目	(ベル業務の応用②) ドア業務の内容を理解し、到着⇒お出迎え⇒フロントまでのご案内⇒お部屋までのご案内をロールプレイングを通じて学ぶ。
8回目	(クローク業務の理解) クローク業務の1日を通しての内容を理解し、クロークタグの結び方を習得する。
9回目	(クローク業務の応用) お荷物のお預かり⇒お渡しまでの業務をロールプレイングを通じて学ぶ。
10回目	(コンシェルジュ業務の理解①) コンシェルジュ業務の1日を通しての内容を理解し、観光施設やレストラン情報を収集する。
11回目	(コンシェルジュ業務の理解②) コンシェルジュ業務の1日を通しての内容を理解し、コンシェルジュに求められる提案力を養い、代替案の創造力を養うことが出来る。
12回目	(コンシェルジュ業務の応用①) 観光施設やレストラン案内業務をロールプレイングを通じて学ぶ。
13回目	(コンシェルジュ業務の応用②) ゲストの要望を組み取った観光プランの策定と提案をプレゼンテーションを通じて学ぶ。
14回目	(学習内容確認) 1～13回目の授業を振り返り、宿泊部門の基本業務の再確認を行う。
15回目	(振り返り) ロールプレイングを行い前期の宿泊部門業務を流れて再確認して宿泊業務への自信と意欲を手に入れる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・前期試験 実技試験 30点 + 筆記試験 70点の合計100点とし40%計算を行う。

受講生へのメッセージ

接客(おもてなし)に、ここまでという言葉はありません。
おもてなしの引き出しを増やせるように全員で取り組み、皆さまがホテルの顔として自信を持って目指せるように共に頑張りましょう!!!

【使用教科書・教材・参考書】

・使用教本: 宿泊業務の基礎 *財団法人日本ホテル教育センター監修

授業シラバス

科目名 (英)	宿泊オペレーション (宿泊オペレーションⅡ) Front Office Operation II	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	辻倉 一毅
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

高校卒業後に、単独NZに渡り、ホテルにて勤務。帰国後は、東京ディズニーランドで準社員として5年間Disneyサービスに触れ、サービスの真髄を学ぶ。退社後、ヒルトン大阪、ヒルトン東京ベイ、ヒルトン小田原リゾート&スパなどで、合計15年以上勤務。主に宿泊部フロント、ベル、コンシェルジュ業務、社内トレーニング業務、人材育成や、オーベルジュの支配人として職務に携わる。

【授業の学習内容】

宿泊部門の各セクションの役割と連動を認識し、ロールプレイングを行うことで接客スキルの向上と基本業務スキルを習得する。
現在のホテルゲストのニーズや傾向を学び、おもてなしの引き出しを多く持てる実践型の授業内容とする。

【到達目標】

ホテルの顔として、宿泊部門で必要とされる表情・姿勢・接客用語を習得し実践演習を行うことによって即戦力としての技能を身につけ、自信を持って活躍できるようになる。

授業計画・内容

1回目	後期授業の概要説明並びに全員で宿泊部門の疑問点や達成目標に向けてのコミュニケーションを図る。
2回目	(宿泊部門の使命と役割) (予約⇒チェックイン⇒チェックアウト⇒清掃)までの一連の流れを学び理解する。
3回目	(ベル業務の理解) ベル業務の1日を通しての内容を理解し、ゲストの誘導方法やワゴンの使い方をロールプレイングを通じて理解する。
4回目	(ベル業務の実践①) お部屋までのご案内や観光施設へのインフォメーション業務が出来るようになる。
5回目	(ベル業務の実践②) ドア業務の内容を理解し、(到着⇒お出迎え⇒フロントまでのご案内⇒お部屋までのご案内)が出来るようになる。
6回目	(リザーベーション業務の理解) 宿泊予約業務を理解し、予約の受注方法やTAP宿泊システムを学び理解する。
7回目	(リザーベーション業務の実践①) 宿泊予約業務での(電話対応⇒受注⇒TAP宿泊システムへの入力)まで出来るようになる。
8回目	(フロントレセプション業務の理解) フロントレセプション業務を理解し、カウンターでのおもてなしとTAP宿泊システムを学び理解する。
9回目	(フロントレセプション業務の実践①) フロントカウンターでのおもてなしと、(ゲストご到着⇒チェックイン)まで出来るようになる。
10回目	(ハウスキーピング業務の実践) ベッドメイク業務を(未清掃状態⇒清掃完了)まで時間管理を行いながら出来るようになる。
11回目	(コンシェルジュ業務の実践①) 観光施設やレストラン案内業務をゲストの要望を組み取った観光プランが策定出来る。
12回目	(コンシェルジュ業務の実践②) 策定した観光プランを全員の前でプレゼンテーションが出来る。
13回目	(学習内容確認) 1～12回目の授業を振り返り、後期試験を実施する。宿泊部門全般のオペレーション業務の再確認を行う。
14回目	(振り返り) 後期の宿泊部門を流れて再確認して宿泊業務への自信と意欲を手に入れる。
15回目	(宿泊業務統括) 宿泊部門の業務全般の流れ(お出迎え⇒チェックイン⇒滞在中のおもてなし⇒お見送り)まで出来るようになる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。

・前期試験 実技試験 30点 + 筆記試験 70点の合計100点とし40%計算を行う。

受講生へのメッセージ

接客(おもてなし)に、ここまでという言葉はありません。
おもてなしの引き出しを増やせるように全員で取り組み、皆さまがホテルの顔として自信を持って目指せるように共に頑張りましょう!!!

【使用教科書・教材・参考書】

・使用教本: 宿泊業務の基礎 *財団法人日本ホテル教育センター監修

授業シラバス

科目名 (英)	経営管理 I (IR基礎 I) IR Basic I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

東洋大学国際観光学部教授,IR(Integrated Resort)*ゲーミング学会理事,日本ホスピタリティ・マネジメント学会理事,2018年7月13日参議院内閣委員会にIRの専門家として呼ばれる。

【授業の学習内容】

2018年夏にカジノを収益のエンジンとしたIR(Integrated Resort)を合法化するための法案が可決された。まだ日本ではIRとカジノを同じものとらえる風潮が残っているがそれは間違いである。また、日本ではカジノを合法化する最後発の国となり、なおかつ世界で規制が最も厳しくなりそうである。本講義では日本のIRの「本質」を学習する。

【到達目標】

①観光産業にどのような形でIRが寄与できるかを理解できる。②日本におけるIRの制度がどのようなものであるかについて深く理解できる。

授業計画・内容

1回目	はじめに(ガイダンス)
2回目	日本における観光政策の流れについて理解できるようになる。
3回目	1964年東京オリンピック、2020年東京オリンピック、1970年大阪万博、2025年大阪万博について理解できるようになる。
4回目	日本における合法的なギャンブル産業について理解できるようになる。
5回目	日本におけるギャンブル依存症対策について理解できるようになる。
6回目	日本におけるIRの制度設計について理解できるようになる。
7回目	日本におけるIRの制度の詳細な点について理解できるようになる。
8回目	アメリカのカジノについて理解できるようになる。
9回目	ラスベガスのIRについて理解できるようになる。
10回目	インディアンカジノについて理解できるようになる。
11回目	マカオのIRについて理解できるようになる。
12回目	シンガポールの観光振興、依存症対策について理解できるようになる。
13回目	シンガポールのIRについて理解できるようになる。
14回目	IRにおけるノンゲーミングの重要性について理解できるようになる。
15回目	日本版IRについての現状を理解し、説明することができるようになる。

評価基準
A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法
出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・テスト演習10%
・グループワークにおける課題達成度。

受講生へのメッセージ
日本におけるIRは2020年代の後半より稼働することになりそうです。それは皆さんにとって大きなチャンスだと思います。自分でもアンテナをはって情報収集をしてください。

【使用教科書・教材・参考書】

筆記用具、参考文献は適宜指示します。

授業シラバス

科目名 (英)	インバウンド I (MICEビジネス概論 I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
	MICE Business I	授業 形態	講義 演習	総コマ数 (単位)	30 2	開講区分
学科	IR・ホテル&リゾート科					曜日/時限

【担当教員_実務者経験】

旅行会社勤務を経て、91年よりちば国際コンベンションビューローに勤務。99年～2000年、日本政府観光局へ出向し、国際会議のマーケティングおよびセールスを担当。G20大阪サミット関西推進協力協議会特別アドバイザーとして、G20の準備から開催まで一貫して関わった。韓国MICE産業協会諮問委員、MPI Japan Chapter 会長、観光庁MICE推進検討委員会委員を歴任し、日本のMICE業界の発展に尽力する。

【授業の学習内容】

MICEビジネスとは何か、関連する仕事や施設も含めて総合的に学ぶ。またMICEビジネスの歴史と現状・今後の発展について学び、仕事の面白さ・楽しさを理解する。

【到達目標】

MICEについての概要・業務内容を理解し、MICEビジネスの成り立ちや業界における役割、今後の発展について説明できるようになる。

授業計画・内容

1回目	ガイダンス-MICE産業とは？ 一般的には未だあまり理解されていないMICE産業についての概念を知る
2回目	Meeting(企業会議、企業イベント)ビジネスの世界 一般に知られることの少ない企業イベントについて実例を踏まえて、その業務に携わる面白さや楽しさなどについて知る。
3回目	Incentive(報奨旅行)ビジネスの世界 MICEビジネスの中でも最も知られにくいインセンティブパーティーについて、その業務の面白さや楽しさなどについて知る。
4回目	Convention(国際会議)ビジネスの世界 国際会議を運営するさまざまな関連産業について、その業務の面白さや楽しさについて知る。
5回目	Exhibition(展示会)ビジネスの世界 展示会運営に携わる様々な関連産業について、その業務の面白さや楽しさについて知る。
6回目	MICE産業の歴史 世界や日本のMICE産業の歴史を成り立ちから現在に至るまでどのような過程を経てきたかを理解し、今後のMICE産業の発展について理解する。
7回目	MICE産業の現状①(世界、日本) 世界や日本におけるMICE産業の実態や現在のトレンド等について理解を深める。
8回目	MICE産業の現状②(大阪) 大阪におけるMICE産業の実態についてG20大阪サミット開催実例等を含めて理解し、今後大阪にとってのMICEビジネスの重要性について知る。
9回目	MICE産業を支える仕事①(観光庁、JNTO、コンベンションビューロー) 公的な立場でMICE産業を支える国、自治体参加の組織についてその役割や活動について知識を深める。
10回目	MICE産業を支える仕事②(PCO、PEO、イベント会社等) MICE事業実施にあたって最前線で実務を執り行う業務について理解を深める。
11回目	MICE産業を支える仕事③(ケータリング、旅行業等) MICE事業実施にあたって最前線で実務を執り行う業務について理解を深める。
12回目	MICE産業を支える施設①(国際会議場) MICE産業とは一面装置産業であり、その中でも特に大きな役割を果たす国際会議場の役割について理解を深める。
13回目	これまで学んだ内容を復習し、各項目について自分の言葉で説明できるようになる。
14回目	国際会議場視察(国立京都国際会館) 日本最古で唯一の国立国際会議場である国立京都国際会議場を訪問し、担当者から施設の概要や運営について説明を受けるとともに細部を視察し理解を深める。
15回目	これまで学んだ内容を確認し、MICEビジネスの概要についてお互いに説明し合うことができるようになる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・前期試験の点数

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	インバウンド I (MICEビジネス概論 II)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
	MICE Business II	授業 形態	講義 演習	総コマ数 (単位)	30 2	開講区分
学科	IR・ホテル&リゾート科					曜日/時限
【担当教員、実務者経験】						
旅行会社勤務を経て、91年よりちば国際コンベンションビューローに勤務。99年～2000年、日本政府観光局へ出向し、国際会議のマーケティングおよびセールスを担当。G20大阪サミット関西推進協力協議会特別アドバイザーとして、G20の準備から開催まで一貫して関わった。韓国MICE産業協会諮問委員、MPI Japan Chapter 会長、観光庁MICE推進検討委員会委員を歴任し、日本のMICE業界の発展に尽力する。						
【授業の学習内容】						
展示場・ホテル・ユニークベニュー等のMICEビジネス関連施設を実際に視察しながら、具体的な仕事内容についてイメージし、理解を深める。						
【到達目標】						
MICEビジネスが実際にどのように誘致、準備、運営されるかなどの一連の流れを把握し、実務内容について説明できるようになる。						

授業計画・内容	
1回目	MICE産業を支える施設と仕事②(展示場) 地域の経済産業の活性化に必要な不可欠装置である展示場の役割について理解を深める。
2回目	展示場視察(インテックス大阪) 西日本最大規模の本格的展示場を訪問し、担当者から施設の概要や運営について説明を受けるとともに展示場細部を視察し理解を深める。
3回目	MICE産業を支える施設と仕事③(ホテル) ホテルのMICE機能について知識を深め、どのようなMICEビジネスを受入れ運営するかについての理解を深める。
4回目	ホテル視察(ハイアットリージェンシー大阪orヒルトン大阪) MICEビジネスの取り組みに実績のある外資系ホテルを訪問し、担当者から施設の概要や運営について説明を受け、ホテルにおけるMICEビジネスの理解を深める。
5回目	国際会議の作り方 国際会議が実際にどのように誘致、準備、運営されるかなどの一連の流れを把握し国際会議ビジネスについて理解を深める。
6回目	展示会の作り方 展示会がどのように企画され、実施されていくかの一連の流れを把握し展示会ビジネスについての理解を深める。
7回目	インセンティブ・イベントの作り方 MICEビジネスの中で一般ではほとんど触れることのないインセンティブ・イベントについて映像等の事例も踏まえ実態を把握し理解を深める。
8回目	国際会議におけるプロトコール 国際会議、特にハイレベル国際会議受入れに必要な不可欠なプロトコール(国際儀礼)についてG20サミットの実例などを踏まえて理解を深める。
9回目	ユニークベニューの開発と活用 ユニークベニューの概念や実際にどのように開発し活用していくか等を実例を踏まえて理解し、開発や活用に関する演習を行う。
10回目	ユニークベニュー視察(大阪府立中央図書館、大阪府立自然史博物館) 大阪で実際に活用されているユニークベニューを訪問し、担当者から施設の概要やMICEイベントを開催する際の留意点などをの説明を受け理解を深める。
11回目	MICEの統計、経済波及効果及びMICE商販の作り方 MICEビジネスの効果測定に必要な統計や経済波及効果について理解を深めるとともに経済波及効果を高めるために必要なMICE商品の作り方について理解を深める。
12回目	MICEトレードショーの実務体験(インターンシップ)2020年12月2日(水) 大阪観光局が主催するMICEトレードショー「大阪MICEデスティネーション・ショーケース2020」の運営に一部携わり、展示商談会の運営を実体験する。
13回目	これまで学んだ内容を確認し、各項目について自分の言葉で説明できるようになる。
14回目	IR(統合型リゾート)におけるMICEビジネス 今後の日本におけるMICEビジネスにとって重要な施設となるIR内のMICE施設に関して知識を深めるとともに、今後のビジネスへの発展性について理解を深める。
15回目	MICEビジネス概論総括 2020年度の講義を振り返り理解を深めるとともに、次年度実施される海外実習でのMICEビジネス実務習得のポイントを認識する。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・後期試験の点数
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	インバウンドⅡ (グローバルホスピタリティⅠ) Gloval Hospitality I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

株式会社JALスカイ大阪に勤務。伊丹空港のグランドスタッフとしてVIPのお客様を数多く対応している。

【授業の学習内容】

訪日外国人が増えている現状からこの授業の必要性を理解する。
前期では、訪日外国人に対する基本的な理解、接客マナーと、英語を使つての接客表現を学ぶ。

【到達目標】

訪日外国人に接する際の基本的な英語表現を覚え、使うことができるようになる。
また、世界には多様な文化があることを理解し、その都度相手を尊重する姿勢を身に着ける。

授業計画・内容

1回目	シラバス説明:この授業の内容、目的、ルールを理解できる。 日本のインバウンドの現状を理解する。
2回目	IRの仕組み、可能性と課題を理解した上で議論し、考えを深めることができる。
3回目	表情、挨拶、身だしなみ、話し方、仕草の重要性を理解し、場に適した対応をすることができるようになる。
4回目	初対面のお客様と英語で自己紹介・挨拶(お辞儀、握手)をすることができるようになる。
5回目	多文化において様々なタブー(宗教、政治など)があることを理解し、どのように対応すればいいかを学ぶことができる。
6回目	顧客満足とは何かを理解することができる。
7回目	フォーマルな場での席次とドレスコードについて理解し、場に適した対応をすることができるようになる。
8回目	VIP対応の基本的なマインドを理解し、日本語・英語ロールプレイングで実践することができる。
9回目	英語で道案内ができるようになる。
10回目	関西の観光スポットを英語で紹介することができるようになる。
11回目	日本の観光名所を英語で紹介することができるようになる。
12回目	インバウンドのお客様に食事を提供する際に気を付けることを理解し、その際に使う英語フレーズを学ぶことができる。
13回目	メニューをつくろう:日本料理を英語で表現することができるようになる。
14回目	今学期学んだ内容を振り返り、問われる内容についての的確に答えることができるようになる。
15回目	今学期学んだ内容について、互いに自分の言葉で説明ができるようになる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・期末試験の点数

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	インバウンドⅡ (グローバルホスピタリティⅡ) Gloval Hospitality II	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

株式会社JALスカイ大阪に勤務。伊丹空港のグランドスタッフとしてVIPのお客様を数多く対応している。

【授業の学習内容】

訪日外国人が増えている現状からこの授業の必要性を理解する。
訪日外国人に対しての基本的な理解、接客マナーと、英語を使つての接客表現を学ぶ。

【到達目標】

訪日外国人に接する際の基本的な英語表現を覚え、使うことができるようになる。
また、世界には多様な文化があることを理解し、その都度相手を尊重する姿勢を身に着ける。

授業計画・内容

1回目	前期の復習：VIP対応の基本マインドを理解し、日本語ロールプレイングを実践することができる。
2回目	前期の復習：VIP対応の基本マインドを理解し、英語ロールプレイングを実践することができる。
3回目	国際儀礼とドレスコード 席次、フォーマル、セミフォーマルについて理解し、関連する語彙を学ぶことができる。
4回目	日本の食べ物を英語で表現 一汁三菜、そば、天麩羅、しゃぶしゃぶ、寿司などについて英語で表現することができる。
5回目	プレゼンテーション①：日本の伝統的な食べ物をひとつ選び、英語でプレゼンすることができる。
6回目	プレゼンテーションの振り返りを行い、お互いの発表について共有し知識・語彙を深めることができる。
7回目	日本の習慣を英語で表現 靴を脱ぐ習慣、畳、挨拶の仕方などについて英語で表現することができる。
8回目	プレゼンテーション②：日本の習慣をひとつ選び、英語でプレゼンすることができる。
9回目	プレゼンテーションの振り返りを行い、お互いの発表について共有し知識・語彙を深めることができる。
10回目	ホームタウンを英語で表現 自分の生まれた土地、住んでいる土地について英語で表現することができる。
11回目	プレゼンテーション③：ホームタウンについて英語でプレゼンすることができる。
12回目	プレゼンテーションの振り返りを行い、お互いの発表について共有し知識・語彙を深めることができる。
13回目	今学期学んだ内容を確認し、理解度を確認することができる。
14回目	今学期学んだ内容について問われる質問に対して的確な返答ができるようになる。
15回目	訪日外国人に対しての基本的な理解、接客マナーと、英語を使つての接客表現の総復習を行う。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・期末試験の点数

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	旅行観光 I (国際観光 I) International Tourism I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員、実務者経験】

1988から旅行業界で仕事をしています(海外添乗、インバウンド業務) その経験を活かして、旅行関係の授業を受け持っています。

【授業の学習内容】

外国人に人気の観光地と近畿周辺の観光地について(各地域の特色、特産品(お土産物を含む)の知識を習得する、外国人を案内する方法(各国の習慣やマナー、日本で困る事をを知り、各国ごとの対応を考える。簡単な英語で案内出来る様に学習する

【到達目標】

- ・インバウンド観光客に日本の観光地を英語で紹介できるようになる。
- ・主に宿泊客のホテル周辺の観光について聞かれた際の対応が出来るようになる フィールドワークを実施して、インバウンドガイド体験をし、ガイド業務内容を理解出来る様にする

授業計画・内容

1回目	ガイダンス、国際観光(インバウンド)の歴史、インバウンドの仕事の種類と内容について把握できるようになる
2回目	インバウンドの仕事に必要な知識について 外国人に人気の観光地を各自研究 課題研究—提出出来る様になる
3回目	人気観光地研究 国別マナーや習慣(宗教含む)を研究-留意点と心得(対応)を理解出来る様になる
4回目	人気観光地研究、大阪等近畿周辺) 国別人気観光地の研究 各業種の外交人受け入れ対策について 課題研究—提出出来る様になる
5回目	インバウンド英語 基礎英語表現について 挨拶等の会話が出来る様になる
6回目	インバウンド英語 道案内が出来る様になる
7回目	インバウンド英語 買い物 食事の案内が出来る様になる
8回目	インバウンド英語 想定される質問や日本で困る事に対応出来る様になる
9回目	インバウンド英語 観光案内英語① 2コマ対応の日程を考える—発表—実施案決定、出来る様になる
10回目	インバウンド英語 観光地案内② 各担当決定、観光案内、誘導&交通機関の案内等出来る様になる
11回目	インバウンド英語 観光地研究③ 各自担当か所を日本語と英語で作成①が出来る様になる
12回目	インバウンド英語 観光地研究③ 各自担当か所を日本語と英語で作成②が出来る様になる
13回目	これまで学んだ内容を復習し、理解度を確認することができる
14回目	フィールドワーク実施(大阪で外国人に人気の観光地を英語で案内する)体験出来る様になる
15回目	フィールドワーク実施(大阪で外国人に人気の観光地を英語で案内する)体験できるようになる

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・筆記試験50点
・課題レポート50点
・

受講生への メッセージ

国際観光、インバウンドが急性帳しているなか、普通に外国人を多く見かけ、質問される機会が増えています。日本を知ってもらふ事と、外国を知る事の両方が必要です。また語学力も必要です。この授業ではこれらを学習し、簡単な英語で外国人をおもてなし出来る事を体験、目標とします。学習方法(授業と自宅)をお知らせしますので、楽しいおもてなしの技術を身につけましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

スピードマスター 1時間でわかる インバウンド対策 訪日外国人のおもてなしはこれで決まり!(日本語)
ゼロからスタート英語ボランティア 観光ガイド編(日本語)

授業シラバス

科目名 (英)	旅行観光 I (国際観光 II) International Tourism II	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
		授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
学科	IR・ホテル&リゾート科					曜日/時限	
【担当教員、実務者経験】							
1988から旅行業界で仕事をしています(海外添乗、インバウンド業務) その経験を活かして、旅行関係の授業を受け持っています。							
【授業の学習内容】							
外国人に人気の観光地と近畿周辺の観光地について(各地域の特色、特産品(お土産物を含む)の知識を習得する、外国人を案内する方法(各国の習慣やマナー、日本で困る事を知り、各国ごとの対応を考える。簡単な英語で案内出来る様に学習する							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド観光客に日本の観光地を英語で紹介できるようになる。 ・主に宿泊客のホテル周辺の観光について聞かれた際の対応が出来るようになる フィールドワークを実施して、インバウンドガイド体験をし、ガイド業務内容を理解出来る様にする 							

授業計画・内容	
1回目	前期の復習:前期で学んだ英語表現を用いて、グループごとにロールプレイングを実施することができる。
2回目	日本をプレゼン①:外国人観光客が日本に求めることを調べてまとめ、英語でプレゼンテーションをすることができる。
3回目	日本をプレゼン②:外国人観光客が日本に求めることを調べてまとめ、英語でプレゼンテーションをすることができる。
4回目	日本をプレゼン③:外国人観光客が日本に求めることを調べてまとめ、英語でプレゼンテーションをすることができる。
5回目	eメールでのやりとり:インバウンド観光客とのeメールのやり取りについて、基本的な英語フレーズを理解し使用することができる。
6回目	お土産を勧めよう①:観光客へ日本ならではのお土産を購入してもらうため、英語で適切に商品説明をすることができる。
7回目	お土産を勧めよう②:観光客へ日本ならではのお土産を購入してもらうため、英語で適切に商品説明をすることができる。
8回目	雑談力アップのコツ:旅行中の観光客との雑談をテーマにロールプレイングを実施することができる。
9回目	空港にて①:空港で到着/出発する観光客を英語で案内することができる。
10回目	空港にて②:キャビンアテンダントやグランドスタッフが使用する英語を理解できる。
11回目	インバウンドツアープランニング①:国内の観光地を一箇所選び、インバウンド観光客向けにツアーを企画することができる。
12回目	インバウンドツアープランニング②:作成したツアーの広告、宣伝を英語で作成することができる。
13回目	インバウンドツアープランニング③:作成したツアー内容を英語でプレゼンすることができる。
14回目	これまで学んだ内容を確認し、問われる質問に対して的確な返答ができるようになる。
15回目	これまで学んだ内容について、各自の理解度と課題を確認することができる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点~70点をB、69点~60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10%+ 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・筆記試験50点 ・課題レポート50点
受講生へのメッセージ	国際観光、インバウンドが急成長している中、普通に外国人を多く見かけ、質問される機会が増えています。日本を知ってもらう事と、外国を知る事の両方が必要です。また語学力も必要です。この授業ではこれらを学習し、簡単な英語で外国人をおもてなし出来る事を体験、目標とします。学習方法(授業と自宅)をお知らせしますので、楽しいおもてなしの技術を身につけましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
スピードマスター 1時間でわかる インバウンド対策 訪日外国人のおもてなしはこれで決まり!(日本語) ゼロからスタート英語ボランティア 観光ガイド編(日本語)	

授業シラバス

科目名 (英)	旅行観光Ⅱ (旅程管理主任者Ⅰ) Tour Conductor License I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

株式会社オリエントツーリストに入社。カウンター販売・旅行企画・営業・添乗を経験。現在は株式会社TEIIに派遣登録し、旅行会社各社にて添乗・受付・営業補佐など、旅行業界の色々な分野を担当する。専門学校や大学などで国家資格・旅行業務取扱管理者資格取得講座を担当

【授業の学習内容】

- ・大まかな旅行業・添乗員の地位と役割を理解し、旅行業界用語と打合せの手順を習得する。
- ・実際のバスツアー参加やJRツアーの受付現場見学し、自分で添乗業務をしているイメージをつかむ。
- ・お客様に楽しんでいただくための各種案内・誘導方法を身に付け正しく理解し業務に活かす。

【到達目標】

国内旅程管理主任者(通称:ツアーコンダクター)として添乗業務内容の把握と必要知識の取得

添乗員に限らず、サービス業に携わる者としてのリーダーシップ、現場力や即戦力を養います。

授業計画・内容

1回目	ガイドンス	・添乗員(正式名称:国内旅程管理主任者)の役割と仕事内容を知る。 ・募集型企画旅行 通称:パッケージツアーでの添乗員の仕事を知る
2回目	受付	・バス添乗での受付・集合の流れを理解します。・乗務員との打ち合わせ時の留意点を確認します。 ・出発までの注意点やよくあるトラブルについて学びます。
3回目	出発あいさつ	・バス出発後の車内業務の流れを理解します。・ツアーのリーダーとしての車内挨拶のポイントを確認します。 ・出発の挨拶原稿を作成します。(出発挨拶の原稿なし実施を目指します。)
4回目	観光地案内	・観光地到着前の車内案内のポイントを確認します。 ・観光地での業務の流れと誘導方法を理解します。(出発挨拶の原稿なし実施を目指します。)
5回目	誘導練習① (校外授業)	・徒歩誘導の練習に出かけます。 ・屋外誘導のポイントに留意し、実践する。
6回目	振り返り	・練習での成功点や改善点を確認します。 ・バス研修などの実践に活かせるよう共有します。
7回目	食事・立寄り	・食事・立寄り施設到着前の車内案内のポイントを確認します。 ・観光地での業務の流れと誘導方法を理解します。
8回目	復路	・解散場所到着前の車内業務の流れを理解します。 ・ツアーのリーダーとしての車内挨拶のポイントを確認します。
9回目	受付(JR編)	・バス添乗での受付との違いを理解します。・受付業務の留意点を確認します。 ・出発までの注意点やよくあるトラブルについて学びます。
10回目	誘導練習② (校外授業)	・新大阪駅での受付・誘導の練習に出かけます。 ・屋内受付・誘導のポイントに留意し、実践する。
11回目	振り返り	・練習での成功点や改善点を確認します。 ・バス研修などの実践に活かせるよう共有します。
12回目	打合せ①	・今まで学んだ旅行中の業務を考えて打合せの重要性を確認します。 ・クーポン券とパウチャーの違いと使用方法を理解します。
13回目	打合せ②	・今まで学んだ旅行中の業務を考えて各種関係機関への確認連絡の重要性を確認します。 ・各種関係機関への確認連絡の方法を理解します。
14回目		・知識習得の確認をします。
15回目	振り返り	・期末試験に備え、ご認識を正します。 ・バス研修などの実践に活かせるよう共有します。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10%+ **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・第5回・10回目で行う校外学習での演習と終了レポート(20点×2回) +
不定期実施朝の挨拶(10点) +
14回目期末試験(50点) 以上の合計100点とし、40%計算を行う

受講生への メッセージ

今や旅行は生活の中では外すことのできない行事です。
学生～職場～結婚～家族と立場や状況によって旅行タイプも様々で評価や求めるゴールも違います。
そんなお客様の様々な節目をお手伝いする旅行の仕事の先にはたくさんの笑顔が待っています。
お客様の旅を笑顔で終えるための様々なルールを正しく知り活用しましょう。
添乗員としてだけでなく、サービスに携わる業務に役立つことがたくさんあります。

【使用教科書・教材・参考書】

「旅程管理研修教本」 「添乗員のための旅行業法令と各種約款」

授業シラバス

科目名 (英)	旅行観光Ⅱ (旅程管理主任者Ⅱ) Tour Conductor License II	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	後期
【担当教員・実務者経験】							
株式会社オリエントツーリストに入社。カウンター販売・旅行企画・営業・添乗を経験。現在は株式会社TEIに派遣登録し、旅行会社各社にて添乗・受付・営業補佐など、旅行業界の色々な分野を担当する。専門学校や大学などで国家資格・旅行業務取扱管理者資格取得講座を担当							
【授業の学習内容】							
<ul style="list-style-type: none"> ・大まかな旅行業・添乗員の地位と役割を理解し、旅行業界用語と打合せの手順を習得する。 ・実際のバスツアー参加やJRツアーの受付現場見学し、自分で添乗業務をしているイメージをつかむ。 ・お客様に楽しんでいただくための各種案内・誘導方法を身に着け正しく理解し業務に活かす。 							
【到達目標】							
国内旅程管理主任者(通称:ツアーコンダクター)として添乗業務内容の把握と必要知識の取得 添乗員に限らず、サービス業に携わる者としてのリーダーシップ、現場力や即戦力を養います。							
授業計画・内容							
1回目	配車確認 集合知での業務に関して学びます。乗務員との打合せ時の留意点を確認します。						
2回目	休憩地での業務 出発後の業務について学ぶマス。業務の流れや気を付けるべき点を確認し練習します。						
3回目	観光地での業務① 旅程管理に関するポイントを学びます。観光地でのお客様への案内事項を練習します。						
4回目	観光地での業務② 旅程管理に関するポイントを学びます。観光地でのお客様への案内事項を練習します。						
5回目	確認電話 利用機関への確認電話をロールプレイングします。自信をもって電話をかけられるよう、確認事項をまとめます。						
6回目	確認電話(出発前作業) 利用機関へ実施に電話をし、手配内容の確認を行います。配布物やバス座席表などの準備をします。						
7回目							
8回目	終日バス研修/これまで学んだ内容について、実体験を通して確認することができる。						
9回目							
10回目	バス研修を終えて、学んだことが行かせたかどうか、改善点はないか振り返りを行うことができる。						
11回目	課題 添乗員に必要な旅行地理 日本国内の業務する可能性の高い観光地を確認し、調べ、課題として提出することができる。(旅程管理試験の出題範囲)						
12回目							
13回目	資格認定のための「旅程管理研修」 「業法・約款」「国内実務」2科目(修了テストあり)						
14回目							
15回目	旅程管理主任者試験について、理解度と各自の課題を確認することができる。						
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・第5回・10回目で行う校外学習での演習と終了レポート(20点×2回) + 不定期実施朝の挨拶(10点) + 14回目期末試験(50点) 以上の合計100点とし、40%計算を行う						
受講生へのメッセージ	今や旅行は生活の中では外すことのできない行事です。 学生～職場～結婚～家族と立場や状況によって旅行タイプも様々で評価や求めるゴールも違います。 そんなお客様の様々な節目をお手伝いする旅行の仕事の先にはたくさんの笑顔が待っています。 お客様の旅を笑顔で終えるための様々なルールを正しく知り活用しましょう。 添乗員としてだけでなく、サービスに携わる業務に役立つことがたくさんあります。						
【使用教科書・教材・参考書】							
「旅程管理研修教本」 「添乗員のための旅行業法令と各種約款」							

授業シラバス

科目名 (英)	資格試験講座Ⅰ (ホテルビジネス実務検定Ⅰ) Hotelier Proficiency Test Ⅰ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科名	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員・実務者経験】

高校卒業後に、単独NZに渡り、ホテルにて勤務。帰国後は、東京ディズニーランドで準社員として5年間Disneyサービスに触れ、サービスの真髄を学ぶ。退社後、ヒルトン大阪、ヒルトン東京ベイ、ヒルトン小田原リゾート&スパなどで、合計15年以上勤務。主に宿泊部フロント、ベル、コンシェルジュ業務、社内トレーニング業務、人材育成や、オーベルジュの支配人として職務に携わる。

【授業の学習内容】

ホテルの実務知識の体系的理解度を測定するための評価基準となる検定試験対策の講義。
ホテルビジネス基礎編のテキストを使用して、ホテルの基礎、宿泊部門の業務、料飲部門の業務、宴会部門の業務、調理部門の業務を学ぶ。
また、適宜小テストを行ない、講義内容の理解度を図る。

【到達目標】

ホテルビジネス実務検定試験(H検)での、ベーシックレベル2級合格を目指す。

授業計画・内容

1回目	ホテルの基礎1:世界の観光産業について説明できる
2回目	ホテルの基礎2:日本の観光産業について説明できる
3回目	ホテルの基礎3:ホテルの形態と組織について説明できる
4回目	ホテルの基礎4:サービスの基本と国際儀礼について説明できる
5回目	ホテルの基礎5:ホテルと旅行業の関連法規・概要について説明できる
6回目	ホテル英語1:基本会話表現を話すことができる
7回目	ホテル英語2セクション会話表現を話すことができる
8回目	宿泊部門業務1:宿泊商品の特性や、組織と業務役割を説明できる
9回目	宿泊部門業務2:宿泊約款と利用規則について説明できる
10回目	宿泊部門業務3:ホテル施設や設備を説明できる
11回目	宿泊部門業務4:ユニフォーム・サービス、フロント・オフィスの業務を説明できる
12回目	宿泊部門業務5:アシスタントマネージャー、コンシェルジュ、テレフォンオペレーター、ハウスキーピングの業務を説明できる
13回目	今学期学んだ内容について復習し、理解度を確認することができる
14回目	今学期学んだ内容について、問われる質問に的確な返答ができるようになる
15回目	学習内容の理解度を確認し、各自の課題を把握することができる

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40%を評価基準とする。
なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「ホテルビジネス実務検定試験に即した筆記試験の点数」とする。

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

使用教本:
ホテルビジネス ベーシックレベルテキスト 基礎編 *財団法人日本ホテル教育センター認定
ホテルビジネス-基礎編-練習問題集700選

授業シラバス

科目名 (英)	資格試験講座Ⅰ (ホテルビジネス実務検定Ⅱ) Hotelier Proficiency Test Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科名	ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	後期
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

高校卒業後に、単独NZに渡り、ホテルにて勤務。帰国後は、東京ディズニーランドで準社員として5年間Disneyサービスに触れ、サービスの真髄を学ぶ。退社後、ヒルトン大阪、ヒルトン東京ベイ、ヒルトン小田原リゾート&スパなどで、合計15年以上勤務。主に宿泊部フロント、ベル、コンシェルジュ業務、社内トレーニング業務、人材育成や、オーベルジュの支配人として職務に携わる。

【授業の学習内容】

ホテルの実務知識の体系的理解度を測定するための評価基準となる検定試験対策の講義。
ホテルビジネス基礎編のテキストを使用して、ホテルの基礎、宿泊部門の業務、料飲部門の業務、宴会部門の業務、調理部門の業務を学ぶ。
また、適宜小テストを行ない、講義内容の理解度を図る。

【到達目標】

ホテルビジネス実務検定試験(H検)での、ベーシックレベル2級合格を目指す。

授業計画・内容

1回目	料飲商品の特性、組織と業務役割/ 基本知識:業種・業態の知識 施設・設備・備品の知識を身に付けることができる。
2回目	食材・飲材の基礎知識を学ぶことができる。
3回目	メニューの基礎知識を理解することができる。
4回目	サービス方法、食品衛生の知識、苦情処理と緊急対応を学ぶことができる。
5回目	主な担当者の業務を理解することができる。
6回目	宴会商品の特性、組織と業務役割/ 基本知識:宴会の種類、施設・設備・備品の知識を学ぶことができる。
7回目	サービス方法、冠婚葬祭の基本知識、プロトコルを理解することができる。
8回目	基本知識:宴会約款/ 主な担当者の業務を理解することができる。
9回目	調理部門の特性、組織と業務役割/ 基本知識:調理の種類と特徴を理解することができる。
10回目	施設・設備・備品の知識、調理の方法、西洋料理の基本知識(基本ソース・基本スープ)を理解することができる。
11回目	西洋料理の基本(魚介料理・肉料理・鳥(家禽)料理・野鳥獣料理)を理解することができる。
12回目	西洋料理の基本(サラダ料理・フロマージュ・甘味料理・パン・コーヒー紅茶)を学ぶことができる。
13回目	基本知識:顧客志向、食品衛生の知識/ 西洋料理の主な担当者の業務を理解することができる。
14回目	検定合格にむけて苦手分野を確認することができる。
15回目	検定にむけて復習することができる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40%を評価基準とする。
なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「ホテルビジネス実務検定試験に即した筆記試験の点数」とする。

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

使用教本:
ホテルビジネス ベーシックレベルテキスト 基礎編 *財団法人日本ホテル教育センター認定
ホテルビジネス-基礎編-練習問題集700選

授業シラバス

科目名 (英)	資格試験講座Ⅱ (サービス介助士) Care-Fitter	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	総授業数 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限
【担当教員 実務者経験】						
公益財団法人 日本ケアフィット共育機構にてサービス介助士資格インストラクターとして、運輸業界・宿泊業界・流通業界等多くの業界専用講座や一般講座を担当。						
【授業の学習内容】						
お客様の立場に立って考え、行動するための「ホスピタリティ・マインド」の気づきと「ノーマライゼーション」の考え方を理解する。 お客様に安全で安心できる「介助」を提供できるよう、介助の知識を身につけます。						
【到達目標】						
7/18-19(土日)心齋橋での実技教習(2日間 9:30~17:00)に出席・受講し、サービス介助士資格の取得を目指す。						
授業計画・内容						
1回目	ガイダンス・サービス介助士とは 超高齢社会である日本の現状を知り、サービス介助士の必要性を考える。事前課題についての説明。					
2回目						
3回目	ホスピタリティ・ノーマライゼーション ホスピタリティマインドを理解する。ノーマライゼーションを知り、必要性を理解する。					
4回目						
5回目	高齢者の理解と介助・ジェロントロジー 高齢者の身体的特徴などの理解を深め、機能低下に対する介助方法を知る。ジェロントロジーの考え方を理解する。					
6回目						
7回目	障がい者への理解と介助① 車いす使用者の概要と介助方法について理解する。聴覚障がい者の概要の理解と不便さを知り、コミュニケーション方法を学ぶ。					
8回目						
9回目	障がい者への理解と介助② 視覚障害の概要を理解し、不便さを知るとともに安全な誘導方法について学ぶ。その他の障害について学ぶ。					
10回目						
11回目	障がい者の自立支援 実技教習について 身体障害者補助犬法の理解とユニバーサルデザインについて知る。事前課題の復習と実技教習についての案内。					
12回目						
13回目						
14回目	公益財団法人日本ケアフィット共育機構大阪事務所(心齋橋)での実技教習を受講して、資格取得する。					
15回目						
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点~70点をB、69点~60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。					
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・提出物(事前課題)及び準備物(受講票) 50% ・資格取得 50%					
受講生への メッセージ	多くの業界で導入されているサービス介助士の学びを身につけ、どんなお客様にも対応ができる人材になりましょう。 仕事において大切な学びであることはもちろんですが、日常生活においても役に立つ学びです。					
【使用教科書・教材・参考書】						
サービス介助士 教材一式						

授業シラバス

科目名 (英)	資格試験講座Ⅱ (サービス接遇Ⅰ) Hospitality ProficiencyⅠ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	総授業数 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

株式会社大丸に入社。人事部採用係とサービス企画推進部に所属しサービスの向上と人材教育に携わる。現在はフリーランスで研修講師として企業で新入社員研修、ビジネスマナー研修、接客研修などを実施。学校では授業(接客、ビジネスマナー、キャリア)、就職活動対策講座、資格対策講座を担当する。

【授業の学習内容】

この授業は社会人として必要なサービス接遇の実践的な知識を身につけ、即戦力として求められる人材になること目指します。「サービスとは何か」「接客とは何か」の理解を深め、ビジネス社会における円滑なコミュニケーションの築き方を学びます。また相手への「思いやりの心」を伝えるという接客の技法を具体的に身につけて学びます。

【到達目標】

知識だけでなく体現することを目指す。接客を通して良好なコミュニケーションを取ることができる、状況に応じて好印象を与えることができるようになる。サービス接客検定2級資格取得をする。

授業計画・内容

1回目	(ガイダンス)授業の進め方、受け方と評価について説明する。サービス接客検定の概要について確認する。人前で話すことを意識し自己紹介をする。
2回目	(サービススタッフの資質(1))明るさと誠実さとは何か。適切な判断と表現、身だしなみの重要性を理解できるようになる。身だしなみは次回以降で整理する。
3回目	(サービススタッフの資質(2))良識を持った素直な態度、協調性のある行動、清潔感についての理解を学び普段の行動に活かすことができる。
4回目	サービススタッフの資質の範囲からミニ筆記試験を実施する。解答解説し間違い箇所を確認する。
5回目	(専門知識(1))サービスの意義と機能、種類を学ぶ。グループワークを実施し内容を深めることができる。
6回目	(専門知識(2))流通の仕組み、商業と経済の用語を学び、グループワークを実施し用語確認する。
7回目	専門知識の範囲からミニ筆記試験を実施する。解答解説し間違い箇所を確認する。
8回目	一般知識を学習後、ミニ筆記試験を実施する。解答解説し間違い箇所を確認する。
9回目	(対人技能(1))人間関係の重要性、顧客心理の理解、訪問のマナー、席次を学び日常生活に活かすことができる。
10回目	(対人技能(2))敬語、接客用語を学ぶ。知識のみだけでなく敬語を話せるように実技を取り入れ、接客時に活用することができるようになる。
11回目	対人技能の範囲からミニ筆記試験を実施する。解答解説し間違い箇所を確認する。
12回目	(実務技能(1))苦情対応の基本、掲示文の書き方の基本を学ぶ、ビジネス文書の用語に慣れ、日常でも使うことができるようになる。
13回目	(実務技能(2))慶弔を学び、水引、上書きの種類と書き方を学び実技を取り入れる。
14回目	実務技能の範囲からミニ筆記試験を実施する。解答解説し間違い箇所を確認する。
15回目	(授業総括)前期を振り返り総復習する。感じ良く他者に伝えることを意識しながら発表し自己成長を確認することができる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。

・ミニ筆記試験5回実施し、実技評価とする。

受講生へのメッセージ

思いやりの心や気持ちをもっていても伝えないと分からないものです。「伝えたい」から「伝える」ことを学び、社会に出る時に自分の強みになるよう身につけていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

「らくらく合格！サービス接客検定2級+準1級 集中レッスン&問題集」 著者：川村みどり 発行所：(株)ナツメ社

授業シラバス

科目名 (英)	ディーリング (カジノディーリング I) Casino Dealing I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分	曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

ラスベガス・ディーラースクールと韓国7LUCKカジノでディーリングトレーニングを修了した後、シンガポール・マリーナベイサンズのカジノに勤務。
 大阪観光大学および神戸山手大学のツーリズムプロデューサー養成講座の客員教授。トラジャル旅行ホテル専門学校のカジノマナー講座の非常勤講師を歴任。
 日本カジノスクール大阪校のマネージャーとして世界基準のカジノディーラー人材教育とスクール運営。(著書:「IRの有効性とカジノの本質」)
 大阪府と地元企業のIR関連アドバイザー支援(大阪府議会・IR代表質問の作成補助、地元企業のIR参画「大阪IR推進100社会」広報担当)

【授業の学習内容】

・海外事例にみるIR(統合型リゾート)の有効性
 ・世界のカジノの歴史と文化
 ・日本IRの有効性(法律・制度設計・開発計画)
 ・カジノの本質とレスポンスブルゲーミング
 ・カジノディーリング実技(基礎・ブラックジャック・バカラ・ルーレット・ポーカー)
 ・カスタマーサービス

【到達目標】

世界で通用するカジノディーリング技術と知識の習得。日本のIRを正しく理解することで将来のIRビジネスへのビジョンを持つこと。

授業計画・内容

1回目	IR講義: オリエンテーション、海外IRの成功事例と有効性、世界のカジノの歴史と文化、近隣アジアのIR事例、日本IRの法制化と開発計画
2回目	IR講義: カジノの本質とレスポンスブルゲーミング、カジノディーラーの心得、カジノの組織体系とオペレーション、大阪IR・地元企業の取り組み
3回目	カジノマナー体験: ブラックジャック/ルーレットのテーブルマナーとゲームルールを学ぶことができる
4回目	カジノマナー体験: バカラ/ポーカーのテーブルマナーとゲームルールを学ぶ
5回目	カジノディーリング実技: 基礎(カードシャッフル、マルチデックシャッフル/チップワーク、ドロップカット、サイジング)を習得できる
6回目	カジノディーリング実技: 基礎(キャッシュチェンジ、カラーチェンジ/クロージングテーブル)を習得できる
7回目	カジノディーリング実技: ブラックジャック(基礎)を習得できる
8回目	カジノディーリング実技: ブラックジャック(基礎)を習得できる
9回目	カジノディーリング実技: ブラックジャック(応用)を習得できる
10回目	カジノディーリング実技: ブラックジャック(応用)を習得できる
11回目	カジノディーリング実技: ブラックジャック(総合)を習得できる
12回目	カジノディーリング実技: ミディバカラ(基礎)を習得できる
13回目	カジノディーリング実技: ミディバカラ(基礎)を習得できる
14回目	これまで学んだ内容について問われた質問に的確な返答ができるようになる
15回目	映画鑑賞「バグジー」(1991年:150分)を通して、学習内容についての理解度を確認することができる

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
 ・前期試験: 実技試験(30問)
 ・後期試験: 筆記試験(いずれか1ゲーム)

受講生への メッセージ

IR(統合型リゾート)は近い将来日本に誕生する新規産業であり、カジノディーラーは日本で初めて誕生する特殊技能職です。
 IRの有効性とカジノの本質をしっかりと理解し、楽しくディーリングを学んでください。

【使用教科書・教材・参考書】

講師が用意するハンドアウト資料、プレイングカード(1人に1デッキ配付)

授業シラバス

科目名 (英)	ディーリング (カジノディーリングⅡ) Casino Dealing Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分	曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

ラスベガス・ディーラーズスクールと韓国7LUCKカジノでディーリングトレーニングを修了した後、シンガポール・マリーナベイサンズのカジノに勤務。
 大阪観光大学および神戸山手大学のツーリズムプロデューサー養成講座の客員教授。トラジャル旅行ホテル専門学校のカジノマネー講座の非常勤講師を歴任。
 日本カジノスクール大阪校のマネージャーとして世界基準のカジノディーラー人材教育とスクール運営。(著書:「IRの有効性とカジノの本質」)
 大阪府と地元企業のIR関連アドバイザー支援(大阪府議会・IR代表質問の作成補助、地元企業のIR参画「大阪IR推進100社会」広報担当)

【授業の学習内容】

・海外事例にみるIR(統合型リゾート)の有効性 ・世界のカジノの歴史と文化 ・日本IRの有効性(法律・制度設計・開発計画)
 ・カジノの本質とレスポンスブルゲーミング ・カジノディーリング実技(基礎・ブラックジャック・バカラ・ルーレット・ポーカー) ・カスタマーサービス

【到達目標】

世界で通用するカジノディーリング技術と知識の習得。日本のIRを正しく理解することで将来のIRビジネスへのビジョンを持つこと。

授業計画・内容

1回目	カジノディーリング実技: ミディバカラ(応用)を習得できる
2回目	カジノディーリング実技: ミディバカラ(応用)を習得できる
3回目	カジノディーリング実技: ミディバカラ(総合)を習得できる
4回目	カジノディーリング実技: ルーレット(基礎)を習得できる
5回目	カジノディーリング実技: ルーレット(基礎)を習得できる
6回目	カジノディーリング実技: ルーレット(応用)を習得できる
7回目	カジノディーリング実技: ルーレット(応用)を習得できる
8回目	カジノディーリング実技: ルーレット(総合)を習得できる
9回目	カジノディーリング実技: テキサスホールデムポーカー(基礎)を習得できる
10回目	カジノディーリング実技: テキサスホールデムポーカー(応用)を習得できる
11回目	カジノディーリング実技: テキサスホールデムポーカー(総合)を習得できる
12回目	カスタマーサービス: ブラックジャック/ルーレットを習得できる
13回目	カスタマーサービス: ミディバカラ/テキサスホールデムポーカーを習得できる
14回目	これまで学んだ内容を復習し、問われる質問に的確な返答ができるようになる
15回目	映画鑑賞「ラスベガスをぶっつぶせ」(2008年:123分)を通じて、学習内容の理解度を確認することができる

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
 ・前期試験: 実技試験(30問)
 ・後期試験: 筆記試験(いずれか1ゲーム)

**受講生への
メッセージ**

【使用教科書・教材・参考書】

講師が用意するハンドアウト資料、プレイングカード(1人に1デッキ配付)

授業シラバス

科目名 (英)	外国語 I (英会話Ⅲ) General English I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科名	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員・実務者経験】

高校卒業後に、単独NZに渡り、ホテルにて勤務。帰国後は、東京ディズニーランドで準社員として5年間Disneyサービスに触れ、サービスの真髄を学ぶ。退社後、ヒルトン大阪、ヒルトン東京ベイ、ヒルトン小田原リゾート&スパなどで、合計15年以上勤務。主に宿泊部フロント、ベル、コンシェルジュ業務、社内トレーニング業務、人材育成や、オーベルジュの支配人として職務に携わる。

【授業の学習内容】

日常生活や、ビジネスなどの様々な場面で使える頻度の高いコミュニケーション英語を学ぶ。

【到達目標】

様々な場面で出てくるトピックに関して、自信を持って話せるようになる。

授業計画・内容

1回目	ビジネス電話でのリクエスト対応や、情報提供が出来るようになる
2回目	ビジネス電話での取次や、メッセージのやり取りが出来るようになる
3回目	クレームについての文化の違いを学ぶ
4回目	対面でのクレーム処理が出来るようになる
5回目	ビジネス電話でのクレーム処理が出来るようになる
6回目	電話での部屋の予約とレストランの予約を受けることが出来るようになる。
7回目	外貨両替についての英語でのやり取りが出来るようになる
8回目	クレジットカード会社とのやり取りを学ぶ
9回目	支払に関しての対応が出来るようになる
10回目	様々なエージェントとのやり取りを総括的に学ぶ
11回目	英語を使ったロールプレイを通じて、これまで学んだ内容を再確認することができる
12回目	英語を使ったロールプレイを通じて、学習内容の理解度を確認することができる
13回目	英語を使ってディベートができるようになる
14回目	これまで学んだ内容を復習し、問われる質問に的確な返答ができるようになる
15回目	これまで学んだ内容を再確認し、次の学期の学習に向けて各自の課題を明確にすることができる

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「プレゼンテーション」とする。

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルテキスト

授業シラバス

科目名 (英)	外国語 I (実践英会話Ⅲ) Practical English III	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科名	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員、実務者経験】

高校卒業後に、単独NZに渡り、ホテルにて勤務。帰国後は、東京ディズニーランドで準社員として5年間Disneyサービスに触れ、サービスの真髄を学ぶ。退社後、ヒルトン大阪、ヒルトン東京ベイ、ヒルトン小田原リゾート&スパなどで、合計15年以上勤務。主に宿泊部フロント、ベル、コンシェルジュ業務、社内トレーニング業務、人材育成や、オーベルジュの支配人として職務に携わる。

【授業の学習内容】

授業の内容は説明とプレゼンテーションの準備方法です。テキスト、フォーマット、視覚教材など。学生は自分でプレゼンテーションを作成し、定期的にそれらを練習し、そして毎週オンライン課題を提出します。最終発表は各学生が行います。ビデオ、オンラインタスク、プレゼンテーション資料など、さまざまな資料がレッスンで使用されます。

【到達目標】

このクラスの目的は、生徒が自信を持ってプレゼンテーションをする経験を積むことです。この経験を積むことにより、公の場で話し、ゲストに情報を提供する準備をします。

授業計画・内容

1回目	これから学ぶ全体的な学習内容を理解し、各自現在の課題を確認することができる
2回目	英語プレゼンテーションの動画視聴: 英語での効果的なプレゼンテーションとは何かを理解できる
3回目	英語プレゼンテーションを行う上での基本的な姿勢と語彙を学ぶ
4回目	英語自己PRの作成に必要なプレゼンテーションの構造と語彙を学ぶ
5回目	英語自己PRを作成・準備し発表することができる
6回目	英語自己PRを発表し、互いに必要項目について評価し合うことができる
7回目	出身地紹介の作成に必要なプレゼンテーションの構造と語彙を学ぶ
8回目	出身地紹介を作成・準備し発表することができる
9回目	出身地紹介を発表し、互いに必要項目について評価し合うことができる
10回目	オススメ商品PRの作成に必要なプレゼンテーションの構造と語彙を学ぶ
11回目	オススメ商品PRを作成・準備し発表することができる
12回目	オススメ商品PRを発表し、互いに必要項目について評価し合うことができる
13回目	英語でプレゼンテーションをするための基本的なテクニックを確認し、手法を理解することができる
14回目	これまで学んだ内容について復習し、問われた質問に的確な返答ができるようになる
15回目	これまで学んだ内容について確認し、次の学期の学習に向けて各自の課題を確認することができる

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「プレゼンテーション」とする。

受講生へのメッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルテキスト

授業シラバス

科目名 (英)	ホスピタリティヒューマンズスキル (キャリアプログラムⅢ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
	Career ProgramⅢ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科名	IR・ホテル&リゾート科				2	曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

高校卒業後に、単独NZに渡り、ホテルにて勤務。帰国後は、東京ディズニーランドで準社員として5年間Disneyサービスに触れ、サービスの真髄を学ぶ。退社後、ヒルトン大阪、ヒルトン東京ベイ、ヒルトン小田原リゾート&スパなどで、合計15年以上勤務。主に宿泊部フロント、ベル、コンシェルジュ業務、社内トレーニング業務、人材育成や、オーベルジュの支配人として職務に携わる。

【授業の学習内容】

ワークブックとテキストを使用しながら、コミュニケーションの技法を学んでいく。事前学習⇒演習⇒グループ討論⇒振り返りの順に行い、皆が取り組むようにする。

【到達目標】

コミュニケーション力ををあげるため、様々なワークを行いながら“自分自身”・“対話相手”を考えて対応ができるようになる。またその学びから接客対応につなげていく。

授業計画・内容

1回目	【授業内容の説明】テキストとワークブックの使用説明、授業内容を説明し、この授業の目的を理解することができる。
2回目	【伝達ゲーム】言葉だけで伝えることの難しさを実感し、伝え方の見直しをすることができる。
3回目	【ブレインストーミング・KJ法①】前回の振り返りを行う。ブレインストーミングとKJ法を使い、グループ討論を実際に行っていく。
4回目	【ブレインストーミング・KJ法②】前回の振り返りを行う。ブレインストーミングとKJ法を使い、前回の技法の復習も含め、グループ討論を実際に行っていく。
5回目	【ブレインストーミング・KJ法③】前回の振り返りを行う。ブレインストーミングとKJ法を使い、前回の技法の復習も含め、付箋の使用を無しでグループ討論を実際に行っていく。発表につなげることで、考え方は一つではないことを実感することができる。
6回目	【聞き上手の技法】自己紹介を行い、聞き方はどうだったかをお互いに評価し合うことで、相手の受け取り方、自分の態度を改めることができる。
7回目	【話し上手の技法】話し上手とはどのようなことをいうのか。グループワークを行い、「話し上手」の態度を探し出し、普段の自分と比べて態度を改めることができる。
8回目	【説得上手の技法①】説得はどのように行えば気持ちよく話を受け入れられる態度となるのかを考えながらグループワークを行うことができる。
9回目	【説得上手の技法②】前回の授業を振り返り、説得上手の姿勢で、他のグループを説得する「売り込みゲーム」を行い、どの姿勢が良かったのか検証することができる。
10回目	【読み上手①】技法を学び、文章をうまく読む方法をつかむことができる技法を学ぶ。
11回目	【読み上手②】技法を学んだ上で、課題を読み感想を記入する。以前の読み方とどのような変化があったか検証することができる。
12回目	【読み上手③】課題の感想「なぜそこに惹かれたのか」を発表し合い、様々な意見があり、読む人によって感じ取り方が異なることを理解することができる。
13回目	【自己PR①】ブレインストーミング・KJ法を振り返る。技法を使い、自己PRを考える。
14回目	【自己PR②】自己PRを行い、相手に「自分はどんな人間なのか」をテーマを付けて発表。相手の良いところを発見することができる。「自分が努力してきたこと」について次回までに考える。
15回目	【自己PR③】「自分が努力してきたこと」の課題について相手に発表し、良かったポイントを評価してもらい、授業の学びから自分の成長を発見することができる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業においての 技術評価 は、以下の割合にておこなう。

・最終課題評価 + ノート提出の仕上がり

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルテキスト

授業シラバス

科目名 (英)	ビジネス (就職対策Ⅰ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員
	Employment Support I	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30	開講区分
学科名	IR・ホテル&リゾート科			2	曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

株式会社キーエンスで西日本1位になった営業力を駆使し、希望企業から内定獲得させる「内定獲得塾」を15年間主宰している

【授業の学習内容】

あり方(リーダーシップ・分かち合える人財)・やり方(マーケティング)・読み方(時流把握)・届け方(面接力)の4つの力を高め、希望企業から内定獲得させる講座

【到達目標】

「企業が学生を選ぶのではなく、学生が企業を選ぶのだ」という当たり前のことを理解してもらい、講座参加者全員が希望企業から内定獲得することを目指す

授業計画・内容

1回目	(オリエンテーション)就職活動とは何か?についてグランドルールを理解
2回目	はたらくとはどういうことなのか～安楽の欲求と充実の欲求について学び、充実感ある社会人像とは何か知る
3回目	就職活動のツボとコツ(一次面接・二次面接・最終面接の違い)を伝授することで、就職活動対策力が上がる
4回目	キャッチコピーを鍛えることで一次面接突破力を高める
5回目	傾聴力を鍛えることで、一次面接突破力を高める
6回目	企業が求める8要素を伝授することで、ロールモデルが明確になる
7回目	説明会必勝法を伝授することで、就活力が高まる
8回目	自立型姿勢を伝授することで、一人ひとり就活におけるメンタルが鍛えられる
9回目	チャンス会議を行うことで、どんな事象もプラスに解釈できるだけではなく、他喜力も高まる
10回目	自己分析法を伝授することで、今までの体験がまとまり、面接力が高まる
11回目	「伝える⇒伝わる15箇条」を学ぶことで、伝達力が得られる
12回目	「伝える⇒伝わる15箇条」を活かした自己PRの作り方を得られる
13回目	自己PR発表ができるようになることで、就職力が高まる
14回目	志望動機・トラップトークなど面接で通過するための手法を教えるだけでなく、面接100質問について教え、答えられるように導く
15回目	面接会を開催し、面接力を高めるだけでなく、今後の就職力を高める戦略も伝授。その他、質疑応答に答える

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。

・「課題提出と小テストの完成度」

受講生へのメッセージ

「就職活動が人生の中で一番楽しい」。私や私の15年間行っている塾生の言葉である。それは、就職活動において、希望企業から内定をもらえたからである。では、「どうすれば、希望企業から内定獲得できるようになるのか?」それは、就職活動を早く始めた人であることだ。もっと言えば、本番面接を早く受けてきたからだ。「時間は有限だが、時間の使い方は無限大」という言葉があるように、この就職活動という限られた時間を最大限活かして、自分が行きたい企業からの内定を獲得してほしい。そして、最後に「就職活動が人生の中で一番楽しい」と全員が言えるように、みんなで成長していきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	ビジネス (電話対応 I)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員
	Telephone Reception I	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30	開講区分
学科名	IR・ホテル&リゾート科				2	曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

関西電力株式会社に入社。コールセンター実務を経て社内講師として指導に携わる。本社人事部門に移動後は社員教育・採用全般に携わる。2002年からマナー・コミュニケーション講師としての活動を開始。独立後の現在は年間200件を超える企業研修を担っている。日本電信電話ユーザ協会講師として電話対応コンクール指導やコンクール審査員を務める。コンクール指導においては、全国大会出場者を多数輩出する実績を持つ。また、日本マナー・プロトコール協会初の認定講師としても活動。インバスケカードゲーム認定トレーナー、メンタルヘルスマネジメント検定 I 種講師としても活動する。大学・専門学校非常勤講師。

【授業の学習内容】

業種、業界問わず、社会人になくはならないビジネススキルの一つに電話対応スキルがある。取引先やお客様との電話対応を正確、迅速、丁寧に行うことができれば、企業イメージの向上につながり、CS実現にもつながる。当授業は、ビジネスにおける電話対応の重要性や具体的な知識・スキル・マインドを学び、習得するものである。講義に加え、音声トレーニング、電話対応ロールプレイングを行うことにより、自身の電話対応に自信をつけることができ、就職活動や社会人生活におけるキャリア形成にも役立てていただける。

【到達目標】

- ・電話対応の重要性を理解し、好印象を与える電話対応が実践できるようになる。
- ・就職活動や今後の社会人生活をより有意義なものにする「電話対応知識・スキル・マインド」を学び、自信をもって振る舞えるようになる。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーションにより、授業の目的、進め方等を理解できる。電話の特性を知るとともに、自分の声を知ることができる。発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現の重要性を知り、説明できるようになる。
2回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる。口癖改善の重要性、第一印象の重要性、電話対応の基本マナー、掛け方と受け方の注意点について説明できるようになる。オープニング練習により電話対応の第一印象が磨かれ、自信を持った対応ができるようになる。
3回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる。言葉遣いについて正しい知識を持つとともに、適切な言葉を活用できるようになる。
4回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる。就職活動時の電話対応マナーについて理解するとともに、企業からの受電対応練習、メモの練習、企業に問い合わせをする際の架電対応練習をすることで就職活動時の電話対応が磨かれ、自信を持った対応ができるようになる。
5回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる。担当者不在時の対応ポイントと、伝言メモの書き方を理解したうえで、基本の取次対応練習、担当者不在時の対応練習をすることで、取次ぎ・伝言対応ができるようになる。
6回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる。受電対応総合練習と発表をすることで、電話対応スキルが磨かれ、自信を持った対応ができるようになる。
7回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる。コミュニケーションの重要性、電話における観察スキル、傾聴スキル(相づち、復唱、共感)のポイントの説明ができるようになる。傾聴練習を通じて、傾聴スキルを高め、自信を持った対応ができるようになる。
8回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる。質問スキル(クローズ質問、オープン質問)、説明スキル(わかりやすい話し方、好印象の話し方)のポイントを説明できるようになる。質問・説明練習を通じて、質問スキル、説明スキルを高め、自信を持った対応ができるようになる。
9回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる。問い合わせを受ける際の対応ポイントおよび問い合わせをする際の対応ポイントを説明できるようになる。問い合わせ対応練習を通じて、問い合わせに対応するスキルを高め、自信を持った対応ができるようになる。
10回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる。架電対応総合練習と発表をすることで、電話対応スキルが磨かれ、自信を持った対応ができるようになる。
11回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる。携帯電話のマナーを知り、正しいマナーで行動できるようになる。クレーム対応(クレームの定義、お客様心理、クレームの基礎知識、クレームが企業に与える影響)のポイントについて説明できるようになる。
12回目	1～11回目の授業を振り返り、問われた内容に的確な返答ができるようになる
13回目	後期試験の振り返りにより、自身の強み・弱みを認識するとともに、弱みの改善ができる。発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる。クレーム対応(クレームの基礎知識、電話におけるクレーム対応フロー、オープニング)のポイントについて説明できるようになる。
14回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる。クレーム対応(気持ちを静める傾聴、謝罪の種類と使い分け、質問による現状把握、説明・提案による解決、クローズング)のポイントについて説明できるようになる。クレーム対応練習を通じて、クレーム対応スキルを高め、自信を持った対応ができるようになる。
15回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる。電話対応総合練習・発表により、総合的な電話対応スキルを習得し、自信を持った対応ができるようになる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は「筆記試験点数」とする。

受講生へのメッセージ

就職活動や就職後の社会人生活において、電話対応スキルは欠かせないビジネススキルです。当授業は、講義だけではなく、音声トレーニングやロールプレイング等、実技も多い授業ですので、確実にスキルを習得することができます。自身の成長に気づける楽しい授業ですので、是非、向上心を持ってご参加ください。

【使用教科書・教材・参考書】

講師作成テキスト

授業シラバス

科目名 (英)	ホスピタリティマナー (マナー・プロトコル I)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
	Manor protocol I	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科名	IR・ホテル&リゾート科				2	曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

関西電力株式会社に入社。コールセンター実務を経て社内講師として指導に携わる。本社人事部門に移動後は社員教育・採用全般に携わる。2002年からマナー・コミュニケーション講師としての活動を開始。独立後の現在は年間200件を超える企業研修を担っている。日本電信電話ユーザ協会講師として電話対応コンクール指導やコンクール審査員を務める。コンクール指導においては、全国大会出場者を多数輩出する実績を持つ。また、日本マナー・プロトコル協会初の認定講師としても活動。インバスケカードゲーム認定トレーナー、メンタルヘルスマネジメント検定I種講師としても活動する。大学・専門学校非常勤講師。

【授業の学習内容】

日本において長く継承されてきた礼儀作法・しきたり、国際儀礼として習得すべきプロトコル、ビジネスにおけるマナー等について、知識はもちろんのこと、意味や歴史を学ぶことで、「相手を尊重し、思いやる心」がより一層高まるとともに、目に見える「形」としてスムーズに表現できるようになると考える。当授業は、マナーやプロトコルを習得することで自身に自信をつけ、就職活動や社会生活におけるキャリア形成にも役立てていただける内容である。

【到達目標】

- ・相手を尊重し、思いやる心を持ち、その心を「立ち居振る舞い」や「言葉」で表現できるようになる。
- ・就職活動や今後の社会人生活をより有意義なものにする「マナー」や「プロトコル」を学び、自信をもって振る舞えるようになる。
- ・前・後期授業終了後、後期授業最終回に学内で実施するマナー・プロトコル検定3級にチャレンジし、納得のいく結果を出す。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション: 授業の目的、進め方等を理解できる。マナー・プロトコル検定3級の検定概要が理解できる。 マナーとは何か: 慶事・弔事の意味、マナー・エチケット・礼儀・作法の違い、マナーやプロトコルを学ぶ意義が説明できるようになる。
2回目	マナーの歴史と意味①: 日本の礼儀・作法の成り立ち、西洋のマナー、エチケットの成り立ちについて説明できるようになる。
3回目	マナーの歴史と意味②: アジアのマナーについて説明できるようになる。 確認テスト①: 序章・一章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる。国際人としてのプロトコル①: プロトコルの原則、具体的な席次例が説明できるようになる。
4回目	国際人としてのプロトコル②: 社交の場でのコミュニケーション、パーティの種類とマナー、挨拶・握手と紹介のマナーについて説明できるようになる。
5回目	国際人としてのプロトコル③: 外国人への贈り物、国旗の扱い、礼拝の場でのマナー、異文化コミュニケーション、日本の伝統文化について説明できるようになる。国旗掲揚ワークで掲揚方法を体感することにより、正しい国旗掲揚ができるようになる。
6回目	確認テスト②: 二章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる。 社会人に必要なマナー①: 第一印象の重要性、表情、挨拶、お辞儀、身だしなみ、立ち居振る舞い、敬語の種類と変換について説明できるようになる。
7回目	社会人に必要なマナー②: 敬語の注意点、敬称のつけ方、クッション言葉、聴き方の基本、話し方の基本について説明できるようになる。言葉遣いワークで正しい言葉遣いを徹底的に習得することにより、就職活動や社会人生活で適切な言葉が活用できるようになる。
8回目	社会人に必要なマナー③: 和装・洋装のマナーについて説明できるようになる。
9回目	社会人に必要なマナー④: 喜ばれる贈答、祝儀袋・不祝儀袋のマナーと使い方について説明できるようになる。祝儀袋・不祝儀袋ワークで表書きを練習することにより、正しく表書きできるようになる。
10回目	社会人に必要なマナー⑤: 手紙のマナーについて説明できるようになる。手紙作成ワークで書き方を練習することにより、正しく手紙が書けるようになる。
11回目	確認テスト③: 三章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる。 ビジネスシーンのマナー①: ビジスマナーの必要性、社会人の心構え、会社の仕組み、プロ意識、仕事の進め方、名刺の扱い方について説明できるようになる。名刺交換ワークで名刺交換を練習することにより、正しく名刺交換できるようになる。
12回目	ビジネスシーンのマナー②: 電話対応のマナー、トラブル対応、来客対応のマナーについて説明できるようになる。 電話対応・来客対応ワークで応対練習をすることにより、好印象な接客対応ができるようになる。
13回目	ビジネスシーンのマナー③: ビジネス文書のマナー、電子メールのマナーについて説明できるようになる。
14回目	1～12回目の授業を振り返り、問われた質問に的確な返答ができるようになる。自身の強み・弱みを認識する。
15回目	振り返りにより、自身の強み・弱みを認識するとともに、弱みの改善ができる。 確認テスト④: 四章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる。総合の振り返りおよび質疑応答をすることで、さらに自信を持ってマナーを実践できるようになる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は「筆記試験点数」とする。

受講生へのメッセージ

期末終了後にマナープロトコル3級検定を受験する授業です。合格することで自信につながり、就職活動時にもアピールができます。また、1年間かけてマナーを学ぶことで好印象を与えるマナーが実践できるようになります。

【使用教科書・教材・参考書】

マナー & プロトコルの基礎知識

授業シラバス

科目名 (英)	伝統文化 (書道Ⅰ・Ⅲ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
	Japanese calligraphy I	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科名	IR・ホテル&リゾート科				2	曜日/時限	
【担当教員、実務者経験】							
1983年より書家としての活動をはじめ。日展作家。他、外部展(読売展・理事、全関西展・招待、日本の書展・招待)等に出品中。							
【授業の学習内容】							
日本の伝統である、《書道》に触れ親しむことで、おもてなしの心と精神を養う。前期は、ボールペン字で《漢字と平仮名等》を正しく、美しく書けるようになる。縦書きは勿論、横書きにも取り組む。							
【到達目標】							
ボールペン字で、暑中見舞いの葉書、封筒、便箋の書き方。履歴書の書き方に取り組み、印刷文字に依らない《手書き》の基本を習得する。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション。自己紹介と学習内容の確認をすることができる
2回目	50音の練習：ひらがなの正しい書き方を学び、実践することができる
3回目	自身や知人の名前を正しい文字で書くことができるようになる
4回目	住所の正しい書き方を学び、正しい文字で書くことができるようになる
5回目	自分や知人の住所を正しい文字で書くことができるようになる
6回目	暑中見舞いの正しいフォーマットを理解できる
7回目	暑中見舞いを正しいフォーマットで書くことができるようになる
8回目	暑中見舞いを完成させ、投函することができる
9回目	封筒の書き方(表書き、裏書)を理解することができる
10回目	便箋の書き方(つづけ文字)を理解することができる
11回目	封筒と便箋への記入を正しい方法で実践できる
12回目	履歴書の正しい書き方を学ぶことができる
13回目	履歴書を正しく書くことができるようになる
14回目	学習内容を確認し、問われる質問に的確な返答ができるようになる
15回目	これまでの学習内容を復習し、各自の課題を確認することができる
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ◎ 演習課題:暑中見舞い(7/31投函予定)の完成度 50% ◎ 試験(9/18)課題:封筒(表裏)と便箋の書き方の完成度 50%
受講生へのメッセージ	スマホなどの普及で、世の中が便利になり、気持ちを言葉で伝えたりする手段としての【文字を書く】ということが少なくなっています。この授業では、【文字を美しく書く】ことを目標にしますが、上手く出来なくてもかまいません。上手く書こうとする姿勢を大切にします。心を落ち着けて、真剣に丁寧に取組んで欲しいです。そして、その先に人間的に少しでも大きくなって、おもてなしの心を養って欲しいです。
【使用教科書・教材・参考書】	
ペン字練習用箋(中村作生のオリジナル)	

授業シラバス

科目名 (英)	サービススキル (ウォーキング I) Walking & Posture I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員_実務者経験】

大学卒業後 株式会社りそな銀行へ入行。この頃から脚や身体の不調に悩まされる。その原因が無意識にとっていた自己流の姿勢や歩き方が原因と知り、「正しく立つ・歩く」ことにより脚が改善される。一般社団法人Cs'にてウォーキング講師の資格を取得し、2014年に独立。多くの人に「正しく立つ・歩く」ことで起きる健康面での変化や内面の変化、そして身だしなみの中には「姿勢や歩き方」が含まれることを伝えたく様々な企業様で研修も行う。現在、教室を軸に、イベント、セミナー等で幅広く活躍中。

【授業の学習内容】

「正しい姿勢・正しい歩き方」「立ち居振る舞い・所作」を学ぶ。外面と整えることは相手に対する思い遣りの気持ちを表すことであり、また見えない自分自身の心を整えるためでもあることを理解する。信頼感の与えられる人材を育てる。

【到達目標】

人前にでた際に自信を持って立ち居振る舞いが行えるよう、身だしなみを完璧に整えることができるようになる。身だしなみの中には「姿勢や歩き方・所作・表情」まで含まれることを理解しながら、360度どの角度から見られても印象の良い綺麗な立ち居振る舞いができるようになる。

授業計画・内容

1回目	講師自己紹介。学生自己紹介。なぜ「正しく立つ・歩く」「立ち居振る舞い」が大切かを「心×形の法則」と共に学び理解できるようになる。BEFORE写真として普段の姿勢を撮影。
2回目	正しい靴の履き方・脱ぎ方・姿勢作りのポイントを理解できるようになる。ウォーキングの前に動的ストレッチを行い、歩行に必要な筋肉の使い方を理解できるようになる。
3回目	姿勢・靴の履き方・脱ぎ方の復習。ウォーキングレッスンは下半身のポイント(着地方法・歩幅・つま先の角度・足首の曲げ伸ばし、膝・ふくらはぎの筋肉の使い方・骨盤の角度・位置・視線の置く位置)などを1つずつ丁寧に練習しながら、頭と身体で理解してできるようになる。前半の回数までは筋肉強化レッスンをを行うことで筋肉をより意識できるようになる。
4回目	
5回目	
6回目	動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングレッスンは下半身の意識するポイントから上半身の意識するポイント(腹筋の使い方・腕の正しい振り方・首の立て方・目線の置く位置)などをつけくわえて、トータル的に正しく美しい歩行ができるようになる。筋肉強化ウォーキングから通常ウォーキングへレベルアップをはかりできるようにする。
7回目	
8回目	途中経過として姿勢写真撮影を行い、折り返し時点での成長具合を確認。動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングは上半身の意識するポイントを比重を置きながら、トータルで正しく美しい歩行ができるようになる。スピードアップをしてもフォームが崩れないように筋肉を使いながら歩行ができるようになる。
9回目	動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングは上半身の意識するポイントを比重を置きながら、トータルで正しく美しい歩行ができるようになる。スピードアップをしてもフォームが崩れないように筋肉を使いながら歩行ができるようになる。
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	夏季休暇明け、試験日対策として総復習を行い、苦手な点を再度練習できるようになる。
14回目	これまでの学習内容を確認し、問われる質問に的確な返答ができるようになる
15回目	フィードバックを行い、試験でできていた点、できていなかった点を振り返る。姿勢のAFTER写真撮影をし、綺麗に作られるようになったか確認する。そして前期の総復習ならびに前期終えての感想、反省点など後期の目標を改めて落とし込み後期への意識を高めることができるようになる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・入退出時の挨拶・お辞儀が行えているかどうか プラスα ・姿勢作り・ウォーキングのポイントを意識して正しくできているかどうか 50%(筆記試験50%)
受講生へのメッセージ	ウォーキングを習うと聞くと、モデルさんや舞台上に立つ人だったり何か特別な人が習うものと感じていると思いますが、人間はみな二足歩行です。特別な人だけでなく「正しく立つ・歩く」知識や技術は皆さんも知る必要があります。私自身がそうだったように無意識にとっているその姿勢や歩き方が実はマイナスな印象にうつっていたり、身体の不調を引き起こす原因になっている可能性もあります。人前に立った際に、またどんなシーンにおいても好感の持てる人になるよう身につけていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書は適時、配布
持ち物:スニーカー(紐靴)・動きやすい服装・飲み物

授業シラバス

科目名 (英)	サービススキル (電話対応Ⅱ) Telephone Reception II	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員_実務者経験】

大学卒業後 株式会社りそな銀行へ入行。この頃から脚や身体の不調に悩まされる。その原因が無意識にとっていた自己流の姿勢や歩き方が原因と知り、「正しく立つ・歩く」ことにより脚が改善される。一般社団法人Csにてウォーキング講師の資格を取得し、2014年に独立。多くの人に「正しく立つ・歩く」ことで起きる健康面での変化や内面の変化、そして身だしなみの中には「姿勢や歩き方」が含まれることを伝えたく様々な企業様で研修も行う。現在、教室を軸に、イベント、セミナー等で幅広く活躍中。

【授業の学習内容】

日本電信電話ユーザ協会主催の電話対応コンクールは、電話対応の技術と心を競う伝統のある大会である。電話対応に力を入れる多くの企業が参加するこの大会に参加することで電話対応に関する知識やスキル・マインドを高めていただくと確信している。
当授業は、ビジネスにおける電話対応の重要性や具体的な知識・スキル・マインドを学び、習得することで自身に自信をつけ、就職活動や社会人生活におけるキャリア形成にも役立てていただける内容である。

【到達目標】

- ・電話対応の重要性を理解し、好印象を与える電話対応が実践できるようになる。
- ・就職活動や今後の社会人生活をより有意義なものにする「電話対応知識・スキル・マインド」を学び、自信をもって振る舞えるようになる。
- ・日本電信電話ユーザ協会主催の電話対応コンクール出場にチャレンジし、自身にとって納得のいく競技をする。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション: 授業の目的、進め方等を理解できる。また、電話対応コンクールの概要が理解できる コンクール問題の理解①: 2019年度の電話対応コンクール問題の概要が理解できる
2回目	コンクール問題の理解②: コンクール参加に向けて必要な知識・スキル・マインドが理解でき、説明できるレベルになる 音声表現練習: 発声発音の実践練習を通じて、音声表現を磨き、良い対応ができるようになる
3回目	対応スクリプトの作成①: 理解したコンクール問題を踏まえて、対応フローとスクリプトを作成することで言葉とコミュニケーション力が身につく、実践できるようになる 音声表現練習: 発声発音の実践練習を通じて、音声表現を磨き、良い対応ができるようになる
4回目	対応スクリプトの作成②: 理解したコンクール問題を踏まえて、対応フローとスクリプトを作成することで言葉とコミュニケーション力が身につく、実践できるようになる 音声表現練習: 発声発音の実践練習を通じて、音声表現を磨き、良い対応ができるようになる
5回目	対応スクリプトの作成③: 理解したコンクール問題を踏まえて、対応フローとスクリプトを作成することで言葉とコミュニケーション力が身につく、実践できるようになる 音声表現練習: 発声発音の実践練習を通じて、音声表現を磨き、良い対応ができるようになる
6回目	対応実践練習①: 作成したスクリプトを活用して対応練習することで高い応力が身につく 対応スクリプトの修正①: 練習結果を踏まえてスクリプト修正することで、より高いレベルの電話応力が身につく、実践できるようになる 音声表現練習: 発声発音の実践練習を通じて、音声表現を磨き、良い対応ができるようになる
7回目	対応実践練習②: 作成したスクリプトを活用して対応練習することで高い応力が身につく 対応スクリプトの修正②: 練習結果を踏まえてスクリプト修正することで、より高いレベルの電話応力が身につく、実践できるようになる 音声表現練習: 発声発音の実践練習を通じて、音声表現を磨き、良い対応ができるようになる
8回目	対応実践練習③: 作成したスクリプトを活用して対応練習することで高い応力が身につく 対応スクリプトの修正③: 練習結果を踏まえてスクリプト修正することで、より高いレベルの電話応力が身につく、実践できるようになる 音声表現練習: 発声発音の実践練習を通じて、音声表現を磨き、良い対応ができるようになる
9回目	一次予選出場に向けた直前練習①: コンクール本番を想定した対応練習をすることで本番で実力を発揮できる電話対応ができるようになる 音声表現練習: 発声発音の実践練習を通じて、音声表現を磨き、良い対応ができるようになる
10回目	一次予選出場に向けた直前練習②: コンクール本番を想定した対応練習をすることで本番で実力を発揮できる電話対応ができるようになる 音声表現練習: 発声発音の実践練習を通じて、音声表現を磨き、良い対応ができるようになる
11回目	一次予選出場に向けた直前練習③: コンクール本番を想定した対応練習をすることで本番で実力を発揮できる電話対応ができるようになる 音声表現練習: 発声発音の実践練習を通じて、音声表現を磨き、良い対応ができるようになる
12回目	1～11回目の授業を振り返り、理解度を確認できる。自身の強み・弱みを認識する
13回目	地区大会出場に向けた直前練習①: コンクール本番を想定した対応練習をすることで本番で実力を発揮できる電話対応ができるようになる 音声表現練習: 発声発音の実践練習を通じて、音声表現を磨き、良い対応ができるようになる
14回目	地区大会出場に向けた直前練習②: コンクール本番を想定した対応練習をすることで本番で実力を発揮できる電話対応ができるようになる 音声表現練習: 発声発音の実践練習を通じて、音声表現を磨き、良い対応ができるようになる
15回目	コンクール地区大会当日: 自身の対応競技で自信をつけるとともに、他の出場者のレベルの高い対応を肌身で感じて、多くの学びを得る

評価基準 A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法 **出席評価**50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業においての技術評価は「電話対応技術試験点数」とする。

受講生へのメッセージ 電話対応コンクールは多くの企業が参加する大変レベルの高いコンクールです。出場することで自身の対応に自信をつけることができるとともに、就職活動時にもアピールができます。また、予選突破できればさらなる自信につながります。
電話対応向上と予選突破を目指し、半年間頑張りましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

- ・コンクール資料一式

授業シラバス

科目名 (英)	企業研究 (企業研究Ⅱ) Company Reserch II	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科	IR・ホテル & リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員_実務者経験】

ウェスティン大阪レストランMGR及びフロントMGR、客船飛鳥F&Bヘッドウェ이터、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。1996年第1回日本メートルドテルコンクール第5位。現在はホテル・レストランコンサルタントとして活動。ラグジュアリーホテル副総支配人、全日本メートルド・テル連盟 副会長、メートルド・セルヴィスの会 幹事、国際メートルド・テル連盟 会員。CGB(フランス・ジョルジュパティスト協会)主催サービスコンクール世界大会運営委員。 CGB後援サービスコンクール日本大会(メートルド・セルヴィス杯) 審査員

【授業の学習内容】

企業様(ホテル)よりホテルプロモーションのテーマを頂き、クライアント(ホテル)の現状、プロモーションのターゲット、ゴール等をヒアリングする。授業では、グループワークにより実際にマーケティング、企画立案、提案構築、制作、発表することにより、企画提案書の立案方法、制作方法、プレゼンテーションの技法を学ぶ。

【到達目標】

実際に商品化が可能なホテルプロモーションをグループワークで制作することにより、マーケティングによる顧客ニーズの理解、効果的なホテルプロモーションの作り方、企画広報の進め方を学び、効果的なプレゼンテーションができるようになる。

授業計画・内容

1回目	科目概要・目標解説： 企画書制作の基本が理解できるようになる。
2回目	テーマ発表： 企業訪問、ショールーム、課題説明、情報収集、ヒアリング、質疑応答等を実践できる。
3回目	科目概要・目標解説： 企画書制作の基本が理解できるようになる。
4回目	研究概要の構築ができる： 1. 企画書の目的設定 2. ゲスタターゲットの設定、マーケットリサーチ、ブレインストーミング、プラン案の抽出
5回目	研究内容の構築ができる： 1. プランの絞込み 2. 提案内容の実行できる方法論の策定 3. 予算、スケジュールの策定 4. 提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の確認
6回目	プレゼンテーション内容を決定できる： 1. 問題点の整理 2. 提案内容(プラン)の決定 3. 提案のメリット構築 4. 提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の解決方法の決定。
7回目	プレゼンテーション資料作成ができる： 1. 問題点の整理 2. 提案内容 3. 提案のメリット 4. 予算 5. スケジュール 6. 問題点とその解決方法
8回目	プレゼンテーション資料作成ができる： 1. 問題点の整理 2. 提案内容 3. 提案のメリット 4. 予算 5. スケジュール 6. 問題点とその解決方法
9回目	プレゼンテーション資料を完成できる： 1. プレゼンテーション内容の確認、精査、修正等 2. 最終準備
10回目	第1回プレゼンテーションの準備をし、実践できる： 1. プレゼンテーション 2. フィードバック
11回目	プレゼンテーション内容レビューができる： 1. 企画書の目的設定精査 2. ゲスタターゲットの設定精査 3. プレゼンテーション・プランの最終決定
12回目	プレゼンテーション内容レビューができる： 1. 提案内容の実行できる方法論の確定、予算、スケジュールの設定 2. 提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の再確認と解決。
13回目	授業内プレゼンテーションを実践できる： 1. 授業内でのプレゼンテーション 2. レビュー 3. 内容の最終確認、精査、修正 最終準備
14回目	プレゼンテーション内容をレビューできる： 1. 提案内容の実行できる方法論の確定、予算、スケジュールの設定 2. 提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の再確認と解決。
15回目	最終プレゼンテーションの準備をし、実践できる： 1. 各班プレゼンテーション 2. 企業様審査 3. レビュー

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50%+授業態度(授業を聴く態度、制作する態度、チームワーク)10%+企画内容評価40%を評価基準とする。

受講生へのメッセージ

ホテル現場の方からのお話を参考に、実際に商品化できる企画立案を目標としてグループワークにより構築・制作します。企画提案を実践することにより、他者の意見や業界の様々な考え方の基礎を学ぶ事が出来ます。

【使用教科書・教材・参考書】

授業のテーマについて、講師が参考資料を適宜準備する。
使用ソフト: Power Point 他

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅱ (TOEICⅠ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
	TOEICⅠ	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	IR・ホテル&リゾート科				2	曜日/時限	

【担当教員_実務者経験】

ニューヨークでの留学を経験後、留学カウンセリング事業を立ち上げて代表を務める。留学に関するアドバイスを行う傍ら、複数大学にて初級～上級までのTOEICの指導を行っている。TOEICの対策ではなく英文法の基礎を応用させる教育スタイルを採用しており、今までの指導学生数は延べ500人以上になる。また社会人向けの英文法講座のメイン講師も務めており、あらゆる年齢層・レベルに対応した指導を積極的に行っている。

【授業の学習内容】

TOEIC試験では単純な英語力だけでは高得点は望めません。まずは文法のおさらいをし、その後TOEICの各パートごとの傾向と対策を学ぶ。また、それらを踏まえた上で実際に問題をたくさん解き、より本番に近い形での演習を行う。

【到達目標】

TOEIC試験で500点を突破できるような知識を習得する。
また、TOEICを通して中高の英文法を網羅し、あらゆる問題に対応できるようになる。

授業計画・内容

1回目	品詞について①：形容詞の働きが理解できるようになる。
2回目	品詞について②：副詞の働きが理解できるようになる。
3回目	接続詞について①：名詞節の働きが理解できるようになる。
4回目	接続詞について②：副詞節の働きが理解できるようになる。
5回目	文法演習・解説①：今まで習ったことを活用し、文法の知識を実践問題で使えるようになる。
6回目	文法演習・解説②：今まで習ったことを活用し、文法の知識を実践問題で使えるようになる。
7回目	リスニング Part1・2 について：TOEICのリスニングの傾向を掴むことで、効率よく解くことができるようになる。
8回目	リスニング Part3・4 について：TOEICのリスニングの傾向を掴むことで、効率よく解くことができるようになる。
9回目	長文読解：スラッシュリーディングのコツが掴めるようになる。
10回目	長文読解：スラッシュリーディングを応用して長い文章でも内容をつかめるようになる。
11回目	長文読解：前の2回で身につけた力を使うことで、設問に対して正しい答えを導くことができるようになる。
12回目	リスニング通しテスト：実際の試験を想定した形式でテストを行うことで、自分の弱点が見えるようになる。
13回目	これまでの学習内容を確認し、理解度を確認できる
14回目	これまでの学習内容について、問われる質問に的確な返答ができるようになる
15回目	後期学習内容の振り返りと総まとめ：これまでの総復習を行うことでこれから自分が取り組まないといけない課題が見えるようになる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・後期筆記試験(100点満点)を実施し、40%計算を行う。
受講生へのメッセージ	TOEICは闇雲に解いてもスコアは伸びません。 毎回の授業に積極的に出席し、TOEICの対策を立てられるようになってください。

【使用教科書・教材・参考書】

公式TOEIC Listening & Reading 問題集4

授業シラバス

科目名 (英)	コミュニケーション (コアマネジメント・アドバンス I) Core Management Advance I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義	時間数 (単位)	60 4	開講区分 曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

プライダル企業を中心に、様々な企業に対する人材育成トレーニング歴15年、および部下指導歴20年の経験を持つ。井上は「禁断の気質学 フォートロジー®」の著者。

【授業の学習内容】

行動心理学のベーススキルを学ぶことで、問題解決の糸口を見つけることができる。それによって社会人としてのストレスフリーの環境を作り出すことは、学生が社会人になった時にとっても有効なスキルとなり得る。この授業を通して、社会人として必須となるコミュニケーションスキルを学ぶ。

【到達目標】

＜コアマネジメント＞ 人による言葉の違いと効果的な使い方を理解し、相手の心にきちんと届く言葉を効率よく活用することができる
 気質学＞ 生まれ持っている人間の4つのエネルギーバランスから、人との接し方を理解し、「場に合わせた行動」を実践することができる
 ＜特別講義＞ 学生から新入社員(社会人)として成果、結果をだしやすい、企業が求める人材のコンピテンシーである能力、知識、コミュニケーション技術に渡って、意識してそれを必要時に選択でき、効果的に発信できるようになる。

授業計画・内容

1・2回目	(特別講義①)～オリエンテーション-何を学ぶのか、どのように効果的に学ぶのか～ 企業や現在の社会ニーズとしてオンライン(テレワーク)を導入されている企業も多く、オンラインとリアルの融合をテーマにオンラインにて効果的に学習をすすめる為の方法について理解し、オンラインに対応できるようになる。皆さまとのラポール(心理的安全性)を創り出し、強いチームになる素地を築き上げます
3・4回目	(気質学基礎知識①)4つのエネルギーの特徴について復習し、理解を深める
5・6回目	(気質学基礎知識③)第4の扉の問題点と対処法を理解することができる
7・8回目	(気質学基礎知識⑤)4つのエネルギーのタイプ別の相性と攻略法を理解することができる(2)
9・10回目	(気質学基礎知識⑦)接客における4つのエネルギーのタイプ別の接し方を理解することができる(2)
11・12回目	(特別講義②)～イントロダクション-なぜ学ぶのか、何を学ぶのか～ 企業人事に求められる人材になる為に必要なことを理解する質の高いコミュニケーション、場創りメソッドを理解することができるようになる
13・14回目	(気質学基礎知識⑨)4つのエネルギーのタイプ別の指導の仕方・褒め方を理解することができる(2)
15・16回目	(特別講義③)～主体性を作り出す～ 圧倒的な成果を創り出す為の「場創り」(意識・質の高いコミュニケーションを伝えるようになる)を再現性高く生み出す知識・技術力が身につく、成果を出しやすい自分自身の習慣を理解することができるようになる
17・18回目	(気質学基礎知識の応用②)4つのエネルギーの特徴を学び人間関係を円滑にする方法を理解することができる(2)
19・20回目	(コアマネジメント基礎知識①)心理学的な脳の仕組みについて復習し、理解を深める(1)
21・22回目	(コアマネジメント基礎知識③)自分自身の内面に意識を向ける方法を理解することができる
23・24回目	(特別講義④)～ゴールイメージを思い描く～ チームが一丸となる 理念浸透の構造理解と圧倒的Vision構築ができるようになる
25・26回目	(コアマネジメント基礎知識⑥)自分の内面とコミュニケーションをとって、自分自身を知ることができる(1)
27・28回目	(特別講義⑤)～最優先事項を優先する～ 成果に繋がるリーダーシップと効果性の高い時間管理を理解し、使えるようになる
29・30回目	前期授業内容の理解度確認と復習(1)／影響言語診断テスト

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・テスト演習50% ・制作課題の提出率および完成度50%
受講生へのメッセージ	ベーシックでの学びをさらに深め、影響言語も学ぶことで、コミュニケーションスキルが格段と上がります。社会人直前の準備として、様々な年代、様々なタイプの人に対応できるコミュニケーションスキルの習得はとても重要ですので、楽しく身に付けていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

・コアマネジメントアドバンス／一般社団法人国際ライセンスマネジメント機構
の気質学

・禁断

授業シラバス

科目名 (英)	コミュニケーション (フォートロジー気質学Ⅰ) Fortology I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義	時間数 (単位)	60 4	開講区分	曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

プライダル企業を中心に、様々な企業に対する人材育成トレーニング歴15年、および部下指導歴20年の経験を持つ。井上は「禁断の気質学 フォートロジー®」の著者。

【授業の学習内容】

行動心理学のベーススキルを学ぶことで、問題解決の糸口を見つけることができる。それによって社会人としてのストレスフリーの環境を作り出すことは、学生が社会人になった時にとっても有効なスキルとなり得る。この授業を通して、社会人として必須となるコミュニケーションスキルを学ぶ。

【到達目標】

<コアマネジメント> 人による言葉の違いと効果的な使い方を理解し、相手の心にきちんと届く言葉を効率よく活用することができる
 気質学> 生まれ持っている人間の4つのエネルギーバランスから、人との接し方を理解し、「場に合わせた行動」を実践することができる

授業計画・内容

1・2回目	(オリエンテーション) 前期授業内容を説明し、学ぶ意義を理解することができる
3・4回目	(気質学基礎知識②) 第1の扉と第2の扉の組み合わせにより、変化する特徴を理解することができる
5・6回目	(気質学基礎知識④) 4つのエネルギーのタイプ別の相性と攻略法を理解することができる(1)
7・8回目	(気質学基礎知識⑥) 接客における4つのエネルギーのタイプ別の接し方を理解することができる(1)
9・10回目	気質学基礎知識①～⑦での授業内容の理解度の確認と復習
11・12回目	(気質学基礎知識⑧) 4つのエネルギーのタイプ別の指導の仕方・褒め方を理解することができる(1)
13・14回目	(気質学基礎知識⑩) 4つのエネルギーのタイプ別のノルマに対する反応を理解することができる
15・16回目	(気質学基礎知識の応用①) 4つのエネルギーの特徴を学び人間関係を円滑にする方法を理解することができる(1)
17・18回目	気質学基礎知識 前期授業内容の理解度の確認と復習
19・20回目	(コアマネジメント基礎知識②) 心理学的な脳の仕組みについて復習し、理解を深める(2)
21・22回目	(コアマネジメント基礎知識④) 情報の認識は自分の世界観であり、それが外的表現に現れることを理解することができる
23・24回目	(コアマネジメント基礎知識⑤) 自分にとって良い助言者の存在や、スポンサーシップを理解することができる
25・26回目	(コアマネジメント基礎知識⑦) 自分の内面とコミュニケーションをとって、自分自身を知ることができる(2)
27・28回目	(コアマネジメント基礎知識⑧) 心理的に作用する言語の組み立て方を理解することができる
29・30回目	授業内容の理解度確認と復習(2)

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。
 ・テスト演習50%
 ・制作課題の提出率および完成度50%

受講生へのメッセージ

ベーシックでの学びをさらに深め、影響言語も学ぶことで、コミュニケーションスキルが格段と上がります。社会人直前の準備として、様々な年代、様々なタイプの人に対応できるコミュニケーションスキルの習得はとて重要ですので、楽しく身に付けていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

・コアマネジメントアドバンス／一般社団法人国際ライセンスマネジメント機構
 の気質学

・禁断

授業シラバス

科目名 (英)	F&B概論・演習 (料飲・レストランオペレーションⅢ) Food & Beverage・Restaurant OperationⅢ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員_実務者経験】

ウェスティン大阪でレストラン及びフロントMGR、客船飛鳥でF&Bヘッドウェイター、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。1996年第1回 日本メートルドテルコンクール第5位。現在はホテル・レストランコンサルタントとして活動。ラグジュアリーホテル副総支配人、全日本メートルド・テル連盟 副会長、国際メートルド・テル連盟 会員。CGB(フランス・ジョルジュパティスト協会)主催サービスコンクール世界大会運営委員。 CGBサービスコンクール日本大会 審査員

【授業の学習内容】

レストラン・オペレーションの全ての要素を現場での具体的な事例を挙げて解説し、レストラン・マネジメント習得するための基礎が理解を習得する。

【到達目標】

ロジックを持った実際のレストランオペレーションを学ぶことにより、レストランビジネスでの様々な方法論や効果的な運営方法、目的を理解して、現場での一つ一つの作業、サービス、オペレーションの意味を理解する事ができるようになる。

授業計画・内容

1回目	レストランの概要① 1. レストランとサービスの歴史と変遷 2. レストランサービスの概念とレストラン・カテゴリーを理解できるようになる。
2回目	レストランの概要② 1. レストランサービスの目的と意義 2. レストラン・サービスの社会的及び文化的環境 3. レストランサービスの素養を理解できるようになる。
3回目	レストランの概要③ 1. レストランの業務構成 2. レストラン・サービスの業務抽出 3. レストラン・サービスの組織 4. 組織における業務の分担を理解できるようになる。
4回目	レストランの概要④ 1. レストランの営業時間帯 2. レストランの基本的商品知識 3. 基本的な接客 4. お客様のタイプと心理的作用 5. 資材管理を理解できるようになる。
5回目	レストラン・サービス部門の設備と備品 1. ダイニングの設備 2. ダイニング備品の種類と知識(Linen, Chainaware, Silverware, Glassware, Hollowware) 3. サービス用備品を理解できるようになる。
6回目	レストランの準備作業 1. コンソールの仕込み 2. ダイニングの仕込み 3. ゲリドンの準備を理解できるようになる。
7回目	基本的な実技と商品知識 1. 基本的なサービス技術 2. サービスの種々の方法を理解できるようになる。
8回目	レストラン・サービスの流れ① 1. テーブルマナーとプロトコールを理解できるようになる。
9回目	レストラン・サービスの流れ② 1. 開店前の確認事項 2. 迎賓 3. 誘導と着席 4. 着席順位 5. アペリティフとアミューズ・ギュール 6. オーダー 7. パンとバター 8. 料理 9. フロマージュ 10. デセール 11. カフェとミニシャルディーズ 12. デジエステフ 13. 会計を送賓 14. 離席とセルヴィエットを理解できるようになる。
10回目	料飲の基本的な知識と技術① 1. 飲料の概念 2. アルコール飲料 3. アペリティフ 4. デジエステフ 5. カクテルの基本を理解できるようになる。
11回目	料飲の基本的な知識と技術② 1. 飲料の概念 2. アルコール飲料 3. アペリティフ 4. デジエステフ 5. カクテルの基本を理解できるようになる。
12回目	料飲の基本的な知識と技術③ 1. フロマージュの基本的知識 2. フロマージュのサービス技術を理解できるようになる。
13回目	料飲の基本的な知識と技術④ 1. シガーの基本的知識 2. シガーの基本的なサービス技術を理解できるようになる。
14回目	これまでの学習内容を復習し、理解度を確認できる: 1. 用語定義・概念解説 2. 論述式
15回目	これまでの学習内容を復習し、理解度を確認できる: 1. 学習内容解説 2. その他質疑応答

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す等の取り組み態度)10%+(試験評価)40%とする。
なお、本授業においての試験評価は、「筆記試験」とする。

受講生への メッセージ

ホテリエとしての目標を達成する為に、日々の業務の理由付けを行い、ロジックを持った学習が必要です。
この授業では具体的な例を挙げて、分かり易くレストランオペレーションの基本とマネジメントを学びます。

【使用教科書・教材・参考書】

毎回のテーマについて、講師がレジュメを準備する。

授業シラバス

科目名 (英)	F&B概論・演習 (料飲・レストランオペレーションⅣ) Food & Beverage・Restaurant OperationⅣ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科	IR・ホテル & リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員_実務者経験】

ウェスティン大阪でレストラン及びフロントMGR、客船飛鳥でF&Bヘッドウェイター、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。1996年第1回日本メートルドテルコンクール第5位。現在はホテル・レストランコンサルタントとして活動。ラグジュアリーホテル副総支配人、全日本メートルド・テル連盟 副会長、国際メートルド・テル連盟 会員。CGB(フランス・ジョルジュパティスト協会)主催サービスコンクール世界大会運営委員。 CGBサービスコンクール日本大会 審査員

【授業の学習内容】

レストランにおける売り上げ管理、顧客サービス向上、マーケティング、スタッフの教育から衛生・健康管理に至るまでを講義形式で学ぶ

【到達目標】

レストランマネジメントに必要な知識を習得し、レストラン組織への理解を深め、レストランマネージャーに必要な心構えと技術を説明できる

授業計画・内容

1回目	ホテルの組織・レストランの組織) 料飲部が、ホテル組織の中でどのように位置しているのかを知り、またレストランにはどのような役割がありオペレーションしているのかを説明できる。
2回目	スタッフィング・ブリーフィング) 営業前にどういう話し合いが必要かを知り、オペレーションに必要なスタッフィングについて説明が出来る
3回目	グリーター・グリードレス・会計業務) お客様をどのように案内し、どのような観察能力が必要かと、お客様の会計業務で必要なことを説明ができる。
4回目	ランナー・ウェイター・キャプテン) レストランではどういう役割があり、どのように遂行しているのかを知り、説明ができる。
5回目	マネージャー・売り上げ管理) 売り上げ管理についてと、その活用方法を学び、説明が出来る
6回目	マーケティング・集客) 集客するために必要なことを実際の例にそって学び、自らも提案ができる。
7回目	イベント) レストランに関するイベントの種類や、予算、マーケティング方法を学び、体系的に説明が出来る
8回目	フランス料理のサービス) フランス料理のサービスについて、説明ができ、ロールプレイングにて実践が出来る
9回目	日本料理のサービス) 日本料理のサービスについて、説明ができ、ロールプレイングにて実践が出来る
10回目	中国料理のサービス) 中国料理のサービスについて、説明ができ、ロールプレイングにて実践が出来る
11回目	ソムリエのサービス) ソムリエがどのように、ワインをセールスして、サービスするかをロールプレイングにて実践が出来る
12回目	コンプレイン・ハンドリング) レストランマネージャーとして、苦情に対してどう処理しているかを理解する
13回目	これまでの学習内容を復習し、各自の課題を発見することができる
14回目	これまでの学習内容について問われる質問に的確な返答ができるようになる
15回目	今学期学んだ内容について確認し、各自の今後の課題を確認できる

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す等の取り組み態度)10%+(試験評価)40%とする。
なお、本授業においての試験評価は、「筆記試験」とする。

受講生への メッセージ

ホリエウとしての目標を達成する為に、日々の業務の理由付けを行い、ロジックを持った学習が必要です。
この授業では具体的な例を挙げて、分かり易くレストランオペレーションの基本とマネジメントを学びます。

【使用教科書・教材・参考書】

毎回のテーマについて、講師がレジュメを準備する。

授業シラバス

科目名 (英)	ホテル概論・演習Ⅰ (ホテル基礎Ⅱ) Hotel BasicⅡ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	高橋 健二
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員・実務者経験】

1981年4月神戸ポートピアホテル入社。フレンチレストランをはじめ、宴会サービス、レストランマネージャー、VIPアテンドなど携わる。1992年4月トラジャル旅行ホテル専門学校入社。ホテル学科長、キャリアサポート、プライダル学科設立など経験する。ホテル学科だけで3000名の卒業生を輩出する。2004年9月関西唯一のホテル専門の教育・人材会社、株式会社ホテリエスタッフ設立。関西のホテル業界を中心に教育と人材の供給に努めている。

【授業の学習内容】

ホテル業界の接客・接客、ホテルの歴史、ホテル業界の現状・将来性・課題などを幅広く学び、ホテル業界の魅力を持ってもらうこと目標とする。また、国内および海外のホテルチェーンも学び、将来の就職先の目安を決められるようになります。そして、ホテル業界の基本的なマナー・ホスピタリティを学び、ホテル業界での心構えも習得する。

【到達目標】

国内の様々なホテルチェーンや外資系のホテルチェーンを学び、それぞれの希望の将来の就職先のホテルを決めることができるようになる。そして、ホテルの基本を学び、ホテルマンらしい振る舞いや行動、言動などができるようになる。

授業計画・内容

1回目	初回は授業の概要と目標をしっかりと正しく把握して前向きに授業に望む気持ちを高める。
2回目	日本の最近の観光業界及びホテル業界の状況を正しく理解できるようになる。
3回目	関西のホテル業界の状況及び内情を正しく理解することができるようになる。
4回目	関東のホテル業界の状況及び内情を正しく理解することができるようになる。
5回目	国内のリゾートホテル業界の状況及び内情を正しく理解することができるようになる。
6回目	海外のホテル業界の状況を正しく理解することができるようになる。
7回目	ホテル業界の最新の取り組みを調べ、ホテル業界の今後の動きを把握し、現在のホテル業界の動向を理解できるようになる。
8回目	ホテル業界の最新の取り組みを調べ、ホテル業界の今後の動きを把握し、現在のホテル業界の動向を理解できるようになる。
9回目	ホテル業界の最新の取り組みを調べ、ホテル業界の今後の動きを把握し、現在のホテル業界の動向を理解できるようになる。
10回目	今までの調査の結果、ホテル業界の魅力・課題・将来性を個々にまとめ、将来に向けて役立つことができるようになる。
11回目	今までの調査の結果、ホテル業界の魅力・課題・将来性を個々にまとめ、将来に向けて役立つことができるようになる。
12回目	希望先のホテルをいくつか選考し更に徹底して調べることで希望先のホテルをよく把握することができるようになる。
13回目	希望先のホテルをいくつか選考し更に徹底して調べることで希望先のホテルをよく把握することができるようになる。
14回目	希望先のホテルをいくつか選考し更に徹底して調べることで希望先のホテルをよく把握することができるようになる。
15回目	ホテル業界の最新の取り組みレポート、ホテル業界の魅力、課題、将来性レポート・希望先ホテルの調査レポートの提出

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・ホテル業界の最新の取り組みレポート
・ホテル業界の魅力、課題、将来性のレポート
・希望先ホテルの調査レポート 以上3件のレポートの合計100点で100%の評価とする。

受講生へのメッセージ

ホテル業界を幅広く、そして新しい動向や課題などを調べていきますので、個々の調査が必要になりレポートにて評価する授業です。今後のホテル業界の就職活動や就職してからのキャリアアップ、スキルアップの方向性や方法も勉強出来ますので真剣に取り組んでいただくことを期待しています。

【使用教科書・教材・参考書】

--

授業シラバス

科目名 (英)	宿泊オペレーション (宿泊オペレーションⅢ) Front Office Operation III	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	辻倉 一毅
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

高校卒業後に、単独NZに渡り、ホテルにて勤務。帰国後は、東京ディズニーランドで準社員として5年間Disneyサービスに触れ、サービスの真髄を学ぶ。退社後、ヒルトン大阪、ヒルトン東京ベイ、ヒルトン小田原リゾート&スパなどで、合計15年以上勤務。主に宿泊部フロント、ベル、コンシェルジュ業務、社内トレーニング業務、人材育成や、オーベルジュの支配人として職務に携わる。

【授業の学習内容】

宿泊部門の各セクションの役割と連動を認識し、ロールプレイングを行うことで接客スキルの向上と基本業務スキルを習得する。
現在のホテルゲストのニーズや傾向を学び、おもてなしの引き出しを多く持てる実践型の授業内容とする。

【到達目標】

ホテルの顔として、宿泊部門で必要とされる表情・姿勢・接客用語を習得し実践演習を行うことによって即戦力としての技能を身につけ、自信を持って活躍できるようになる。

授業計画・内容

1回目	後期授業の概要説明並びに全員で宿泊部門の疑問点や達成目標に向けてのコミュニケーションを図る。
2回目	(宿泊部門の使命と役割) (予約⇒チェックイン⇒チェックアウト⇒清掃)までの一連の流れを学び理解する。
3回目	(ベル業務の理解) ベル業務の1日を通しての内容を理解し、ゲストの誘導方法やワゴンの使い方をロールプレイングを通じて理解する。
4回目	(ベル業務の実践①) お部屋までのご案内や観光施設へのインフォメーション業務が出来るようになる。
5回目	(課外学習) 在阪ホテルの客室にてベッドメイク・客室チェック・ショールーム/フロント・クローク見学を通じて実際の業務内容を習得する。
6回目	(リザーベーション業務の実践) 宿泊予約業務での(電話対応⇒受注⇒TAP宿泊システムへの入力)まで出来るようになる。
7回目	(フロントレセプション業務の実践) フロントカウンターでのおもてなしと(ゲストご到着⇒チェックイン)まで出来るようになる。
8回目	(コンシェルジュ業務の実践①) 観光施設やレストラン案内業務をゲストの要望を組み取った観光プランが策定出来る。
9回目	(コンシェルジュ業務の実践②) 策定した観光プランを全員の前でプレゼンテーションが出来る。
10回目	(エグゼクティブフロア業務の実践) エグゼクティブラウンジでの(チェックイン⇒ウェルカムティーの提供⇒ラウンジサービス)が出来るようになる。
11回目	(ハウスキーピング業務の実践①) ハウスキーピング業務の備品管理やお部屋セット、デリバリー業務が出来るようになる。
12回目	(ハウスキーピング業務の実践②) ベッドメイク業務を(未清掃状態⇒清掃完了)まで時間管理を行いながら出来るようになる。
13回目	(学習内容確認) 1～12回目の授業を振り返る。宿泊部門全般のオペレーション業務の再確認を行う。
14回目	(振り返り) 宿泊部門を流れて再確認して宿泊業務への自信と意欲を手に入れることができる。
15回目	(宿泊業務統括) 宿泊部門の業務全般の流れ(お出迎え⇒チェックイン⇒滞在中のおもてなし⇒お見送り)まで出来るようになる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。

・実技試験 50点 + 筆記試験 50点の合計100点として40%計算を行う。

受講生への メッセージ

接客(おもてなし)に、ここまでという言葉はありません。
おもてなしの引き出しを増やせるように全員で取り組み、皆さまがホテルの顔として自信を持って目指せるように共に頑張りましょう!!!

【使用教科書・教材・参考書】

・使用教本: 宿泊業務の基礎 *財団法人日本ホテル教育センター監修

授業シラバス

科目名 (英)	インバウンド I (MICEビジネス概論 I)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
	MICE Business I	授業 形態	講義 演習	総コマ数 (単位)	30	開講区分	
学科	IR・ホテル&リゾート科				2	曜日/時限	

【担当教員_実務者経験】

旅行会社勤務を経て、91年よりちば国際コンベンションビューローに勤務。99年～2000年、日本政府観光局へ出向し、国際会議のマーケティングおよびセールスを担当。G20大阪サミット関西推進協力協議会特別アドバイザーとして、G20の準備から開催まで一貫して関わった。韓国MICE産業協会諮問委員、MPI Japan Chapter 会長、観光庁MICE推進検討委員会委員を歴任し、日本のMICE業界の発展に尽力する。

【授業の学習内容】

MICEビジネスとは何か、関連する仕事や施設も含めて総合的に学ぶ。またMICEビジネスの歴史と現状・今後の発展について学び、仕事の面白さ・楽しさを理解する。

【到達目標】

MICEについての概要・業務内容を理解し、MICEビジネスの成り立ちや業界における役割、今後の発展について説明できるようになる。

授業計画・内容

1回目	ガイダンス-MICE産業とは？ 一般的には未だあまり理解されていないMICE産業についての概念を知る
2回目	Meeting(企業会議、企業イベント)ビジネスの世界 一般に知られることの少ない企業イベントについて実例を踏まえて、その業務に携わる面白さや楽しさなどについて知る。
3回目	Incentive(報奨旅行)ビジネスの世界 MICEビジネスの中でも最も知られにくいインセンティブパーティーについて、その業務の面白さや楽しさなどについて知る。
4回目	Convention(国際会議)ビジネスの世界 国際会議を運営するさまざまな関連産業について、その業務の面白さや楽しさについて知る。
5回目	Exhibition(展示会)ビジネスの世界 展示会運営に携わる様々な関連産業について、その業務の面白さや楽しさについて知る。
6回目	MICE産業の歴史 世界や日本のMICE産業の歴史を成り立ちから現在に至るまでのような過程を経てきたかを理解し、今後のMICE産業の発展について理解する。
7回目	MICE産業の現状①(世界、日本) 世界や日本におけるMICE産業の実態や現在のトレンド等について理解を深める。
8回目	MICE産業の現状②(大阪) 大阪におけるMICE産業の実態についてG20大阪サミット開催実例等を含めて理解し、今後大阪にとってのMICEビジネスの重要性について知る。
9回目	MICE産業を支える仕事①(観光庁、JNTO、コンベンションビューロー) 公的な立場でMICE産業を支える国、自治体参加の組織についてその役割や活動について知識を深める。
10回目	MICE産業を支える仕事②(PCO、PEO、イベント会社等) MICE事業実施にあたって最前線で実務を執り行う業務について理解を深める。
11回目	MICE産業を支える仕事③(ケータリング、旅行業等) MICE事業実施にあたって最前線で実務を執り行う業務について理解を深める。
12回目	MICE産業を支える施設①(国際会議場) MICE産業とは一面装置産業であり、その中でも特に大きな役割を果たす国際会議場の役割について理解を深める。
13回目	これまでの学習内容を確認し、理解度について各自の課題を発見することができる
14回目	国際会議場視察(国立京都国際会館) 日本最古で唯一の国立国際会議場である国立京都国際会議場を訪問し、担当者から施設の概要や運営について説明を受けるとともに細部を視察し理解を深める。
15回目	これまでの学習内容について、問われる質問に対して自分の言葉で説明ができるようになる
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・前期試験の点数
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	インバウンド I (MICEビジネス概論 II)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員
	MICE Business II	授業 形態	講義 演習	総コマ数 (単位)	30	開講区分
学科	IR・ホテル&リゾート科				2	曜日/時限

【担当教員、実務者経験】

旅行会社勤務を経て、91年よりちば国際コンベンションビューローに勤務。99年～2000年、日本政府観光局へ出向し、国際会議のマーケティングおよびセールスを担当。G20大阪サミット関西推進協力協議会特別アドバイザーとして、G20の準備から開催まで一貫して関わった。韓国MICE産業協会諮問委員、MPI Japan Chapter 会長、観光庁MICE推進検討委員会委員を歴任し、日本のMICE業界の発展に尽力する。

【授業の学習内容】

展示場・ホテル・ユニークベニュー等のMICEビジネス関連施設を実際に視察しながら、具体的な仕事内容についてイメージし、理解を深める。

【到達目標】

MICEビジネスが実際にどのように誘致、準備、運営されるかなどの一連の流れを把握し、実務内容について説明できるようになる。

授業計画・内容

1回目	MICE産業を支える施設と仕事②(展示場) 地域の経済産業の活性化に必要な不可欠装置である展示場の役割について理解を深める。
2回目	展示場視察(インテックス大阪) 西日本最大規模の本格的展示場を訪問し、担当者から施設の概要や運営について説明を受けるとともに展示場細部を視察し理解を深める。
3回目	MICE産業を支える施設と仕事③(ホテル) ホテルのMICE機能について知識を深め、どのようなMICEビジネスを受入れ運営するかについての理解を深める。
4回目	ホテル視察(ハイアットリージェンシー大阪・ヒルトン大阪) MICEビジネスの取り組みに実績のある外資系ホテルを訪問し、担当者から施設の概要や運営について説明を受け、ホテルにおけるMICEビジネスの理解を深める。
5回目	国際会議の作り方 国際会議が実際にどのように誘致、準備、運営されるかなどの一連の流れを把握し国際会議ビジネスについて理解を深める。
6回目	展示会の作り方 展示会がどのように企画され、実施されていくかの一連の流れを把握し展示会ビジネスについての理解を深める。
7回目	インセンティブ・イベントの作り方 MICEビジネスの中で一般ではほとんど触れることのないインセンティブ・イベントについて映像等の事例も踏まえ実態を把握し理解を深める。
8回目	国際会議におけるプロトコール 国際会議、特にハイレベル国際会議受入れに必要な不可欠なプロトコール(国際儀礼)についてG20サミットの実例などを踏まえて理解を深める。
9回目	ユニークベニューの開発と活用 ユニークベニューの概念や実際にどのように開発し活用していくか等を実例を踏まえて理解し、開発や活用に関する演習を行う。
10回目	ユニークベニュー視察(大阪市中之島公会堂、大阪市立自然史博物館) 大阪で実際に活用されているユニークベニューを訪問し、担当者から施設の概要やMICEイベントを開催する際の留意点などを説明を受け理解を深める。
11回目	MICEの統計、経済波及効果及びMICE商品の作り方 MICEビジネスの効果測定に必要な統計や経済波及効果について理解を深めるとともに経済波及効果を高めるために必要なMICE商品の作り方について理解を深める。
12回目	MICEトレードショーの実務体験(インターンシップ)2020年12月2日(水) 大阪観光局が主催するMICEトレードショー「大阪MICEデスティネーション・ショーケース2020」の運営に一部携わり、展示商談会の運営を実体験する。
13回目	これまでの学習内容を確認し、問われる質問に対して的確な返答ができるようになる。
14回目	IR(統合型リゾート)におけるMICEビジネス 今後の日本におけるMICEビジネスにとって重要な施設となるIR内のMICE施設に関して知識を深めるとともに、今後のビジネスへの発展性について理解を深める。
15回目	MICEビジネス概論総括 2020年度の講義を振り返り理解を深めるとともに、次年度実施される海外実習でのMICEビジネス実務習得のポイントを認識する。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・後期試験の点数

受講生へのメッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	インバウンドⅡ (グローバルホスピタリティⅠ) Gloval Hospitality I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

株式会社JALスカイ大阪に勤務。伊丹空港のグランドスタッフとしてVIPのお客様を数多く対応している。

【授業の学習内容】

訪日外国人が増えている現状からこの授業の必要性を理解する。
前期では、訪日外国人に対する基本的な理解、接客マナーと、英語を使つての接客表現を学ぶ。

【到達目標】

訪日外国人に接する際の基本的な英語表現を覚え、使うことができるようになる。
また、世界には多様な文化があることを理解し、その都度相手を尊重する姿勢を身に着ける。

授業計画・内容

1回目	シラバス説明:この授業の内容、目的、ルールを理解できる。 日本のインバウンドの現状を理解する。
2回目	IRの仕組み、可能性と課題を理解した上で議論し、考えを深めることができる。
3回目	表情、挨拶、身だしなみ、話し方、仕草の重要性を理解し、場に適した対応をすることができるようになる。
4回目	初対面のお客様と英語で自己紹介・挨拶(お辞儀、握手)をすることができるようになる。
5回目	多文化において様々なタブー(宗教、政治など)があることを理解し、どのように対応すればいいかを学ぶことができる。
6回目	顧客満足とは何かを理解することができる。
7回目	フォーマルな場での席次とドレスコードについて理解し、場に適した対応をすることができるようになる。
8回目	VIP対応の基本的なマインドを理解し、日本語・英語ロールプレイングで実践することができる。
9回目	英語で道案内ができるようになる。
10回目	関西の観光スポットを英語で紹介することができるようになる。
11回目	日本の観光名所を英語で紹介することができるようになる。
12回目	インバウンドのお客様に食事を提供する際に気を付けることを理解し、その際に使う英語フレーズを学ぶことができる。
13回目	メニューをつくる:日本料理を英語で表現することができるようになる。
14回目	これまでの学習内容を確認し、問われる質問に対して的確な返答ができるようになる
15回目	これまでの学習内容について、各自の課題を明確にすることができる

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。
・期末試験の点数

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	インバウンドⅡ (グローバルホスピタリティⅡ) Gloval HospitalityⅡ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限
【担当教員、実務者経験】							
株式会社JALスカイ大阪に勤務。伊丹空港のグランドスタッフとしてVIPのお客様を数多く対応している。							
【授業の学習内容】							
訪日外国人が増えている現状からこの授業の必要性を理解する。 前期では、訪日外国人に対する基本的な理解、接客マナーと、英語を使つての接客表現を学ぶ。							
【到達目標】							
訪日外国人に接する際の基本的な英語表現を覚え、使うことができるようになる。 また、世界には多様な文化があることを理解し、その都度相手を尊重する姿勢を身に着ける。							
授業計画・内容							
1回目	前期の復習：VIP対応の基本マインドを理解し、日本語ロールプレイングを実践することができる。						
2回目	前期の復習：VIP対応の基本マインドを理解し、英語ロールプレイングを実践することができる。						
3回目	国際儀礼とドレスコード 席次、フォーマル、セミフォーマルについて理解し、関連する語彙を学ぶことができる。						
4回目	日本の食べ物を英語で表現 一汁三菜、そば、天麩羅、しゃぶしゃぶ、寿司などについて英語で表現することができる。						
5回目	プレゼンテーション①：日本の伝統的な食べ物をひとつ選び、英語でプレゼンすることができる。						
6回目	プレゼンテーションの振り返りを行い、お互いの発表について共有し知識・語彙を深めることができる。						
7回目	日本の習慣を英語で表現 靴を脱ぐ習慣、畳、挨拶の仕方などについて英語で表現することができる。						
8回目	プレゼンテーション②：日本の習慣をひとつ選び、英語でプレゼンすることができる。						
9回目	プレゼンテーションの振り返りを行い、お互いの発表について共有し知識・語彙を深めることができる。						
10回目	ホームタウンを英語で表現 自分の生まれた土地、住んでいる土地について英語で表現することができる。						
11回目	プレゼンテーション③：ホームタウンについて英語でプレゼンすることができる。						
12回目	プレゼンテーションの振り返りを行い、お互いの発表について共有し知識・語彙を深めることができる。						
13回目	これまでの学習内容について、各自の課題を発見することができる						
14回目	これまでの学習内容に関して問われる質問に的確な返答ができるようになる						
15回目	学んだ内容について復習し、各自今後の課題を明確にすることができる						
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・期末試験の点数						
受講生への メッセージ							
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名 (英)	旅行観光Ⅱ (旅程管理主任者Ⅰ) Tour Conductor License I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員、実務者経験】

株式会社オリエントツーリストに入社。カウンター販売・旅行企画・営業・添乗を経験。現在は株式会社TEIに派遣登録し、旅行会社各社にて添乗・受付・営業補佐など、旅行業界の色々な分野を担当する。専門学校や大学などで国家資格・旅行業務取扱管理者資格取得講座を担当

【授業の学習内容】

- ・大まかな旅行業・添乗員の地位と役割を理解し、旅行業界用語と打合せの手順を習得する。
- ・実際のバスツアー参加やJRツアーの受付現場見学し、自分で添乗業務をしているイメージをつかむ。
- ・お客様に楽しんでいただくための各種案内・誘導方法を身に付け正しく理解し業務に活かす。

【到達目標】

国内旅程管理主任者(通称:ツアーコンダクター)として添乗業務内容の把握と必要知識の取得
添乗員に限らず、サービス業に携わる者としてのリーダーシップ、現場力や即戦力を養います。

授業計画・内容

1回目	ガイダンス	・添乗員(正式名称:国内旅程管理主任者)の役割と仕事内容を知る。 ・募集型企画旅行 通称:パッケージツアーでの添乗員の仕事を知る
2回目	受付	・バス添乗での受付・集合の流れを理解します。・乗務員との打ち合わせ時の留意点を確認します。 ・出発までの注意点やよくあるトラブルについて学びます。
3回目	出発あいさつ	・バス出発後の車内業務の流れを理解します。・ツアーのリーダーとしての車内挨拶のポイントを確認します。 ・出発の挨拶原稿を作成します。(出発挨拶の原稿なし実施を目指します。)
4回目	観光地案内	・観光地到着前の車内案内のポイントを確認します。 ・観光地での業務の流れと誘導方法を理解します。(出発挨拶の原稿なし実施を目指します。)
5回目	誘導練習① (校外授業)	・徒歩誘導の練習に出かけます。 ・屋外誘導のポイントに留意し、実践する。
6回目	振り返り	・練習での成功点や改善点を確認します。 ・バス研修などの実践に活かせるよう共有します。
7回目	食事・立寄り	・食事・立寄り施設到着前の車内案内のポイントを確認します。 ・観光地での業務の流れと誘導方法を理解します。
8回目	復路	・解散場所到着前の車内業務の流れを理解します。 ・ツアーのリーダーとしての車内挨拶のポイントを確認します。
9回目	受付(JR編)	・バス添乗での受付との違いを理解します。・受付業務の留意点を確認します。 ・出発までの注意点やよくあるトラブルについて学びます。
10回目	誘導練習② (校外授業)	・新大阪駅での受付・誘導の練習に出かけます。 ・屋内受付・誘導のポイントに留意し、実践する。
11回目	振り返り	・練習での成功点や改善点を確認します。 ・バス研修などの実践に活かせるよう共有します。
12回目	打合せ①	・今まで学んだ旅行中の業務を考えて打合せの重要性を確認します。 ・クーポン券とパウチャーの違いと使用方法を理解します。
13回目	打合せ②	・今まで学んだ旅行中の業務を考えて各種関係機関への確認連絡の重要性を確認します。 ・各種関係機関への確認連絡の方法を理解します。
14回目	理解度確認	・知識習得の確認をします。
15回目	振り返り	・期末試験の答え合わせを行い、ご認識を正します。 ・バス研修などの実践に活かせるよう共有します。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・第5回・10回目で行う校外学習での演習と終了レポート(20点×2回) +
不定期実施朝の挨拶(10点) +
14回目期末試験(50点) 以上の合計100点とし、40%計算を行う

受講生への メッセージ

今や旅行は生活の中では外すことのできない行事です。
学生～職場～結婚～家族と立場や状況によって旅行タイプも様々で評価や求めるゴールも違います。
そんなお客様の様々な節目をお手伝いする旅行の仕事の先にはたくさんの笑顔が待っています。
お客様の旅を笑顔で終えるための様々なルールを正しく知り活用しましょう。
添乗員としてだけでなく、サービスに携わる業務に役立つことがたくさんあります。

【使用教科書・教材・参考書】

「旅程管理研修教本」 「添乗員のための旅行業法令と各種約款」

授業シラバス

科目名 (英)	旅行観光Ⅱ (旅程管理主任者Ⅱ) Tour Conductor License II	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	後期
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

株式会社オリエントツーリストに入社。カウンター販売・旅行企画・営業・添乗を経験。現在は株式会社TEIに派遣登録し、旅行会社各社にて添乗・受付・営業補佐など、旅行業界の色々な分野を担当する。専門学校や大学などで国家資格・旅行業務取扱管理者資格取得講座を担当

【授業の学習内容】

- ・大まかな旅行業・添乗員の地位と役割を理解し、旅行業界用語と打合せの手順を習得する。
- ・実際のバスツアー参加やJRツアーの受付現場見学し、自分で添乗業務をしているイメージをつかむ。
- ・お客様に楽しんでいただくための各種案内・誘導方法を身に付けて正しく理解し業務に活かす。

【到達目標】

国内旅程管理主任者(通称:ツアーコンダクター)として添乗業務内容の把握と必要知識の取得
添乗員に限らず、サービス業に携わる者としてのリーダーシップ、現場力や即戦力を養います。

授業計画・内容

1回目	配車確認 集合知での業務に関して学びます。乗務員との打合せ時の留意点を確認します。
2回目	休憩地での業務 出発後の業務について学ぶマス。業務の流れや気を付けるべき点を確認し練習します。
3回目	観光地での業務① 旅程管理に関するポイントを学びます。観光地でのお客様への案内事項を練習します。
4回目	観光地での業務② 旅程管理に関するポイントを学びます。観光地でのお客様への案内事項を練習します。
5回目	確認電話 利用機関への確認電話をロールプレイングします。自信をもって電話をかけられるよう、確認事項をまとめます。
6回目	確認電話(出発前作業) 利用機関へ実施に電話をし、手配内容の確認を行います。配布物やバス座席表などの準備をします。
7回目	
8回目	終日バス研修 学んだ内容を実体験を通して確認し、課題を発見することができる
9回目	
10回目	バス研修を終えて、学んだことが行かせたかどうか、改善点はないか振り返りを行うことができる。
11回目	課題 添乗員に必要な旅行地理 日本国内の業務する可能性の高い観光地を確認し、調べ、課題として提出することができる。(旅程管理試験の出題範囲)
12回目	
13回目	資格認定のための「旅程管理研修」 「業法・約款」「国内実務」2科目(修了テストあり)
14回目	
15回目	これまで学んだ内容を復習し、旅程管理主任者試験に向けて各自の課題を明確にすることができる

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・第5回・10回目で行う校外学習での演習と終了レポート(20点×2回) +
不定期実施朝の挨拶(10点) +
14回目期末試験(50点) 以上の合計100点とし、40%計算を行う

**受講生への
メッセージ**

今や旅行は生活の中では外すことのできない行事です。
学生～職場～結婚～家族と立場や状況によって旅行タイプも様々で評価や求めるゴールも違います。
そんなお客様の様々な節目をお手伝いする旅行の仕事の先にはたくさんの笑顔が待っています。
お客様の旅を笑顔で終えるための様々なルールを正しく知り活用しましょう。
添乗員としてだけでなく、サービスに携わる業務に役立つことがたくさんあります。

【使用教科書・教材・参考書】

「旅程管理研修教本」 「添乗員のための旅行業法令と各種約款」

授業シラバス

科目名 (英)	ディーリング (カジノディーリング I) Casino Dealing I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分	曜日/時限

【担当教員、実務者経験】

ラスベガス・ディーラーズスクールと韓国7LUCKカジノでディーリングトレーニングを修了した後、シンガポール・マリーナベイサンズのカジノに勤務。
 大阪観光大学および神戸山手大学のツーリズムプロデューサー養成講座の客員教授。トラジャル旅行ホテル専門学校のカジノマナー講座の非常勤講師を歴任。
 日本カジノスクール大阪校のマネージャーとして世界基準のカジノディーラー人材教育とスクール運営。(著書:「IRの有効性とカジノの本質」)
 大阪府と地元企業のIR関連アドバイザー支援(大阪府議会・IR代表質問の作成補助、地元企業のIR参画「大阪IR推進100社会」広報担当)

【授業の学習内容】

・海外事例にみるIR(統合型リゾート)の有効性
 ・カジノの本質とレスポンシブルゲーミング
 ・世界のカジノの歴史と文化
 ・カジノディーリング実技(基礎・ブラックジャック・バカラ・ルーレット・ポーカー)
 ・日本IRの有効性(法律・制度設計・開発計画)
 ・カスタマーサービス

【到達目標】

世界で通用するカジノディーリング技術と知識の習得。日本のIRを正しく理解することで将来のIRビジネスへのビジョンを持つこと。

授業計画・内容

1回目	IR講義: オリエンテーション、海外IRの成功事例と有効性、世界のカジノの歴史と文化、近隣アジアのIR事例、日本IRの法制化と開発計画
2回目	IR講義: カジノの本質とレスポンシブルゲーミング、カジノディーラーの心得、カジノの組織体系とオペレーション、大阪IR・地元企業の取り組み
3回目	カジノマナー体験: ブラックジャック/ルーレットのテーブルマナーとゲームルールを学ぶことができる
4回目	カジノマナー体験: バカラ/ポーカーのテーブルマナーとゲームルールを学ぶ
5回目	カジノディーリング実技: 基礎(カードシャッフル、マルチデックシャッフル/チップワーク、ドロップカット、サイジング)を習得できる
6回目	カジノディーリング実技: 基礎(キャッシュチェンジ、カラーチェンジ/クロージングテーブル)を習得できる
7回目	カジノディーリング実技: ブラックジャック(基礎)を習得できる
8回目	カジノディーリング実技: ブラックジャック(基礎)を習得できる
9回目	カジノディーリング実技: ブラックジャック(応用)を習得できる
10回目	カジノディーリング実技: ブラックジャック(応用)を習得できる
11回目	カジノディーリング実技: ブラックジャック(総合)を習得できる
12回目	カジノディーリング実技: ミディバカラ(基礎)を習得できる
13回目	カジノディーリング実技: ミディバカラ(基礎)を習得できる
14回目	これまで学んだ内容について問われた質問に的確な返答ができるようになる
15回目	映画鑑賞「バグジー」(1991年:150分)を通して、学習内容についての理解度を確認することができる

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
 ・前期試験: 実技試験(30問)
 ・後期試験: 筆記試験(いずれか1ゲーム)

受講生への メッセージ

IR(統合型リゾート)は近い将来日本に誕生する新規産業であり、カジノディーラーは日本で初めて誕生する特殊技能職です。
 IRの有効性とカジノの本質をしっかりと理解し、楽しくディーリングを学んでください。

【使用教科書・教材・参考書】

講師が用意するハンドアウト資料、プレイングカード(1人に1デッキ配付)

授業シラバス

科目名 (英)	ディーリング (カジノディーリングⅡ) Casino Dealing Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

ラスベガス・ディーラースクールと韓国7LUCKカジノでディーリングトレーニングを修了した後、シンガポール・マリーナベイサンズのカジノに勤務。
 大阪観光大学および神戸山手大学のツーリズムプロデューサー養成講座の客員教授。トラジャル旅行ホテル専門学校のカジノマナー講座の非常勤講師を歴任。
 日本カジノスクール大阪校のマネージャーとして世界基準のカジノディーラー人材教育とスクール運営。(著書:「IRの有効性とカジノの本質」)
 大阪府と地元企業のIR関連アドバイザー支援(大阪府議会・IR代表質問の作成補助、地元企業のIR参画「大阪IR推進100社会」広報担当)

【授業の学習内容】

・海外事例にみるIR(統合型リゾート)の有効性 ・世界のカジノの歴史と文化 ・日本IRの有効性(法律・制度設計・開発計画)
 ・カジノの本質とレスポンスブルゲーミング ・カジノディーリング実技(基礎・ブラックジャック・バカラ・ルーレット・ポーカー) ・カスタマーサービス

【到達目標】

世界で通用するカジノディーリング技術と知識の習得。日本のIRを正しく理解することで将来のIRビジネスへのビジョンを持つこと。

授業計画・内容

1回目	カジノディーリング実技: ミディバカラ(応用)を習得できる
2回目	カジノディーリング実技: ミディバカラ(応用)を習得できる
3回目	カジノディーリング実技: ミディバカラ(総合)を習得できる
4回目	カジノディーリング実技: ルーレット(基礎)を習得できる
5回目	カジノディーリング実技: ルーレット(基礎)を習得できる
6回目	カジノディーリング実技: ルーレット(応用)を習得できる
7回目	カジノディーリング実技: ルーレット(応用)を習得できる
8回目	カジノディーリング実技: ルーレット(総合)を習得できる
9回目	カジノディーリング実技: テキサスホールデムポーカー(基礎)を習得できる
10回目	カジノディーリング実技: テキサスホールデムポーカー(応用)を習得できる
11回目	カジノディーリング実技: テキサスホールデムポーカー(総合)を習得できる
12回目	カスタマーサービス: ブラックジャック/ルーレットを習得できる
13回目	カスタマーサービス: ミディバカラ/テキサスホールデムポーカーを習得できる
14回目	これまで学んだ内容について問われた質問に的確な返答ができるようになる
15回目	映画鑑賞を通して、学習内容についての理解度を確認することができる

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
 ・前期試験: 実技試験(30問)
 ・後期試験: 筆記試験(いずれか1ゲーム)

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

講師が用意するハンドアウト資料、プレイングカード(1人に1デッキ配付)

授業シラバス

科目名 (英)	外国語 I (ビジネス英会話 I) Business English I	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科名	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

私はシェラトンホテル、マリオットホテル、そしてウォルトディズニーワールドホテルとレストランで働いた経験があります。

【授業の学習内容】

口頭および書面によるコミュニケーションのためのビジネス英語の使い方を学びます。ビデオ、オンライン・タスク、プレゼンテーション資料など、さまざまな資料がレッスンで使用されます。

【到達目標】

ビジネス英語のスキルを身に付けることです。ビジネスで使用する英会話・英語を理解し、書面によるビジネス情報を提供できるようになることが目標です。

授業計画・内容

1回目	学習内容を把握し、現状の課題について認識することができる。
2回目	ビジネスシーンで使用する自己紹介、あいさつの表現方法を学ぶことができる。
3回目	英語でのビジネスメールの書き方・マナーを学ぶことができる。
4回目	旅行、出張に関する英語の表現方法を学ぶことができる。
5回目	支払いや請求に関する語彙、表現方法を学ぶことができる。
6回目	買い物に関する語彙、表現方法を学ぶことができる。
7回目	スマートフォンの基本的な使用方法を英語で理解することができる。
8回目	広告に関する語彙、表現方法を学ぶことができる。
9回目	パソコンの基本的な使用方法を英語で理解することができる。
10回目	マーケティングに関する語彙、表現方法を学び、与えられたテーマについてプレゼンテーションができる。
11回目	英語でのビジネスメールを実際に送受信することができる。
12回目	英語での履歴書の書き方を学び、実際に作成することができる。
13回目	これまでの学習内容を復習し、各自の課題を明確にできる。
14回目	これまでの学習内容について問われる内容に明確な返答をすることができる。
15回目	これまでの学習内容について理解度を確認し、課題を明確にできる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「ライティング、スピーキング、リスニング、リーディングテスト」とする。

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルテキスト

授業シラバス

科目名 (英)	外国語 I (ビジネス英会話 II) Business English II	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科名	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

私はシェラトンホテル、マリオットホテル、そしてウォルトディズニーワールドホテルとレストランで働いた経験があります。

【授業の学習内容】

口頭および書面によるコミュニケーションのためのビジネス英語の使い方を学びます。ビデオ、オンライン・タスク、プレゼンテーション資料など、さまざまな資料がレッスンで使用されます。

【到達目標】

ビジネス英語のスキルを身に付けることです。ビジネスで使用する英会話・英語を理解し、書面によるビジネス情報を提供できるようになることが目標です。

授業計画・内容

1回目	学習内容を理解し、現状の課題を確認することができる。
2回目	よりフォーマルなビジネスシーンにおける自己紹介、あいさつの表現方法を学ぶことができる。
3回目	社外のお客様宛のメール作成方法を学び、実際に送信することができる。
4回目	会議に関する語彙、表現方法を学ぶことができる。
5回目	与えられたテーマに沿って英語会議のロールプレイングを行うことができる。
6回目	英語で会議を行い、自分の意見を主張することができる。
7回目	請求書の書き方を学び、実際に作成することができる。
8回目	英語で広告を作成するための基本事項を理解することができる。
9回目	与えられたテーマに沿って英語で広告を作成することができる。
10回目	作成した広告を使用し、英語で商品のPRができる。
11回目	異なる文化圏からのお客様を接客するロールプレイングを行うことができる。
12回目	英語での就職面接の流れを学び、ロールプレイングで実践できる。
13回目	これまでの学習内容を復習し、各自の課題を明確にできる。
14回目	これまでの学習内容について問われる内容に的確に応えることができる。
15回目	ビジネス英語の基本的なスキルを確認することができる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「ライティング、スピーキング、リスニング、リーディングテスト」とする。

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルテキスト

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅰ (英会話Ⅲ) General EnglishⅢ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科名	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

エディンバラビジネススクール(MBA)卒業後、シェラトンホテル、マリオットホテル、ウォルトディズニーワールドホテルでの勤務を経験。現在は滋慶学園のグループ各校で英語教育に携わる。

【授業の学習内容】

授業の内容は説明とプレゼンテーションの準備方法です。テキスト、フォーマット、視覚教材など。学生は自分でプレゼンテーションを作成し、定期的にそれらを練習し、そして毎週オンライン課題を提出します。最終発表は各学生が行います。ビデオ、オンラインタスク、プレゼンテーション資料など、さまざまな資料がレッスンで使用されます。

【到達目標】

このクラスの目的は、生徒が自信を持ってプレゼンテーションをする経験を積むことです。この経験を積むことにより、公の場で話し、ゲストに情報を提供する準備をします。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション(目標設定、プレゼンテーション発表)
2回目	<p>英語でプレゼンテーションをするための基本的なテクニックを学び、各プレゼンテーションの内容と手法を理解することができます。また、英語(英会話)学習に必要な、「話す」「聞く」「読む」「書く」を体系的に学ぶことができる。</p> <p>【課題提出方法】 課題提出日までに、各テーマに沿った、課題用フォーマットを使用して、100単語以上のエッセイをメール添付にて、提出する。</p> <p>【講義内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 全学生のエッセイを全員に配布。 ② 各学生個人にて、エッセイの内容を読み、理解(和訳)する。 ③ 各学生によるプレゼンテーションを行なう。 ④ 講師による添削(文法・単語など)を行ない、各学生は配布されたエッセイに、訂正内容を書き込む。 ⑤ 各学生にて、エッセイを保管する。 ⑥ 授業終了後、締め切り日までに、次週のエッセイを作成し、提出する。
3回目	
4回目	
5回目	
6回目	
7回目	
8回目	
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	ガイドラインに従って発表を評価し合い、各自の課題を明確にできる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「プレゼンテーション」とする。
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

--

授業シラバス

科目名 (英)	外国語 I (英会話IV) General EnglishIV	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科名	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
【担当教員、実務者経験】							
エディンバラビジネススクール(MBA)卒業後、シェラトンホテル、マリオットホテル、ウォルトディズニーワールドホテルでの勤務を経験。現在は滋慶学園のグループ各校で英語教育に携わる。							
【授業の学習内容】							
授業の内容は説明とプレゼンテーションの準備方法です。テキスト、フォーマット、視覚教材など。学生は自分でプレゼンテーションを作成し、定期的にそれらを練習し、そして毎週オンライン課題を提出します。最終発表は各学生が行います。ビデオ、オンラインタスク、プレゼンテーション資料など、さまざまな資料がレッスンで使用されます。							
【到達目標】							
このクラスの目的は、生徒が自信を持ってプレゼンテーションをする経験を積むことです。この経験を積むことにより、公の場で話し、ゲストに情報を提供する準備をします。							
授業計画・内容							
1回目	オリエンテーション(目標設定、プレゼンテーション発表)						
2回目	英語でプレゼンテーションをするための基本的なテクニックを学び、各プレゼンテーションの内容と手法を理解することができます。また、英語(英会話)学習に必要な、「話す」「聞く」「読む」「書く」を体系的に学ぶことができる。						
3回目							
4回目							
5回目							
6回目							
7回目							
8回目							
9回目							
10回目							
11回目							
12回目							
13回目							
14回目							
15回目	ガイドラインに従って発表を評価し合い、各自の課題を明確にできる。						
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「プレゼンテーション」とする。						
受講生へのメッセージ							
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名 (英)	ホスピタリティヒューマンズスキル (キャリアプログラムⅣ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
	Career ProgramⅣ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科	IR・ホテル&リゾート科				2	曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

高校卒業後に、単独NZに渡り、ホテルにて勤務。帰国後は、東京ディズニーランドで準社員として5年間Disneyサービスに触れ、サービスの真髄を学ぶ。退社後、ヒルトン大阪、ヒルトン東京ベイ、ヒルトン小田原リゾート&スパなどで、合計15年以上勤務。主に宿泊部フロント、ベル、コンシェルジュ業務、社内トレーニング業務、人材育成や、オーベルジュの支配人として職務に携わる。

【授業の学習内容】

ワークブックとテキストを使用しながら、コミュニケーションの技法を学んでいく。事前学習⇒演習⇒グループ討論⇒振り返りの順に行い、皆が取り組むようにする。

【到達目標】

コミュニケーション力ををあげるため、様々なワークを行いながら”自分自身”・”対話相手”を考えて対応ができるようになる。自己の見つめなおしと自己発見を行うことで、自分の強みと弱みを理解し、社会人に向けての課題を発見することができる。

授業計画・内容

1回目	【授業内容の説明】テキストとワークブックの使用説明、授業内容を説明し、この授業の目的を理解することができる。
2回目	【ブラインドワーク】五感を使い「ブラインドワーク」を行う。物事の伝え方をしっかりと考えて「相手に正しく伝える」ということを学ぶことができる。
3回目	【自分探しの技法①】自分史の年表の説明を行い、作成を行う。
4回目	【自分探しの技法②】自分史の作成を行う。自分史を使い、自分の過去と転機を見つめなおすことができる。また努力した事柄を発見することができる。
5回目	【インタビューの技法①】自分史を使いながら、相手に「自分らしさ」を発表する。インタビューを行い、「相手に質問する」ポイントを掴むことができる。
6回目	【インタビューの技法と他己紹介】インタビューの内容をうまくまとめ、他己紹介を行う。キャッチフレーズを付けて相手を紹介する方法を学ぶことができる。
7回目	【私とわたし①】自分がおもう自分と相手がみた自分の比較を行い、自分の新しい一面を発見することができる。
8回目	【私とわたし②】連想ゲームを行い、相手の「イメージ」と本当の相手を理解し、新しい一面を発見することができる。
9回目	【言葉ゲーム】自分の考えが相手にそのまま伝わるかどうか、ゲームを行い、その後検証することで「伝え方」の方法を見つめなおすことができる。
10回目	【質問ゲーム】手持ちのカードの中で誰が違うカードを持っているかを質問しながら探り合う。相手のしぐさや反応をしっかりと見て洞察力・思考力を高めることができる。
11回目	【グループディスカッション①】今まで学んだ技法を使用し、提示された課題に対してディスカッションを行い、意見をまとめることができる。
12回目	【グループディスカッション②】今まで学んだ技法を使用し、提示された課題に対してディスカッションを行い、意見をまとめることができる。
13回目	【グループディスカッション③】今まで学んだ技法を使用し、提示された課題に対してディスカッションを行い、意見をまとめることができる。
14回目	【何年後かの自分へ】今までの学びを通し、成長した自分をイメージしながら手紙を書くことで、目指す夢を再確認することができる。
15回目	【総まとめ】今までの学びを振り返り、初回授業からの成長を再確認することができる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業においての 技術評価 は、以下の割合にておこなう。

・グループディスカッション3課題の取り組み姿勢

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	ホスピタリティヒューマンズスキル (キャリアプログラムV)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員
	Career Program V	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30	開講区分
学科	IR・ホテル&リゾート科			2	曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

高校卒業後に、単独NZIに渡り、ホテルにて勤務。帰国後は、東京ディズニーランドで準社員として5年間Disneyサービスに触れ、サービスの真髄を学ぶ。退社後、ヒルトン大阪、ヒルトン東京ベイ、ヒルトン小田原リゾート&スパなどで、合計15年以上勤務。主に宿泊部フロント、ベル、コンシェルジュ業務、社内トレーニング業務、人材育成や、オーベルジュの支配人として職務に携わる。

【授業の学習内容】

社会人に必要とされる「社会人基礎力」の3つの能力と12の能力要素をワークを通して学び習得を目指す。

【到達目標】

「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」を身に付ける

授業計画・内容

1回目	「社会人基礎力」3つの能力である、前に踏み出す力(アクション)、考え抜く力(シンキング)、チームで働く力(チームワーク)について、理解することが出来る
2回目	主体性(物事に進んで取り組む力)の意味を理解し、実践することが出来る
3回目	働きかけ力(他人に働きかけ巻き込む力)の意味を理解し、実践することが出来る
4回目	実行力(目的を設定し確実に実行する力)の意味を理解し、実践することが出来る
5回目	課題発見力(現状を分析し目的や課題を明らかにする力)の意味を理解し、実践することが出来る
6回目	計画力(課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力)の意味を理解し、実践することが出来る
7回目	創造力(新しい価値を生み出す力)の意味を理解し、実践することが出来る
8回目	発信力(自分の意見をわかりやすく伝える力)の意味を理解し、実践することが出来る
9回目	傾聴力(相手の意見を丁寧に聞く力)の意味を理解し、実践することが出来る
10回目	柔軟性(意見の違いや立場の違いを理解する力)の意味を理解し、実践することが出来る
11回目	状況把握力(自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する能力)の意味を理解し、実践することが出来る
12回目	規律性(社会のルールや人との約束を守る力)の意味を理解し、実践することが出来る
13回目	ストレスコントロール力(ストレスの発生源に対応する力)の意味を理解し、実践することが出来る
14回目	個人発表(12の要素を含む自身の考えを「自身の哲学」として発表できる)
15回目	「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」とは何かを理解し、各自の課題を明確にできる

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業においての 技術評価 は、以下の割合にておこなう。
・個人発表内容の評価

**受講生への
メッセージ**

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	ビジネス (ビジネス文書Ⅰ) Business Documents I	必修 選択	必修	年次	3	担当教員
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

フリーランス取材記者・編集者・エディトリアルデザイナー・カメラマン。音楽雑誌編集部勤務を経て、2004年に独立。専門は保育・育児・教育。「子ども・ファミリー」関連の取材ライティング、写真撮影、書籍の編集・レイアウトを行なう。

【授業の学習内容】

- ・様々なビジネス文書の書き方を学ぶ。
- ・社会マナーや考え方を身につける。
- ・社会人として即戦力で活躍するために必要な力を身につける。
- ・PCでの文書スキルを身につける(本講義の文書は基本的にPCまたはスマートフォンなどで作成するものとする)

【到達目標】

- ・様々なビジネス文書が独力で書けるようになる。
- ・社会人としてのマナーや考え方、スキルを卒業時に兼ね備えている。

授業計画・内容

1回目	ビジネス文書と文書作成の基本(構成、時候の挨拶など)を理解し、活用できる。PCで文書を作成する最低限の知識、スキルを身に付けることができる。
2回目	挨拶状の書き方を知り、実際に書くことができる。
3回目	案内状の書き方を知り、実際に書くことができる。
4回目	お礼状の書き方を知り、実際に書くことができる。
5回目	演習テスト2種(ここまでの4回分の授業から2種を指定)の文章を書くことができる。
6回目	見舞い状の書き方を知り、実際に書くことができる。
7回目	暑中見舞いの書き方を知り、実際に書くことができる。
8回目	お詫び状の書き方を知り、実際に書くことができる。
9回目	祝い状の書き方を知り、実際に書くことができる。
10回目	演習テスト2種(ここまでの4回分の授業から2種を指定)の文章を書くことができる。
11回目	依頼状の書き方を知り、実際に書くことができる。
12回目	手紙と封筒、メール文の書き方やマナーを知り、実際に書くことができる。文書など郵送のマナーについて理解する。
13回目	通知書+指示書の書き方を知り、実際に書くことができる。
14回目	企画書の基本を理解し、企画書を書くことができる。
15回目	演習テスト2種(ここまでの4回分の授業から2種を指定)の文章を書くことができる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての 技術評価 は、以下の割合にておこなう。 ・演習テストの質 各30%×3回分_計90% ・毎回の課題の完成に向けての意欲と修正、質向上に対する姿勢_10%
受講生へのメッセージ	社会に出て即活躍できる人材になるため、がんばりましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

--

授業シラバス

科目名 (英)	ビジネス (ビジネス文書Ⅱ) Business Documents I	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

フリーランス取材記者・編集者・エディトリアルデザイナー・カメラマン。音楽フリーマガジン編集部勤務を経て、2004年に独立。専門は保育・育児・教育。「子ども・ファミリー」関連の取材ライティング、写真撮影、書籍の編集・レイアウトを行なう。

【授業の学習内容】

- ・様々なビジネス文書の書き方を学ぶ。
- ・社会人になるときに備えて、マナーや考え方を身につける。
- ・社会人として即戦力で活躍するために必要な力を身につける。

【到達目標】

- ・様々なビジネス文書が独力で書けるようになる。
- ・社会人としてのマナーや常識を卒業時に兼ね備えている。

授業計画・内容

1回目	前期の総復習を通して、ビジネス文書と文書作成の基本を再確認、再定着させることができる。
2回目	挨拶状の書き方を定着させ、実際に自分の思いや言葉で書くことができる。
3回目	案内状の書き方を定着させ、実際に自分の思いや言葉で書くことができる。
4回目	お礼状の書き方を定着させ、実際に自分の思いや言葉で書くことができる。
5回目	演習テスト2種(ここまでの4回分の授業から2種を指定)の文章を自分の思いや言葉で書くことができる。
6回目	お詫状の書き方を定着させ、実際に自分の思いや言葉で書くことができる。
7回目	祝い状の書き方を定着させ、実際に自分の思いや言葉で書くことができる。
8回目	見舞い状の書き方を定着させ、実際に自分の思いや言葉で書くことができる。
9回目	年賀状と寒中見舞いの書き方を知り、実際に書くことができる。
10回目	演習テスト2種(ここまでの4回分の授業から2種を指定)の文章を自分の思いや言葉で書くことができる。
11回目	依頼状の書き方を定着させ、実際に自分の思いや言葉で書くことができる。
12回目	勧誘状と断り状の書き方を知り、実際に書くことができる。
13回目	報告書、始末書+念書の書き方を知り、実際に書くことができる。
14回目	激励状の書き方を知り、実際に書くことができる。
15回目	演習テスト2種(ここまでの4回分の授業から2種を指定)の文章を書くことができる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業においての 技術評価 は、以下の割合にておこなう。
・演習テストの質 各30% × 3回分 計90%
・毎回の課題の完成に向けての意欲とスクラップ・アンド・ビルドに対する姿勢 10%

受講生への メッセージ

社会に出て即活躍できる人材になるため、がんばりましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

ボールペン、赤ボールペン、ホッチキス(課題を留める)自分の作品をファイリングする(ポートフォリオを作る)ためのファイル(自身が必要とするなら)

授業シラバス

科目名 (英)	ホスピタリティマナー (マナー・プロトコールⅡ) Manor protocol Ⅱ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

関西電力株式会社に入社。コールセンター実務を経て社内講師として指導に携わる。本社人事部門に移動後は社員教育・採用全般に携わる。2002年からマナー・コミュニケーション講師としての活動を開始。独立後の現在は年間200件を超える企業研修を担っている。日本電話ユーザ協会講師として電話応対コンクール指導やコンクール審査員を務める。コンクール指導においては、全国大会入賞者を輩出する実績を持つ。また、日本マナー・プロトコール協会初の認定講師としても活動。インバスケカードゲーム認定トレーナー、メンタルヘルスマネジメント検定Ⅰ種講師としても活動する。大学・専門学校非常勤講師。

【授業の学習内容】

日本において長く継承されてきた礼儀作法・しきたり、国際儀礼として習得すべきプロトコール、ビジネスにおけるマナー等について、知識はもちろんのこと、意味や歴史を学ぶことで、「相手を尊重し、思いやる心」がより一層高まるとともに、目に見える「形」としてスムーズに表現できるようになると考える。当授業は、マナーやプロトコールを習得することで自身に自信をつけ、就職活動や社会生活におけるキャリア形成にも役立てていただける内容である。

【到達目標】

- ・相手を尊重し、思いやる心を持ち、その心を「立ち居振る舞い」や「言葉」で表現できるようになる。
- ・就職活動や今後の社会人生活をより有意義なものにする「マナー」や「プロトコール」を学び、自信をもって振る舞えるようになる。
- ・授業最終回に学内で実施するマナー・プロトコール検定2級もしくは3級にチャレンジし、納得のいく結果を出す。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション: 授業の目的、進め方を理解できる。また、マナー・プロトコール検定2級、3級試験の内容が理解できる 理解度確認テスト: マナー・プロトコール検定練習問題を活用したテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる マナーとは何か: 慶事・弔事の意味、マナー・エチケット・礼儀・作法の違い、マナーやプロトコールを学ぶ意義が説明できるようになる
2回目	マナーの歴史と意味、日本の礼儀・作法の成り立ち、西洋のマナー、エチケットの成り立ち、アジアのマナーについて説明できるようになる 国際人としてのプロトコール①: プロトコールの原則、具体的な席次例、社交の場でのコミュニケーション、パーティの種類とマナーが説明できるようになる
3回目	国際人としてのプロトコール②: 挨拶・握手と紹介のマナー、外国人への贈り物、国旗の扱い、礼拝の場でのマナー、異文化コミュニケーション、日本の伝統文化について説明できるようになる
4回目	小テスト: 授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 社会人に必要なマナー①: 第一印象の重要性、表情、挨拶、お辞儀、身だしなみ、立ち居振る舞いに、敬語の種類と変換、敬語の注意点、敬称のつけ方、クッション言葉、聴き方の基本、話し方の基本について説明できるとともに好印象のマナーが実践ができるようになる
5回目	社会人に必要なマナー②: 和装・洋装のマナー、喜ばれる贈答、祝儀袋・不祝儀袋のマナーと使い方、手紙のマナーについて説明できるようになる
6回目	ビジネスシーンのマナー: ビジスマナーの必要性、社会人の心構え、会社の仕組み、プロ意識、仕事の進め方、名刺の扱い方、電話応対のマナー、トラブル対応、来客対応のマナー、ビジネス文書のマナー、電子メールのマナーについて説明できるようになる
7回目	小テスト: 授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 食事のマナー①: テーブルマナーの基本、和食のマナー、日本料理の基本知識、食事のいただき方、美しい箸使い、食事のタブー、和室の作法について説明できるようになる
8回目	食事のマナー②: 西洋料理のマナー、テーブルセッティング、カトラリーの使い方、食事のいただき方、中国料理と各国料理のマナーについて説明できるようになる
9回目	お酒のマナー: お酒の種類、ワインの基本知識、その他のお酒の楽しみ方について説明できるようになる
10回目	小テスト: 授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 「冠」のしきたり: 冠婚葬祭、陰陽道の考え方、日本の主な通過儀礼、出産祝い、七五三のお祝い、入園・入学祝い、その他のお祝い事について説明できるようになる
11回目	「婚」のしきたり: 結婚の変遷、結納のマナー、挙式のスタイル、服装のルール、招待状のマナー、会場でのマナー、ふくさの使い方について理解できるようになる 「葬」のしきたり: 仏式の葬儀、神式の葬儀、キリスト教式の葬儀、葬儀・告別式でのマナー、法要のしきたりについて理解できるようになる
12回目	「祭」のしきたり: 4月の行事、5月の行事、6月の行事、7月の行事、8月の行事、9月の行事、10月の行事、11月の行事、12月の行事について説明できるようになる
13回目	1～11回目の授業を振り返り、理解度を確認できる。自身の強み・弱みを認識する
14回目	振り返りにより、自身の強み・弱みを認識するとともに、弱みの改善ができる 模擬試験および質疑応答により、検定2級、3級に向けて自信が持てるようになる
15回目	マナー・プロトコール検定2級、3級 試験実施

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は「筆記試験点数」とする。
受講生へのメッセージ	3級取得者は2級取得を、3級未取得者は3級試験を取得することにより就職活動時や就職後に役立てていただけます。マナー習得と資格取得を目指し、半年間頑張りましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

マナー&プロトコールの基礎知識

授業シラバス

科目名 (英)	伝統文化 (華道 I) Flower arrangement I	必修 選択	必修	年次	3	担当教員
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

1992年～1995までグラフィックデザイナーとして主に販売促進系のデザインを行う。1996年～2010年まで専門学校関連にてグラフィックデザイナー、ディレクション等の仕事を行う。華道歴22年、個人にて華道教室を行って8年。茶道歴15年、茶道教室を行って2年。講演会や卒業式など舞台の花を生け込む仕事なども行う。

【授業の学習内容】

ホテルのロビー、レストラン、部屋、化粧室等さまざまな場所にお花が飾られています。また日本人に限らず海外の宿泊者も増えています。本授業では、日本の伝統文化の1つ「華道」の基本をたしなみ、その場、その場での空間を活かすことや、同じ材料でも人によって違った作品になること、また短期間で複数の花や枝の名前や季節感なども触れるように学習していきます。

【到達目標】

華道(生け花)の基本「盛り花」を中心に、骨格作り、空間の取り方、置く(飾る)場所を考えていけていきます。器の大きさ、置く(飾る)場所、空間に合わせて、高さ全体の大きさを考えていけるように。また壺いけや水盤流儀もたしなみます。

授業計画・内容

1回目	盛り花の基本(枝):華道の説明、フラワーアレンジメントと生け花の違いについて説明。生け花の基本、盛り花ができるようになる。
2回目	盛り花の復習(枝):盛り花の基本、枝で活けることが出来るようになる。
3回目	盛り花の基本(葉):葉ものを使った盛り花ができるようになる(枝から葉ものになると創作作業が出ます)
4回目	盛り花の復習(葉):葉ものを使った盛り花ができるようになる。
5回目	壺いけの基本:盛り花の材料で、剣山ではなく壺で活けることが出来るようになる(空間の使い方を学ぶ)
6回目	壺いけの復習:盛り花の材料で、剣山ではなく壺で活けることが出来るようになる。
7回目	華材を見て、盛り花としていけるか、壺いけとしていけるか、違いを学ぶ。
8回目	盛り花の復習:骨格を作り、空間を意識し、足元、奥行きについて、置く場所によって変わる等ができるようになる。
9回目	生け花でクリスマス:日本の伝統文化「生け花」でもクリスマスといった洋風の季節を表現することができるようになる。
10回目	正月の盛り花:正月にだけ使う、松や千両、縁起物の枝などを使って正月の生け花ができるようになる。
11回目	正月の盛り花復習:小正月まで時間があるので華材を変えて正月花ができるようになる。
12回目	盛り花の復習:筆記対策として華道の復習と、盛り花の復習をします(回を重ねる中で個性、センス、拘りを活かすことを学びます)
13回目	試験/盛り花:筆記試験と盛り花の実技を行い評価します。
14回目	水盤流儀の基本:水盤流儀の修得。基本1種類の花で1本に見えるようにいけこむ水盤でのお流儀ができるようになる。
15回目	水盤流儀の復習:華材を変えて水盤流儀の修得。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・盛り花制作80% ・筆記試験20% (合計100%)

受講生への メッセージ

職場で即必要な技術の授業ではありませんが、ホテルにはさまざまな場所に花がざらられています。日本の伝統文化を体験することで、新たな感性やセンスを得ること、海外のお客様は桜や紅葉など日本の枝や花、伝統文化に興味をもたれています。卒業を前に是非、わざわざお稽古として学びに行かなくても授業内で学べます。休まず感性やセンス、技術を得ていただきたいと思っております。休まず感性やセンス、技術を得ていただきたいと思っております。休まず感性やセンス、技術を得ていただきたいと思っております。休まず感性やセンス、技術を得ていただきたいと思っております。

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	伝統文化 (茶道Ⅰ) tea ceremony I	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	
学科	エアライン科	授業 形態	演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
【担当教員_実務者経歴】							
大学時に師に出会い入門。2009年専任講師取得。カルチャースクール講師アシスタントとして活動。							
【授業の学習内容】							
茶道を通して和室での立ち振る舞いや姿勢だけでなく、自分の心を落ち着かせ自分に向き合うこと、他者への気遣いやおもてなしの心を身につける。							
【到達目標】							
茶道を学ぶことによってお辞儀、襖の開け閉め、歩き方などの和室での立ち振る舞いの基礎ができるようになる。おもてなしの心を身につけ盆略点前ができるようになる。							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		オリエンテーション: 茶道の意義を知る。和敬清寂を知る。
2回目		和室での立ち振る舞い①: お辞儀の仕方、お抹茶の頂き方、お菓子の頂き方を学ぶ。
3回目		和室での立ち振る舞い②: 立ち方、歩き方、襖の開け方、お軸の拝見の方法を学ぶ。
4回目		和室での立ち振る舞い③: 水屋の働き方、道具基礎知識、お茶の運び、お菓子の運び方を学ぶ。
5回目		割稽古①: 袱紗捌きを学ぶ。袱紗を使い糞と茶杓を清める。
6回目		割稽古②: 茶巾の扱いを学ぶ。茶巾のたたみ方、お茶碗の清め方を学び、袱紗捌きを復習する。
7回目		割稽古③: 茶筌しらべを学ぶ。袱紗捌きから茶筌までをとおして学ぶ。
8回目		盆略点前①: 客と亭主に分かれお茶を点てるまで学習する。
9回目		盆略点前②: 客と亭主に分かれお茶を点てるまで学習する。
10回目		盆略点前③: 客と亭主に分かれ、お仕舞いまで通して学ぶ
11回目		盆略点前④: 客と亭主に分かれ、お仕舞いまでお稽古をし身につけるようにする。
12回目		盆略点前⑤: 客と亭主に分かれ、お仕舞いまでお稽古をし身につけるようにする。
13回目		和室での立ち振る舞い、盆略点前の演習を行う。
14回目		和室での立ち振る舞い、盆略点前の演習を行う。一部、筆記試験を行う。
15回目		振り返り: 初回授業からの振り返りを行いお互いに心をこめてお茶を点てる。

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ◎筆記試験10点 + 実技試験90点
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	サービススキル (ウォーキングⅡ) Walking & Postue Ⅱ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

大学卒業後、株式会社りそな銀行へ入行。この頃からO脚や身体の不調に悩まされる。無意識にとっていた自己流の正しいと思う姿勢や歩き方が原因と知り、一般社団法人Csでウォーキング講師の資格を取得。その後独立。身だしなみの中には「姿勢や歩き方」が含まれることを伝え企業研修なども行う。現在教室を軸にラジオ出演、イベント、セミナー等幅広く活躍中。

【授業の学習内容】

引き続きフラットウォーキングを行いつつ、ヒールウォーキングを身につける。
また様々なシーンにおいて美しくふるまうコツを具体的に練習していく。
外面を整えることは相手に対する思いやりの気持ちを持つことであり、おもてなしの心を形で表すためにあることを理解し、社会人マナーとして身につける。
信頼感の与えられる人材を育てる。

【到達目標】

就職活動や冠婚葬祭のシーンにおいて必要不可欠なヒールウォーキングを美しく正しくできるようになる。日常生活での美しい所作も学び、ものを大切に扱う心も育てられるようになる。
姿勢・フラットウォーキング・ヒールウォーキング・所作トータルでできるようになり、即戦力のある立ち居振る舞いを身につけられるようになる。

授業計画・内容

1回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。所作レッスンでは座り方指導。座り姿勢にこそ品格が現れることを伝え、正しい座り姿勢から立ち方まで一連の流れを美しくできるようになる。(就職活動に活かせるよう実践を交える)手しぐさの法則は女子学生のみ。ものの丁寧な扱い方(カバンの持ち方・傘の持ち方など)を仕草一つで表現できるようになる。
2回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。所作レッスンはコミュニケーションに欠かせない「素敵な笑顔の作り方」ができるようになる。笑顔のもたらす効果・笑顔の種類・顔の主な筋肉の説明・表情筋トレーニングを行いできるようになる。(手鏡ご持参ください。)
3回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。所作レッスンではヒールでのスマートな階段の昇り降りのポイントやコツ、並びにエレガントに魅せるしやがみ方等できるようになる。
4回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。疲れにくいヒール選び(試着のポイント・デザイン選び)並びにシーン別(仕事・パーティー、カジュアル等)脚が綺麗に見えるヒールの高さ選びの数式を学ぶことができるようになる。
5回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。所作レッスンはスマートにコートやジャケットを脱ぎ着できるようになる。(企業訪問した際に恥ずかしくないマナーを理解してできるようになる。)
6回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
7回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
8回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
9回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
10回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
11回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
12回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
13回目	これまでの学習内容を復習し、問われた内容に対して的確に返せるようになる。
14回目	これまでの学習内容について、各自の課題を明確化できる。
15回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・姿勢・ヒールウォーキング 60点 ・ジャケットの脱ぎ方たたみ方 40点
受講生へのメッセージ	就職活動で必要不可欠なヒールウォーキングを行っていきます。ヒールウォーキングが綺麗にできるようになれば、女性としてワンランク上の振る舞いができ自信のある立ち居振る舞いができるようになります。前期同様、引き続き動的ストレッチを行いつつ「厳しく楽しく」学びましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	サービススキル (電話対応Ⅲ) Telephone ReceptionⅢ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

関西電力株式会社に入社。コールセンター実務を経て社内講師として指導に携わる。本社人事部門に移動後は社員教育・採用全般に携わる。2002年からマナー・コミュニケーション講師としての活動を開始。独立後の現在は年間200件を超える企業研修を担っている。日本電信電話ユーザ協会講師として電話対応コンクール指導やコンクール審査員を務める。コンクール指導においては、全国大会出場者を多数輩出する実績を持つ。また、日本マナー・プロトコール協会初の認定講師としても活動。インバスケカードゲーム認定トレーナー、メンタルヘルスマネジメント検定Ⅰ種講師としても活動する。大学・専門学校非常勤講師。

【授業の学習内容】

2年次の授業の学び直しとして、社会人に必要不可欠な電話対応スキル・マインドを習得するための講座および演習を行う。
また、演習は音声録音を基本とし、都度、自身の声を客観的に確認することで強み・弱みを把握し、スキルを高める。

【到達目標】

・電話の特性を知ったうえで、就職後に即実践できる電話対応スキル・マインドをブラッシュアップする。

授業計画・内容

1回目	・電話と音声表現の応用/音声表現の工夫による印象の変化/発声発音練習/プロミネンス練習/口癖の改善が出来るようになる
2回目	・第一印象強化/電話対応における第一印象の重要性/掛け方と受け方の注意点/言葉遣いの向上を目指すことで、自身のスキル・マインドをブラッシュアップできる。
3回目	・ビジネス時の電話対応強化/企業からの受電対応練習/メモの練習/企業に架電する際のポイントと注意点/企業に問い合わせをする際の架電対応練習をすることで、自身のスキル・マインドをブラッシュアップできる。
4回目	・取次ぎのマナー/取次対応練習/担当者不在時の対応ポイント/伝言メモの書き方/担当者不在時の対応練習をすることで、自身のスキル・マインドをブラッシュアップできる。
5回目	・受電対応発表/現在までに学んだ内容を基に受電対応総合練習を行い、発表する。
6回目	・コミュニケーションの重要性/電話における観察スキル/傾聴スキル(相づち、復唱、共感)を繰り返し練習をすることで、自身のスキル・マインドをブラッシュアップできる。
7回目	・質問スキル(クローズ質問、オープン質問)/説明スキル(わかりやすい話し方、好印象の話し方)のブラッシュアップを図る。
8回目	・特殊なパターンの各種問い合わせ対応/問い合わせを受ける際の対応ポイント/問い合わせをする際の対応ポイント/問い合わせ対応練習を行う。
9回目	・受電対応発表/現在までに学んだ内容を基に受電対応総合練習を行い、発表する。
10回目	・クレーム対応(1)/クレーム対応(クレームの定義、お客様心理、クレームの基礎知識、クレームが企業に与える影響)を繰り返し行うことで、自身のスキル・マインドをブラッシュアップできる。
11回目	・クレーム対応(2)/クレーム対応(電話におけるクレーム対応フロー、オープニング、気持ちを静める傾聴、謝罪の種類と使い分け、質問による現状把握)を繰り返し行うことで、自身のスキル・マインドをブラッシュアップできる。
12回目	・クレーム対応(3)/クレーム対応(説明・提案による解決、クロージング)/クレーム対応練習を繰り返し行うことで、自身のスキル・マインドをブラッシュアップできる。
13回目	これまでの学習を復習し、不明点を明らかにすることができる。
14回目	これまでの学習について、問われた内容に的確に応えることができる。
15回目	これまでの学習を振り返り、今後の各自の課題を明確にすることができる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における試験評価は、「筆記+電話応対実技試験点数」とする。

受講生へのメッセージ

就職した際に、顕著にレベル差が表れる電話の対応スキルを伸ばすことで、周りの人たちと自身の差別化を目指しましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	企業研究 (企業研究Ⅲ) Company Reserch III	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科	IR・ホテル & リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員_実務者経験】

ウェスティン大阪レストランMGR及びフロントMGR、客船飛鳥F&Bヘッドウェイター、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。1996年第1回日本メートルドテルコンクール第5位。現在はホテル・レストランコンサルタントとして活動。ラグジュアリーホテル副総支配人、全日本メートルド・テル連盟 副会長、メートルド・セルヴィスの会 幹事、国際メートルド・テル連盟 会員。CGB(フランス・ジョルジュパティスト協会)主催サーヴィスコンクール世界大会運営委員。 CGB後援サーヴィスコンクール日本大会(メートルド・セルヴィス杯) 審査員

【授業の学習内容】

企業様(ホテル)よりホテルプロモーションのテーマを頂き、クライアント(ホテル)の現状、プロモーションのターゲット、ゴール等をヒアリングする。授業では、グループワークにより実際にマーケティング、企画立案、提案構築、制作、発表することにより、企画提案書の立案方法、制作方法、プレゼンテーションの技法を学ぶ。

【到達目標】

実際に商品化が可能なホテルプロモーションをグループワークで制作することにより、マーケティングによる顧客ニーズの理解、効果的なホテルプロモーションの作り方、企画広報の進め方を学び、効果的なプレゼンテーションができるようになる。

授業計画・内容

1回目	科目概要・目標解説： 企画書制作の基本が理解できるようになる。
2回目	テーマ発表： 1. 企業訪問、ショールーム、課題説明、情報収集、ヒアリング、質疑応答等ができる。
3回目	科目概要・目標解説： 企画書制作の基本が理解できるようになる。
4回目	研究概要の構築ができる。： 1. 企画書の目的設定 2. ゲスタターゲットの設定、マーケットリサーチ、ブレインストーミング、プラン案の抽出
5回目	研究内容の構築ができる。： 1. プランの絞込み 2. 提案内容の実行できる方法論の策定 3. 予算、スケジュールの策定 4. 提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の確認
6回目	プレゼンテーション内容を決定できる。： 1. 問題点の整理 2. 提案内容(プラン)の決定 3. 提案のメリット構築 4. 提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の解決方法の決定。
7回目	プレゼンテーション資料作成ができる。： 1. 問題点の整理 2. 提案内容 3. 提案のメリット 4. 予算 5. スケジュール 6. 問題点とその解決方法
8回目	プレゼンテーション資料作成ができる。： 1. 問題点の整理 2. 提案内容 3. 提案のメリット 4. 予算 5. スケジュール 6. 問題点とその解決方法
9回目	プレゼンテーション資料完成ができる。： 1. プレゼンテーション内容の確認、精査、修正等 2. 最終準備
10回目	第1回プレゼンテーションを準備し、実施できる。： 1. プレゼンテーション 2. フィードバック
11回目	プレゼンテーション内容をレビューできる。： 1. 企画書の目的設定精査 2. ゲスタターゲットの設定精査 3. プレゼンテーション・プランの最終決定
12回目	プレゼンテーション内容をレビューできる。： 1. 提案内容の実行できる方法論の確定、予算、スケジュールの設定 2. 提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の再確認と解決。
13回目	授業内プレゼンテーションを準備し、実施できる。： 1. 授業内でのプレゼンテーション 2. レビュー 3. 内容の最終確認、精査、修正 最終準備
14回目	プレゼンテーション内容をレビューできる。： 1. 提案内容の実行できる方法論の確定、予算、スケジュールの設定 2. 提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の再確認と解決。
15回目	最終プレゼンテーションを準備し、実施できる。： 1. 各班プレゼンテーション 2. 企業様審査 3. レビュー

評価基準 A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法 出席評価50%+授業態度(授業を聴く態度、制作する態度、チームワーク)10%+企画内容評価40%を評価基準とする。

受講生へのメッセージ ホテル現場の方からのお話を参考に、実際に商品化できる企画立案を目標としてグループワークにより構築・制作します。企画提案を実践することにより、他者の意見や業界の様々な考え方の基礎を学ぶ事が出来ます。

【使用教科書・教材・参考書】

授業のテーマについて、講師が参考資料を適宜準備する。
使用ソフト: Power Point 他

授業シラバス

科目名 (英)	企業研究 (企業研究Ⅳ) Company Reserch IV	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科	IR・ホテル & リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員_実務者経験】

ウェスティン大阪レストランMGR及びフロントMGR、客船飛鳥F&Bヘッドウェイター、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。1996年第1回日本メートルドテルコンクール第5位。現在はホテル・レストランコンサルタントとして活動。ラグジュアリーホテル副総支配人、全日本メートルド・テル連盟 副会長、メートルド・セルヴィスの会 幹事、国際メートルド・テル連盟 会員。CGB(フランス・ジョルジュパティスト協会)主催サービスコンクール世界大会運営委員。 CGB後援サービスコンクール日本大会(メートルド・セルヴィス杯) 審査員

【授業の学習内容】

企業様(ホテル)よりホテルプロモーションのテーマを頂き、クライアント(ホテル)の現状、プロモーションのターゲット、ゴール等をヒアリングする。授業では、グループワークにより実際にマーケティング、企画立案、提案構築、制作、発表することにより、企画提案書の立案方法、制作方法、プレゼンテーションの技法を学ぶ。

【到達目標】

実際に商品化が可能なホテルプロモーションをグループワークで制作することにより、マーケティングによる顧客ニーズの理解、効果的なホテルプロモーションの作り方、企画広報の進め方を学び、効果的なプレゼンテーションができるようになる。

授業計画・内容

1回目	科目概要・目標解説： 企画書制作の基本が理解できるようになる。
2回目	テーマ発表： 1. 企業訪問、ショールーム、課題説明、情報収集、ヒアリング、質疑応答等ができる。
3回目	科目概要・目標解説： 企画書制作の基本が理解できるようになる。
4回目	研究概要の構築ができる。： 1. 企画書の目的設定 2. ゲストターゲットの設定、マーケットリサーチ、ブレインストーミング、プラン案の抽出
5回目	研究内容の構築ができる。： 1. プランの絞込み 2. 提案内容の実行できる方法論の策定 3. 予算、スケジュールの策定 4. 提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の確認
6回目	プレゼンテーション内容決定ができる。： 1. 問題点の整理 2. 提案内容(プラン)の決定 3. 提案のメリット構築 4. 提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の解決方法の決定。
7回目	プレゼンテーション資料作成ができる。： 1. 問題点の整理 2. 提案内容 3. 提案のメリット 4. 予算 5. スケジュール 6. 問題点とその解決方法
8回目	プレゼンテーション資料作成ができる。： 1. 問題点の整理 2. 提案内容 3. 提案のメリット 4. 予算 5. スケジュール 6. 問題点とその解決方法
9回目	プレゼンテーション資料を完成できる。： 1. プレゼンテーション内容の確認、精査、修正等 2. 最終準備
10回目	第1回プレゼンテーションを準備し、実施できる。： 1. プレゼンテーション 2. フィードバック
11回目	プレゼンテーション内容をレビューできる。： 1. 企画書の目的設定精査 2. ゲストターゲットの設定精査 3. プレゼンテーション・プランの最終決定
12回目	プレゼンテーション内容をレビューできる。： 1. 提案内容の実行できる方法論の確定、予算、スケジュールの設定 2. 提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の再確認と解決。
13回目	授業内プレゼンテーションを準備し、実施できる。： 1. 授業内でのプレゼンテーション 2. レビュー 3. 内容の最終確認、精査、修正 最終準備
14回目	プレゼンテーション内容をレビューできる。： 1. 提案内容の実行できる方法論の確定、予算、スケジュールの設定 2. 提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の再確認と解決。
15回目	最終プレゼンテーションを準備し、実施できる。： 1. 各班プレゼンテーション 2. 企業様審査 3. レビュー

評価基準 A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法 出席評価50%+授業態度(授業を聴く態度、制作する態度、チームワーク)10%+企画内容評価40%を評価基準とする。

受講生へのメッセージ ホテル現場の方からのお話を参考に、実際に商品化できる企画立案を目標としてグループワークにより構築・制作します。企画提案を実践することにより、他者の意見や業界の様々な考え方の基礎を学ぶ事が出来ます。

【使用教科書・教材・参考書】

授業のテーマについて、講師が参考資料を適宜準備する。
使用ソフト: Power Point 他

授業シラバス

科目名 (英)	コミュニケーション (コアマネジメント・アドバンス I) Core Management Advance I	必修 選択	必修	年次	3	担当教員
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義	時間数 (単位)	60 4	開講区分 曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

プライダル企業を中心に、様々な企業に対する人材育成トレーニング歴15年、および部下指導歴20年の経験を持つ。井上は「禁断の気質学 フォートロジー®」の著者。

【授業の学習内容】

行動心理学のベーススキルを学ぶことで、問題解決の糸口を見つけることができる。それによって社会人としてのストレスフリーの環境を作り出すことは、学生が社会人になった時にとても有効なスキルとなり得る。この授業を通して、社会人として必須となるコミュニケーションスキルを学ぶ。

【到達目標】

＜コアマネジメント＞ 人による言葉の違いと効果的な使い方を理解し、相手の心にきちんと届く言葉を効率よく活用することができる
 気質学＞ 生まれ持っている人間の4つのエネルギーバランスから、人との接し方を理解し、「場に合わせた行動」を実践することができる
 ＜特別講義＞ 学生から新入社員(社会人)として成果、結果をだしやすい、企業が求める人材のコンピテンシーである能力、知識、コミュニケーション技術に渡って、意識してそれを必要時に選択でき、効果的に発信できるようになる。

授業計画・内容

1回目	(特別講義①)～オリエンテーション-何を学ぶのか、どのように効果的に学ぶのか～ 企業や現在の社会ニーズとしてオンライン(テレワーク)を導入されている企業も多く、オンラインとリアルの融合をテーマにオンラインにて効果的に学習をすすめる為の方法について理解し、オンラインに対応できるようになる。皆さまとのラポール(心理的安全性)を創り出し、強いチームになる素地を築き上げます
2回目	(気質学基礎知識①)4つのエネルギーの特徴について復習し、理解を深める
3回目	(気質学基礎知識③)第4の扉の問題点と対処法を理解することができる
4回目	(気質学基礎知識⑤)4つのエネルギーのタイプ別の相性と攻略法を理解することができる(2)
5回目	(気質学基礎知識⑦)接客における4つのエネルギーのタイプ別の接し方を理解することができる(2)
6回目	(特別講義②)～イントロダクション-なぜ学ぶのか、何を学ぶのか～ 企業人事に求められる人材になる為に必要なことを理解する質の高いコミュニケーション、場創りメソッドを理解することができるようになる
7回目	(気質学基礎知識⑨)4つのエネルギーのタイプ別の指導の仕方・褒め方を理解することができる(2)
8回目	(特別講義③)～主体性を作り出す～ 圧倒的な成果を創り出す為の「場創り」(意識・質の高いコミュニケーションを伝えるようになる)を再現性高く生み出す知識・技術力が身につく、成果を出しやすい自分自身の習慣を理解することができるようになる
9回目	(気質学基礎知識の応用②)4つのエネルギーの特徴を学び人間関係を円滑にする方法を理解することができる(2)
10回目	(コアマネジメント基礎知識①)心理学的な脳の仕組みについて復習し、理解を深める(1)
11回目	(コアマネジメント基礎知識③)自分自身の内面に意識を向ける方法を理解することができる
12回目	(特別講義④)～ゴールイメージを思い描く～ チームが一丸となる 理念浸透の構造理解と圧倒的Vision構築ができるようになる
13回目	(コアマネジメント基礎知識⑥)自分の内面とコミュニケーションをとって、自分自身を知ることができる(1)
14回目	(特別講義⑤)～最優先事項を優先する～ 成果に繋がるリーダーシップと効果性の高い時間管理を理解し、使えるようになる
15回目	前期授業内容の理解度確認と復習(1)／影響言語診断テスト

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・テスト演習50% ・制作課題の提出率および完成度50%
受講生へのメッセージ	ベーシックでの学びをさらに深め、影響言語も学ぶことで、コミュニケーションスキルが格段と上がります。社会人直前の準備として、様々な年代、様々なタイプの人に対応できるコミュニケーションスキルの習得はとても重要ですので、楽しく身に付けていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

・コアマネジメントアドバンス／一般社団法人国際ライセンスマネジメント機構
の気質学

・禁断

授業シラバス

科目名 (英)	コミュニケーション (フォートロジー気質学Ⅰ) Fortology I	必修 選択	必修	年次	3	担当教員
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義	時間数 (単位)	60 4	開講区分 曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

ブライダル企業を中心に、様々な企業に対する人材育成トレーニング歴15年、および部下指導歴20年の経験を持つ。井上は「禁断の気質学 フォートロジー®」の著者。

【授業の学習内容】

行動心理学のベーススキルを学ぶことで、問題解決の糸口を見つけることができる。それによって社会人としてのストレスフリーの環境を作り出すことは、学生が社会人になった時にとても有効なスキルとなり得る。この授業を通して、社会人として必須となるコミュニケーションスキルを学ぶ。

【到達目標】

<コアマネジメント> 人による言葉の違いと効果的な使い方を理解し、相手の心にきちんと届く言葉を効率よく活用することができる
<気質学> 生まれ持っている人間の4つのエネルギーバランスから、人との接し方を理解し、「場に合わせた行動」を実践することができる

授業計画・内容

1回目	(オリエンテーション) 前期授業内容を説明し、学ぶ意義を理解することができる
2回目	(気質学基礎知識②) 第1の扉と第2の扉の組み合わせにより、変化する特徴を理解することができる
3回目	(気質学基礎知識④) 4つのエネルギーのタイプ別の相性と攻略法を理解することができる(1)
4回目	(気質学基礎知識⑥) 接客における4つのエネルギーのタイプ別の接し方を理解することができる(1)
5回目	気質学基礎知識①～⑦での授業内容の理解度の確認と復習
6回目	(気質学基礎知識⑧) 4つのエネルギーのタイプ別の指導の仕方・褒め方を理解することができる(1)
7回目	(気質学基礎知識⑩) 4つのエネルギーのタイプ別のノルマに対する反応を理解することができる
8回目	(気質学基礎知識の応用①) 4つのエネルギーの特徴を学び人間関係を円滑にする方法を理解することができる(1)
9回目	気質学基礎知識 前期授業内容の理解度の確認と復習
10回目	(コアマネジメント基礎知識②) 心理学的な脳の仕組みについて復習し、理解を深める(2)
11回目	(コアマネジメント基礎知識④) 情報の認識は自分の世界観であり、それが外的表現に現れることを理解することができる
12回目	(コアマネジメント基礎知識⑤) 自分にとって良い助言者の存在や、スポンサーシップを理解することができる
13回目	(コアマネジメント基礎知識⑦) 自分の内面とコミュニケーションをとって、自分自身を知ることができる(2)
14回目	(コアマネジメント基礎知識⑧) 心理的に作用する言語の組み立て方を理解することができる
15回目	授業内容の理解度確認と復習(2)

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。
・テスト演習50%
・制作課題の提出率および完成度50%

受講生へのメッセージ

ベーシックでの学びをさらに深め、影響言語も学ぶことで、コミュニケーションスキルが格段と上がります。社会人直前の準備として、様々な年代、様々なタイプの人に対応できるコミュニケーションスキルの習得はとて重要ですので、楽しく身に付けていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

・コアマネジメントアドバンス／一般社団法人国際ライセンスマネジメント機構
の気質学

・禁断

授業シラバス

科目名 (英)	経営管理 I (ホテルマネジメント I) Hotel Management I	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科	IR・ホテル & リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限
【担当教員_実務者経験】							
ウェスティン大阪レストランMGR及びフロントMGR、客船飛鳥F&Bヘッドウェ이터、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。1996年第1回日本メートルドテルコンクール第5位。現在はホテル・レストランコンサルタントとして活動。ラグジュアリーホテル副総支配人、全日本メートルド・テル連盟 副会長、メートルド・セルヴィスの会 幹事、国際メートルド・テル連盟 会員。CGB(フランス・ジョルジュパティスト協会)主催サービスコンクール世界大会運営委員。 CGB後援サービスコンクール日本大会(メートルド・セルヴィス杯) 審査員							
【授業の学習内容】							
ホテル全体のマネジメント、部門別(オペレーション部門、サポート部門)のマネジメントの方法論、ホテルビジネストレンドをホテル現場での具体的な事例を挙げて解説する。							
【到達目標】							
ロジックを持った実際のホテルマネジメントを学ぶことにより、ホテルビジネスの様々な方法論、マーケティング論と現場での効果的な運営、経営方法、目的を理解して、現場での一つ一つの作業、サービス、オペレーションの意味を理解する事が出来る。							

授業計画・内容	
1回目	ホテルマネジメントの基本原則を理解できる: 1. 科目の概要、目標解説 2. ホテルマネジメントの概要 3. 経営マネジメント 4. 運営マネジメント
2回目	ホテルの経営形態を理解できる: 1. ホテルにおける所有・経営・運営 2. ホテルの資産マネジメント 3. ホテルの経営方式
3回目	世界のホテルビジネスを理解できる: 1. ホテルカテゴリー 2. ホテルビジネスのトレンド(世界・日本)
4回目	外資系ホテルと日系ホテルの特徴を理解できる: 1. オペレーションシステムとサービス 2. ホテルブランドの確立と戦略 3. レベニューマネジメント
5回目	ホテルの収益構造を理解できる: 1. ホテルの売上げ構成比率 2. 部門別収益構造の違い 3. GOP
6回目	部門別マネジメントRooms Divisionを理解できる: 1. KPIと計数管理 2. 客室稼働率 3. ADR 4. Rev PAR 5. Double Occupancy 6. Room Rate 7. Revenue Management
7回目	部門別マネジメントFood & Beverageを理解できる: 1. 料飲部門のマネジメント 2. 料飲部門の収益構造と特徴 3. レストランにおけるKPI 4. Revenue Management
8回目	部門別マネジメントFood & Beverageを理解できる: 1. 料飲部門のマネジメント 2. 料飲部門の収益構造と特徴 3. レストランにおけるKPI 4. Revenue Management
9回目	部門別マネジメントBanquet Serviceを理解できる: 1. 一般宴会部門の利益率と特徴(Profit & Loss) 2. ウェディング部門の利益率と特徴(Profit & Loss) 3. ホテルのプライダル戦略
10回目	部門別マネジメントSales & Marketingを理解できる: 1. マーケティング 2. セールス 3. 営業推進部門
11回目	部門別マネジメントHuman Resourcesを理解できる: 1. 人材マネジメント(外資系ホテルと日系ホテルとの違い) 2. トレーニングシステム
12回目	リスク・マネジメント(危機管理)を理解できる: 1. リスク・マネジメントとは 2. リスク・ファクター 3. 危機管理における[4R]コンセプト
13回目	ホテル総支配人の役割を理解できる: 1. ホテル部門の配置 2. 総支配人の仕事 3. 外資系・日系ホテル組織の相違点 4. 小規模ホテルと旅館
14回目	これまでの学習から各用語定義・概念解説を行い、問われた質問に対して答えを論述できる。
15回目	これまでの学習を振り返り、各自課題を明確にすることができる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験」とする。
受講生へのメッセージ	ホテルリエとしての目標を達成する為に、日々の業務の理由付けを行い、ロジックを持ったホテルマネジメント学習が必要です。この授業では具体的な例を挙げて、分かり易くホテルマネジメントの基本と部門別のマネジメントを学びます。
【使用教科書・教材・参考書】	
毎回のテーマについて、講師がレジュメを準備する。 参考書籍: ホテルマネジメント、ホテル・ビジネス・ブック、観光庁統計資料等。	

授業シラバス

科目名 (英)	経営管理 I (ホテルマネジメント II)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
	Hotel Management II	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	IR・ホテル & リゾート科				2	曜日/時限	

【担当教員_実務者経歴】

ウェスティン大阪レストランMGR及びフロントMGR、客船飛鳥F&Bヘッドウェイター、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。1996年第1回日本メートルドテルコンクール第5位。現在はホテル・レストランコンサルタントとして活動。ラグジュアリーホテル副総支配人、全日本メートルド・テル連盟 副会長、メートルド・セルヴィスの会 幹事、国際メートルド・テル連盟 会員。CGB(フランス・ジョルジュパティスト協会)主催サービスコンクール世界大会運営委員。 CGB後援サービスコンクール日本大会(メートルド・セルヴィス杯) 審査員

【授業の学習内容】

ホテル全体のマネジメント、部門別(オペレーション部門、サポート部門)のマネジメントの方法論、ホテルビジネストレンドをホテル現場での具体的な事例を挙げて解説する。

【到達目標】

ロジックを持った実際のホテルマネジメントを学ぶことにより、ホテルビジネスの様々な方法論、マーケティング論と現場での効果的な運営、経営方法、目的を理解して、現場での一つ一つの作業、サービス、オペレーションの意味を理解する事が出来る。

授業計画・内容

1回目	部門別マネジメントRooms Divisionを理解できるようになる。 1. KPIと計数管理 2. 客室稼働率 3. ADR 4. Rev PAR 5. Double Occupancy 6. Room Rate 7. Revenue Management
2回目	部門別マネジメントRooms Divisionを理解できるようになる。 1. KPIと計数管理 2. 客室稼働率 3. ADR 4. Rev PAR 5. Double Occupancy 6. Room Rate 7. Revenue Management
3回目	部門別マネジメントFood & Beverageを理解できるようになる。 1. 料飲部門のマネジメント 2. 料飲部門の収益構造と特徴 3. レストランにおけるKPI 4. Revenue Management
4回目	部門別マネジメントFood & Beverageを理解できるようになる。 1. 料飲部門のマネジメント 2. 料飲部門の収益構造と特徴 3. レストランにおけるKPI 4. Revenue Management
5回目	部門別マネジメントFood & Beverageを理解できるようになる。 1. 料飲部門のマネジメント 2. 料飲部門の収益構造と特徴 3. レストランにおけるKPI 4. Revenue Management
6回目	部門別マネジメントBanquet Serviceを理解できるようになる。 1. 一般宴会部門の利益率と特徴(Profit & Loss) 2. ウェディング部門の利益率と特徴(Profit & Loss) 3. ホテルのプライダル戦略
7回目	部門別マネジメントBanquet Serviceを理解できるようになる。 1. 一般宴会部門の利益率と特徴(Profit & Loss) 2. ウェディング部門の利益率と特徴(Profit & Loss) 3. ホテルのプライダル戦略
8回目	部門別マネジメントSales & Marketingを理解できるようになる。 1. マーケティング 2. セールス 3. 営業推進部門
9回目	部門別マネジメントSales & Marketingを理解できるようになる。 1. マーケティング 2. セールス 3. 営業推進部門
10回目	部門別マネジメントSales & Marketingを理解できるようになる。 1. マーケティング 2. セールス 3. 営業推進部門
11回目	リスク・マネジメント(危機管理)を理解できるようになる。 1. リスク・マネジメントとは 2. リスク・ファクター 3. 危機管理における[4R]コンセプト
12回目	ホテル総支配人の役割を理解できるようになる。 1. ホテル部門の配置 2. 総支配人の仕事 3. 外資系・日系ホテル組織の相違点 4. 小規模ホテルと旅館
13回目	これまでの学習から各用語定義・概念解説ができる。
14回目	これまでの学習内容から、問われた内容に対する答えを論述できる。
15回目	業界で働く上での各自の課題を明確にすることができる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験」とする。

受講生へのメッセージ

ホテルリエとしての目標を達成する為に、日々の業務の理由付けを行い、ロジックを持ったホテルマネジメント学習が必要です。この授業では具体的な例を挙げて、分かり易くホテルマネジメントの基本と部門別のマネジメントを学びます。

【使用教科書・教材・参考書】

毎回のテーマについて、講師がレジュメを準備する。
参考書籍: ホテルマネジメント、ホテル・ビジネス・ブック、観光庁統計資料等。

授業シラバス

科目名 (英)	インバウンド I (MICEビジネス概論 I)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
	MICE Business I	授業 形態	講義 演習	総コマ数 (単位)	30	開講区分	
学科	IR・ホテル&リゾート科			2	曜日/時限		
【担当教員 実務者経験】							
旅行会社勤務を経て、91年よりちば国際コンベンションビューローに勤務。99年～2000年、日本政府観光局へ出向し、国際会議のマーケティングおよびセールスを担当。G20大阪サミット関西推進協力協議会特別アドバイザーとして、G20の準備から開催まで一貫して関わった。韓国MICE産業協会諮問委員、MPI Japan Chapter 会長、観光庁MICE推進検討委員会委員を歴任し、日本のMICE業界の発展に尽力する。							
【授業の学習内容】							
MICEビジネスとは何か、関連する仕事や施設も含めて総合的に学ぶ。またMICEビジネスの歴史と現状・今後の発展について学び、仕事の面白さ・楽しさを理解する。							
【到達目標】							
MICEについての概要・業務内容を理解し、MICEビジネスの成り立ちや業界における役割、今後の発展について説明できるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	ガイダンス-MICE産業とは？ 一般的には未だあまり理解されていないMICE産業についての概念を知る
2回目	Meeting(企業会議、企業イベント)ビジネスの世界 一般に知られることの少ない企業イベントについて実例を踏まえて、その業務に携わる面白さや楽しさなどについて知る。
3回目	Incentive(報奨旅行)ビジネスの世界 MICEビジネスの中でも最も知られにくいインセンティブパーティーについて、その業務の面白さや楽しさなどについて知る。
4回目	Convention(国際会議)ビジネスの世界 国際会議を運営するさまざまな関連産業について、その業務の面白さや楽しさについて知る。
5回目	Exhibition(展示会)ビジネスの世界 展示会運営に携わる様々な関連産業について、その業務の面白さや楽しさについて知る。
6回目	MICE産業の歴史 世界や日本のMICE産業の歴史を成り立ちから現在に至るまでのような過程を経てきたかを理解し、今後のMICE産業の発展について理解する。
7回目	MICE産業の現状①(世界、日本) 世界や日本におけるMICE産業の実態や現在のトレンド等について理解を深める。
8回目	MICE産業の現状②(大阪) 大阪におけるMICE産業の実態についてG20大阪サミット開催実例等を含めて理解し、今後大阪にとってのMICEビジネスの重要性について知る。
9回目	MICE産業を支える仕事①(観光庁、JNTO、コンベンションビューロー) 公的な立場でMICE産業を支える国、自治体参加の組織についてその役割や活動について知識を深める。
10回目	MICE産業を支える仕事②(PCO、PEO、イベント会社等) MICE事業実施にあたって最前線で実務を執り行う業務について理解を深める。
11回目	MICE産業を支える仕事③(ケータリング、旅行業等) MICE事業実施にあたって最前線で実務を執り行う業務について理解を深める。
12回目	MICE産業を支える施設①(国際会議場) MICE産業とは一面装置産業であり、その中でも特に大きな役割を果たす国際会議場の役割について理解を深める。
13回目	学習内容を振り返り、問われた質問に対して的確に答えることができる。
14回目	国際会議場視察(国立京都国際会館) 日本最古で唯一の国立国際会議場である国立京都国際会議場を訪問し、担当者から施設の概要や運営について説明を受けるとともに細部を視察し理解を深める。
15回目	これまでの学習内容を復習し、不明点を明確にすることができる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・前期試験の点数
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	インバウンドⅠ (MICEビジネス概論Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
	MICE BusinessⅡ	授業 形態	講義 演習	総コマ数 (単位)	30 2	開講区分	
学科	IR・ホテル&リゾート科						

【担当教員 実務者経験】

旅行会社勤務を経て、91年よりちば国際コンベンションビューローに勤務。99年～2000年、日本政府観光局へ出向し、国際会議のマーケティングおよびセールスを担当。G20大阪サミット関西推進協力協議会特別アドバイザーとして、G20の準備から開催まで一貫して関わった。韓国MICE産業協会諮問委員、MPI Japan Chapter 会長、観光庁MICE推進検討委員会委員を歴任し、日本のMICE業界の発展に尽力する。

【授業の学習内容】

展示場・ホテル・ユニークベニュー等のMICEビジネス関連施設を実際に視察しながら、具体的な仕事内容についてイメージし、理解を深める。

【到達目標】

MICEビジネスが実際にどのように誘致、準備、運営されるかなどの一連の流れを把握し、実務内容について説明できるようになる。

授業計画・内容

1回目	MICE産業を支える施設と仕事②(展示場) 地域の経済産業の活性化に必要な不可欠装置である展示場の役割について理解を深める。
2回目	展示場視察(インテックス大阪) 西日本最大規模の本格的展示場を訪問し、担当者から施設の概要や運営について説明を受けるとともに展示場細部を視察し理解を深める。
3回目	MICE産業を支える施設と仕事③(ホテル) ホテルのMICE機能について知識を深め、どのようなMICEビジネスを受入れ運営するかについての理解を深める。
4回目	ホテル視察(ハイアットリージェンシー大阪 o rヒルトン大阪) MICEビジネスの取り組みに実績のある外資系ホテルを訪問し、担当者から施設の概要や運営について説明を受け、ホテルにおけるMICEビジネスの理解を深める。
5回目	国際会議の作り方 国際会議が実際にどのように誘致、準備、運営されるかなどの一連の流れを把握し国際会議ビジネスについて理解を深める。
6回目	展示会の作り方 展示会がどのように企画され、実施されていくかの一連の流れを把握し展示会ビジネスについての理解を深める。
7回目	インセンティブ・イベントの作り方 MICEビジネスの中で一般ではほとんど触れることのないインセンティブ・イベントについて映像等の事例も踏まえ実態を把握し理解を深める。
8回目	国際会議におけるプロトコール 国際会議、特にハイレベル国際会議受入れに必要な不可欠なプロトコール(国際儀礼)についてG20サミットの実例などを踏まえて理解を深める。
9回目	ユニークベニューの開発と活用 ユニークベニューの概念や実際にどのように開発し活用していくか等を実例を踏まえて理解し、開発や活用に関する演習を行う。
10回目	ユニークベニュー視察(大阪市中央公会堂、大阪市立自然史博物館) 大阪で実際に活用されているユニークベニューを訪問し、担当者から施設の概要やMICEイベントを開催する際の留意点などをの説明を受け理解を深める。
11回目	MICEの統計、経済波及効果及びMICE関係の仕事 MICEビジネスの効果測定に必要な統計や経済波及効果について理解を深めるとともに経済波及効果を高めるために必要なMICE商品の作り方について理解する。
12回目	MICEトレードショーの実務体験(インターンシップ)2020年12月2日(水) 大阪観光局が主催するMICEトレードショー「大阪MICEデスティネーション・ショーケース2020」の運営に一部携わり、展示商談会の運営を実体験する。
13回目	学習内容を振り返り、問われた質問に対して的確に答えられることができる。
14回目	IR(統合型リゾート)におけるMICEビジネス 今後の日本におけるMICEビジネスにとって重要な施設となるIR内のMICE施設に関して知識を深めるとともに、今後のビジネスへの発展性について理解を深める。
15回目	MICEビジネス概論総括 2020年度の講義を振り返り理解を深めるとともに、次年度実施される海外実習でのMICEビジネス実務習得のポイントを認識する。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・後期試験の点数

受講生へのメッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	インバウンドⅡ (グローバルホスピタリティⅠ) Gloval Hospitality I	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

株式会社JALスカイ大阪に勤務。伊丹空港のグランドスタッフとしてVIPのお客様を数多く対応している。

【授業の学習内容】

訪日外国人が増えている現状からこの授業の必要性を理解する。
前期では、訪日外国人に対する基本的な理解、接客マナーと、英語を使つての接客表現を学ぶ。

【到達目標】

訪日外国人に接する際の基本的な英語表現を覚え、使うことができるようになる。
また、世界には多様な文化があることを理解し、その都度相手を尊重する姿勢を身に着ける。

授業計画・内容

1回目	シラバス説明:この授業の内容、目的、ルールを理解できる。 日本のインバウンドの現状を理解する。
2回目	IRの仕組み、可能性と課題を理解した上で議論し、考えを深めることができる。
3回目	表情、挨拶、身だしなみ、話し方、仕草の重要性を理解し、場に適した対応をすることができるようになる。
4回目	初対面のお客様と英語で自己紹介・挨拶(お辞儀、握手)をすることができるようになる。
5回目	多文化において様々なタブー(宗教、政治など)があることを理解し、どのように対応すればいいかを学ぶことができる。
6回目	顧客満足とは何かを理解することができる。
7回目	フォーマルな場での席次とドレスコードについて理解し、場に適した対応をすることができるようになる。
8回目	VIP対応の基本的なマインドを理解し、日本語・英語ロールプレイングで実践することができる。
9回目	英語で道案内ができるようになる。
10回目	関西の観光スポットを英語で紹介することができるようになる。
11回目	日本の観光名所を英語で紹介することができるようになる。
12回目	インバウンドのお客様に食事を提供する際に気を付けることを理解し、その際に使う英語フレーズを学ぶことができる。
13回目	メニューをつくらう:日本料理を英語で表現することができるようになる。
14回目	学習内容を振り返り、問われた質問に対して的確に答えることができる。
15回目	これまでの学習内容を復習し、不明点を明確にできる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。
・期末試験の点数

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	インバウンドⅡ (グローバルホスピタリティⅡ) Gloval HospitalityⅡ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限
【担当教員、実務者経験】							
株式会社JALスカイ大阪に勤務。伊丹空港のグランドスタッフとしてVIPのお客様を数多く対応している。							
【授業の学習内容】							
訪日外国人が増えている現状からこの授業の必要性を理解する。 前期では、訪日外国人に対する基本的な理解、接客マナーと、英語を使つての接客表現を学ぶ。							
【到達目標】							
訪日外国人に接する際の基本的な英語表現を覚え、使うことができるようになる。 また、世界には多様な文化があることを理解し、その都度相手を尊重する姿勢を身に着ける。							
授業計画・内容							
1回目	前期の復習：VIP対応の基本マインドを理解し、日本語ロールプレイングを実践することができる。						
2回目	前期の復習：VIP対応の基本マインドを理解し、英語ロールプレイングを実践することができる。						
3回目	国際儀礼とドレスコード 席次、フォーマル、セミフォーマルについて理解し、関連する語彙を学ぶことができる。						
4回目	日本の食べ物を英語で表現 一汁三菜、そば、天麩羅、しゃぶしゃぶ、寿司などについて英語で表現することができる。						
5回目	プレゼンテーション①：日本の伝統的な食べ物をひとつ選び、英語でプレゼンすることができる。						
6回目	プレゼンテーションの振り返りを行い、お互いの発表について共有し知識・語彙を深めることができる。						
7回目	日本の習慣を英語で表現 靴を脱ぐ習慣、畳、挨拶の仕方などについて英語で表現することができる。						
8回目	プレゼンテーション②：日本の習慣をひとつ選び、英語でプレゼンすることができる。						
9回目	プレゼンテーションの振り返りを行い、お互いの発表について共有し知識・語彙を深めることができる。						
10回目	ホームタウンを英語で表現 自分の生まれた土地、住んでいる土地について英語で表現することができる。						
11回目	プレゼンテーション③：ホームタウンについて英語でプレゼンすることができる。						
12回目	プレゼンテーションの振り返りを行い、お互いの発表について共有し知識・語彙を深めることができる。						
13回目	学習内容を振り返り、各自不明点を明確にできる。						
14回目	学習内容を振り返り、問われた質問に対して的確に応えることができる。						
15回目	これまでの学習内容を復習し、各自の課題を明確にできる。						
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・期末試験の点数						
受講生への メッセージ							
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名 (英)	ブライダルビジネス (フラワーデザイン I)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
	Flower design I	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	IR・ホテル&リゾート科				2	曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

2007年フローリストナナ開業、2011年国家検定1級フラワー装飾技能士資格取得、大阪府知事認定講師資格取得。高島屋・スイスホテルの装飾やドレスショップ THE HANYの専属フラワーコーディネーターを務める。その他、ベイサイド迎賓館、セントフォーリアなどのゲストハウス在中フローリストを務めるなど。花全般多岐にわたる事業に携わる。2019年G20にも参画

【授業の学習内容】

サービス業のホスピアアイテムとして欠かせる事の出来ない花についての役割を知り、花が持つセラピー要素、また色彩感覚、空間コーディネートに触れる事により、提案力の高いサービスマンを目指す事が出来るようになる

【到達目標】

日本人の生活習慣に馴染みのない花がホスピタリティにどのように関係するかを意識できるようになる。また、感性を刺激し、新たな視野をもてるようになるようになる

授業計画・内容

1回目	オリエンテーションにより今後の学習内容を把握することができる。
2回目	花の流通と花の持つ特性。また各々の場所での役割や価格についてを知る事ができる
3回目	フラワーアレンジメントが作れるようになる
4回目	ブライダルブーケが作れるようになる
5回目	造花フラワーリースが作れるようになる
6回目	ブリザーブドフラワーBOXアレンジが作れるようになる
7回目	ハーバリウムが作れるようになる
8回目	ドライフラワーのクリスマスリースが作れるようになる
9回目	レジンアクセサリが作れるようになる
10回目	お花(造花)の仕入れが出来るようになる(成人式のお花購入)
11回目	オリジナルデザインの頭飾りが作れるようになる(成人式のお花作成)
12回目	作品のイメージ画制作、個の感性を磨く事が出来るようになる
13回目	作品作成を通じて、花を使ったおもてなしを習得する
14回目	(4限、5限で、開講)
15回目	花言葉・アニバーサリーフラワーなどの意味を知る事ができる

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・作品制作への取り組み姿勢及び、技術点70%
・学んだ事を今後どのように活かすかをテーマにしたレポート30%

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	旅行観光 I (国際観光 I) International Tourism I	必修 選択	必修	年次	3	担当教員
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員、実務者経験】

1988から旅行業界で仕事をしています(海外添乗、インバウンド業務) その経験を活かして、旅行関係の授業を受け持っています。

【授業の学習内容】

外国人に人気の観光地と近畿周辺の観光地について(各地域の特色、特産品(お土産物を含む)の知識を習得する、外国人を案内する方法(各国の習慣やマナー、日本で困る事を知り、各国ごとの対応を考える。簡単な英語で案内出来る様に学習する

【到達目標】

- ・インバウンド観光客に日本の観光地を英語で紹介できるようになる。
- ・主に宿泊客のホテル周辺の観光について聞かれた際の対応が出来るようになる フィールドワークを実施して、インバウンドガイド体験をし、ガイド業務内容を理解出来る様にする

授業計画・内容

1回目	ガイダンス、国際観光(インバウンド)の歴史、インバウンドの仕事の種類と内容について把握できるようになる
2回目	インバウンドの仕事に必要な知識について 外国人に人気の観光地を各自研究 課題研究—提出出来る様になる
3回目	人気観光地研究 国別マナーや習慣(宗教含む)を研究-留意点と心得(対応)を理解出来る様になる
4回目	人気観光地研究、大阪等近畿周辺) 国別人気観光地の研究 各業種の外交人受け入れ対策について 課題研究—提出出来る様になる
5回目	インバウンド英語 基礎英語表現について 挨拶等の会話が出来る様になる
6回目	インバウンド英語 道案内が出来る様になる
7回目	インバウンド英語 買い物 食事の案内が出来る様になる
8回目	インバウンド英語 想定される質問や日本で困る事に対応出来る様になる
9回目	インバウンド英語 観光案内英語① 2コマ対応の日程を考える—発表—実施案決定、出来る様になる
10回目	インバウンド英語 観光地案内② 各担当決定、観光案内、誘導&交通機関の案内等出来る様になる
11回目	インバウンド英語 観光地研究③ 各自担当か所を日本語と英語で作成①が出来る様になる
12回目	インバウンド英語 観光地研究③ 各自担当か所を日本語と英語で作成②が出来る様になる
13回目	これまでの学習内容を振り返り、不明点を明確にすることができる。
14回目	フィールドワーク実施(大阪で外国人に人気の観光地を英語で案内する)体験出来る様になる
15回目	フィールドワーク実施(大阪で外国人に人気の観光地を英語で案内する)体験できるようになる

評価基準
A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法
出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・筆記試験50点
・課題レポート50点
・

受講生へのメッセージ
国際観光、インバウンドが急性帳しているなか、普通に外国人を多く見かけ、質問される機会が増えています。日本を知ってもらふ事と、外国を知る事の両方が必要です。また語学力も必要です。この授業ではこれらを学習し、簡単な英語で外国人をおもてなし出来る事を体験、目標とします。学習方法(授業と自宅)をお知らせしますので、楽しいおもてなしの技術を身につけましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

スピードマスター 1時間でわかる インバウンド対策 訪日外国人のおもてなしはこれで決まり!(日本語)
ゼロからスタート英語ボランティア 観光ガイド編(日本語)

授業シラバス

科目名 (英)	旅行観光 I (国際観光 II) International Tourism II	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限
【担当教員、実務者経験】							
1988から旅行業界で仕事をしています(海外添乗、インバウンド業務) その経験を活かして、旅行関係の授業を受け持っています。							
【授業の学習内容】							
外国人に人気の観光地と近畿周辺の観光地について(各地域の特色、特産品(お土産物を含む)の知識を習得する、外国人を案内する方法(各国の習慣やマナー、日本で困る事を知り、各国ごとの対応を考える。簡単な英語で案内出来る様に学習する							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド観光客に日本の観光地を英語で紹介できるようになる。 ・主に宿泊客のホテル周辺の観光について聞かれた際の対応が出来るようになる フィールドワークを実施して、インバウンドガイド体験をし、ガイド業務内容を理解出来る様にする 							

授業計画・内容	
1回目	前期の復習:前期で学んだ英語表現を用いて、グループごとにロールプレイングを実施することができる。
2回目	日本をプレゼン①:外国人観光客が日本に求めることを調べてまとめ、英語でプレゼンテーションをすることができる。
3回目	日本をプレゼン②:外国人観光客が日本に求めることを調べてまとめ、英語でプレゼンテーションをすることができる。
4回目	日本をプレゼン③:外国人観光客が日本に求めることを調べてまとめ、英語でプレゼンテーションをすることができる。
5回目	eメールでのやりとり:インバウンド観光客とのeメールのやり取りについて、基本的な英語フレーズを理解し使用することができる。
6回目	お土産を勧めよう①:観光客へ日本ならではのお土産を購入してもらうため、英語で適切に商品説明をすることができる。
7回目	お土産を勧めよう②:観光客へ日本ならではのお土産を購入してもらうため、英語で適切に商品説明をすることができる。
8回目	雑談力アップのコツ:旅行中の観光客との雑談をテーマにロールプレイングを実施することができる。
9回目	空港にて①:空港で到着/出発する観光客を英語で案内することができる。
10回目	空港にて②:キャビンアテンダントやグランドスタッフが使用する英語を理解できる。
11回目	インバウンドツアープランニング①:国内の観光地を一箇所選び、インバウンド観光客向けにツアーを企画することができる。
12回目	インバウンドツアープランニング②:作成したツアーの広告、宣伝を英語で作成することができる。
13回目	インバウンドツアープランニング③:作成したツアー内容を英語でプレゼンすることができる。
14回目	これまでの学習内容を振り返り、不明点を明確にできる。
15回目	学習内容から問われる質問に対して的確な返答ができるようになる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点~70点をB、69点~60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・筆記試験50点 ・課題レポート50点
受講生へのメッセージ	国際観光、インバウンドが急成長している中、普通に外国人を多く見かけ、質問される機会が増えています。日本を知ってもらう事と、外国を知る事の両方が必要です。また語学力も必要です。この授業ではこれらを学習し、簡単な英語で外国人をおもてなし出来る事を体験、目標とします。学習方法(授業と自宅)をお知らせしますので、楽しいおもてなしの技術を身につけましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
スピードマスター 1時間でわかる インバウンド対策 訪日外国人のおもてなしはこれで決まり!(日本語) ゼロからスタート英語ボランティア 観光ガイド編(日本語)	

授業シラバス

科目名 (英)	資格取得講座 I (手話 I)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
	Sign Language I	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
学科	IR・ホテル & リゾート科					曜日/時限	
【担当教員_実務者経験】							
手話通訳士として、現在当市の登録手話通訳者として活動中。大学、短期大学、医療系の専門学校、高校等で講師として活動中。							
【授業の学習内容】							
聴覚障害者の言葉である手話を学び、お客様を接客する際に使えるようにする。手話を使い、日常会話ができるようにする。							
【到達目標】							
職場に聴覚障害者の方が来られた時に、手話で対応できるようになる。また、その他のコミュニケーション方法を使用し、聴覚に障害のないお客様と同じように接客できるようにする。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション 聴覚障害者とのコミュニケーション方法について考える 基本接客用語を学ぶ
2回目	接客の基本である挨拶の手話を学ぶ。指文字を学ぶ(清音)。
3回目	日程や曜日に使う数字を覚える。宿泊費や渡航費、予約日や時間を表現できるようにする。指文字を学ぶ(清音)。
4回目	七條会話や予約の時に使える人や家族、色などの手話を学ぶ。指文字を学ぶ(濁音・半濁音など)。
5回目	仕事や職業の手話を学ぶ。自分の職業を紹介できるようにする。指文字を15回目までに読み取れるようにする。
6回目	趣味の手話を学ぶ。主に日常会話で使えるようにする。指文字の復習。
7回目	疑問の手話を学び、お客様に質問できるようにする。指文字の復習。
8回目	動詞を学ぶ。フロントでの会話を考え、手話表現を学ぶ。指文字の復習。
9回目	楽しいや悲しいなど感情の手話を使ってコミュニケーションすることを学ぶ。指文字の復習。
10回目	テキストの例文を日常生活に置き換え、学習する。カウンターでの会話を考え、手話表現を学ぶ。指文字の復習。
11回目	聴覚障害者との交流会。学習した手話を使ってコミュニケーションする方法を学ぶ。
12回目	前回の交流会を踏まえて、疑問点などの解決方法を学ぶ。
13回目	朝食や夕食、機内食などで使う食べ物の手話を学ぶ。
14回目	模擬試験と1～13回の講義の内容を駆使し、講師からの手話の質問に答える。
15回目	前期のまとめとこれからの目標(手話技能検定4級受験)について明確にできる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・筆記試験(手話技能検定5級) 50点 ・実技試験(実技試験30点 授業内実技20点) 50点 ・上記2点を合計100点とし、40%計算を行う。
受講生へのメッセージ	実は、「手話」という言語は、英語と同じで日本語とは違う言語です。まったく違う言語を学ぶという意識を持ってください。ですが、決して難しい言語ではありません。普段、みなさんが使っている身振り手振りが手話になっているものもたくさんあります。手で心を伝える、相手と通じ合える楽しさをぜひ知っていただき、それを自身の仕事に生かすために、一緒に学習しましょう。手話技能検定5級受験も推奨しています。
【使用教科書・教材・参考書】	
手話技能検定公式テキスト 5・6・7級 手話技能検定公式テキスト3・4級	

授業シラバス

科目名 (英)	資格取得講座Ⅰ (手話Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
	Sign Language Ⅱ	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	IR・ホテル&リゾート科				2	曜日/時限	
【担当教員_実務者経験】							
手話通訳士として、現在当市の登録手話通訳者として活動中。大学、短期大学、医療系の専門学校、高校等で講師として活動中。							
【授業の学習内容】							
聴覚障害者の言葉である手話を学び、お客様を接客する際に使えるようにする。手話を使い、日常会話ができるようにする。							
【到達目標】							
職場に聴覚障害者の方が来られた時に、手話で対応できるようになる。また、その他のコミュニケーション方法を使用し、聴覚に障害のないお客様と同じように接客できるようにする。							

授業計画・内容	
1回目	前期の復習 接客手話の確認 手話技能検定4級について
2回目	乗り物の手話を学ぶ。道案内や路線についての会話を学習する。
3回目	生活の手話を学ぶ。フロントや受付で使用する筆談について学ぶ。
4回目	形容詞・副詞の手話を学ぶ1。ホテル等で聴覚障害者からの依頼や質問に関する会話を学習する。
5回目	形容詞・副詞の手話を学ぶ2。旅行会社等の会話を学習する。
6回目	施設の手話を学ぶ1。ホテル等、館内施設の紹介や案内の会話を学習する。
7回目	施設の手話を学ぶ2。観光施設での会話を学習する。
8回目	これまでの復習及び数の手話を学ぶ。日常会話を学習する。
9回目	都道府県や地名の手話を学ぶ1。フロントやカウンターでの会話(おすすめの場所等)を学習する。
10回目	都道府県や地名の手話を学ぶ2。ツアーや旅行地での会話(おすすめの場所等)を学習する。
11回目	動詞の手話を学ぶ1。各自就職または就職を希望する分野の会話を考え、その会話を学習する。
12回目	動詞の手話を学ぶ2。今後に向けて聴覚障害者とのコミュニケーション方法を再度確認する。
13回目	手話技能検定4級対策として、各自の不明点を明確にできる。
14回目	模擬試験と1～13回の内容を駆使し、講師からの手話の質問に答えることができる。
15回目	後期のまとめとこれからの目標(手話技能検定4級)について明確にできる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・筆記試験(手話技能検定5級) 50点 ・実技試験(実技試験30点 授業内実技20点) 50点 ・上記2点を合計100点とし、40%計算を行う。
受講生へのメッセージ	前期での基礎学習後の応用学習です。仕事で活かせる会話文を中心に学習します。ぜひ、自分の将来就業するであろう分野の会話を積極的に提案してください。また、手話技能検定試験4級合格を目指します。こちらは会社からの給料等の評価対象になることもあります。
【使用教科書・教材・参考書】	
手話技能検定公式テキスト 5・6・7級 手話技能検定公式テキスト3・4級	

授業シラバス

科目名 (英)	料飲解説 (料飲解説・BAR実習) Bartender Training II	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	宮崎 剛志
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員_実務者経験】

1994年奈良ホテルに入社以降、宴会食堂部(メインダイニングルーム「三笠」・バー「ザ・バー」・日本料理「花菊」、宴会、婚礼等のサービス)、宿泊部、総務部、経営企画、営業企画、ジェイアール西日本ホテル開発へ出向(ホテルグランヴィア京都にて勤務)等さまざまな業務に携わる。2013年7月、世界最大のカクテルコンペティションである「ディアジオワールドクラス2013」世界大会で「キングス・オブ・フレイバー」部門優勝、アジア・パンフィックチャンピオンを獲得し、総合世界第3位の栄誉に輝いた。現在は、奈良市内にて自身でBARを出店。「バーとカクテルの価値を高める」使命の元、国内外でアンバサダーとしてカクテル作りのワークショップや講演、オリジナルカクテルの開発などを積極的に行っている。

【授業の学習内容】

酒類全般の基礎知識とカクテルの実習。

【到達目標】

お酒の基礎知識を身に付け、カクテルの基本調合技術(ビルド、シェイク、メジャーカップの使い方)を習得する。
カクテルを通じてホテルマンとしての身だしなみ、サービスといった基本的な仕事への取り組み方を学ぶ。

授業計画・内容

1回目	お酒の基礎知識 お酒の分類について学び説明することができる。
2回目	ワイン① 製造方法を学び、テイastingができるようになり、適正なサービス方法を模索できるようになる。 白ワイン、赤ワインのテイasting。
3回目	ワイン② 製造方法を学び、テイastingができるようになり、適正なサービス方法を模索できるようになる。 白ワイン2種の比較テイasting。
4回目	ワイン③ 製造方法を学び、テイastingができるようになり、適正なサービス方法を模索できるようになる。 赤ワイン2種の比較テイasting。
5回目	ワイン④ 製造方法を学び、テイastingができるようになり、適正なサービス方法を模索できるようになる。 スパークリングワインのテイasting。
6回目	ウイスキー① 製造方法を学び、テイastingができるようになり、適正なサービス方法を模索できるようになる カクテル調合技術(ビルド パースプーン、メジャーカップの使い方)をハイボールの制作を通して、習得する
7回目	ウイスキー② 製造方法を学び、テイastingができるようになり、適正なサービス方法を模索できるようになる カクテル調合技術(ビルド パースプーン、メジャーカップの使い方)をハイボール、ハイボールをアレンジしたカクテルの制作を通して、習得する
8回目	ブランデー 製造方法を学び、テイastingができるようになり、適正なサービス方法を模索できるようになる カクテル調合技術(シェイク カクテルシェーカー、メジャーカップの使い方)をアレキサンダーの制作を通して、習得する
9回目	スピリッツ① 製造方法を学び、テイastingができるようになり、適正なサービス方法を模索できるようになる カクテル調合技術(ビルド カクテルシェーカー、メジャーカップの使い方)をジントニックの制作を通して、習得する
10回目	スピリッツ② 製造方法を学び、テイastingができるようになり、適正なサービス方法を模索できるようになる カクテル調合技術(シェイク カクテルシェーカー、メジャーカップの使い方)をトミーズマルガリータの制作を通して、習得する
11回目	リキュール① 製造方法を学び、テイastingができるようになり、適正なサービス方法を模索できるようになる カクテル調合技術(シェイク カクテルシェーカー、メジャーカップの使い方)をグラスホッパーの制作を通して、習得する
12回目	リキュール② 製造方法を学び、テイastingができるようになり、適正なサービス方法を模索できるようになる カクテル調合技術(ビルド カクテルシェーカー、メジャーカップの使い方)をスプモーニの制作を通して、習得する
13回目	これまでの学習内容を振り返り、不明点を明確にできる。
14回目	学習内容から問われる質問に対して的確な返答ができるようになる。
15回目	振り返り 復習をしてお酒の楽しさを知ることができる。

評価基準 A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法 **出席評価**50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。

- ・実技テスト
- ・
- ・

受講生へのメッセージ お酒は世界共通のコミュニケーションツールです。
カクテルを通じてサービスマンの楽しさを学びましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	料飲解説 (料飲解説・ソムリエ実習) Sommelier Training I	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	茅田 信一
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	
【担当教員_実務者経験】							
ヒルトン大阪に入社し14年勤務。ラウンジ、フレンチ、中華、和食、などを渡りキャプテン、マネージャーと歴任しながらホテルのチーフソムリエとなる。現在は独立して北新地でワインバー「茅田葡萄酒店」を営んでいる。							
【授業の学習内容】							
ワインの基礎知識、ワインのサービス実習、テイastingを行ない、ワインへの造詣を深める。							
【到達目標】							
ホテルマン、サービスマンとして最低限知っておかないといけないワインの基礎知識とワインサービスの基本を修得していただき、ソムリエという専門職への理解を深める。							

授業計画・内容	
1回目	ワインの基本知識を理解することができる
2回目	ワインの製造法やブドウ品種を学ぶことができる
3回目	ワインの開け方を習得できる
4回目	スパークリングワインの開け方を習得できる
5回目	白ワインのテイastingの方法を学ぶことができる
6回目	赤ワインのテイastingの方法を学ぶことができる
7回目	ワインと料理のマリアージュの概念を理解することができる
8回目	フランスワインの種類・特色を学ぶことができる ボルドー編
9回目	フランスワインの種類・特色を学ぶことができる ブルゴーニュ編
10回目	フランスワインの種類・特色を学ぶことができる シャンパーニュ編
11回目	オールドワールドの地域・特色を学ぶことができる
12回目	ニューワールドの地域・特色を学ぶことができる
13回目	これまでの学習内容を振り返り、不明点を明確にできる。
14回目	学習内容から問われる質問に対する的確な返答ができるようになる。
15回目	総まとめ:学習の意義を説明できる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「実技試験と筆記試験」とする。
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	ディーリング (カジノディーリング I) Casino Dealing I	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分	曜日/時限

【担当教員、実務者経験】

ラスベガス・ディーラースクールと韓国7LUCKカジノでディーリングトレーニングを修了した後、シンガポール・マリーナベイサンズのカジノに勤務。
 大阪観光大学および神戸山手大学のツーリズムプロデューサー養成講座の客員教授。トラジャル旅行ホテル専門学校のカジノマナー講座の非常勤講師を歴任。
 日本カジノスクール大阪校のマネージャーとして世界基準のカジノディーラー人材教育とスクール運営。(著書:「IRの有効性とカジノの本質」)
 大阪府と地元企業のIR関連アドバイザー支援(大阪府議会・IR代表質問の作成補助、地元企業のIR参画「大阪IR推進100社会」広報担当)

【授業の学習内容】

・海外事例にみるIR(統合型リゾート)の有効性
 ・カジノの本質とレスポンシブルゲーミング
 ・世界のカジノの歴史と文化
 ・カジノディーリング実技(基礎・ブラックジャック・バカラ・ルーレット・ポーカー)
 ・日本IRの有効性(法律・制度設計・開発計画)
 ・カスタマーサービス

【到達目標】

世界で通用するカジノディーリング技術と知識の習得。日本のIRを正しく理解することで将来のIRビジネスへのビジョンを持つこと。

授業計画・内容

1回目	IR講義: オリエンテーション、海外IRの成功事例と有効性、世界のカジノの歴史と文化、近隣アジアのIR事例、日本IRの法制化と開発計画
2回目	IR講義: カジノの本質とレスポンシブルゲーミング、カジノディーラーの心得、カジノの組織体系とオペレーション、大阪IR・地元企業の取り組み
3回目	カジノマナー体験: ブラックジャック/ルーレットのテーブルマナーとゲームルールを学ぶことができる
4回目	カジノマナー体験: バカラ/ポーカーのテーブルマナーとゲームルールを学ぶ
5回目	カジノディーリング実技: 基礎(カードシャッフル、マルチデックシャッフル/チップワーク、ドロップカット、サイジング)を習得できる
6回目	カジノディーリング実技: 基礎(キャッシュチェンジ、カラーチェンジ/クロージングテーブル)を習得できる
7回目	カジノディーリング実技: ブラックジャック(基礎)を習得できる
8回目	カジノディーリング実技: ブラックジャック(基礎)を習得できる
9回目	カジノディーリング実技: ブラックジャック(応用)を習得できる
10回目	カジノディーリング実技: ブラックジャック(応用)を習得できる
11回目	カジノディーリング実技: ブラックジャック(総合)を習得できる
12回目	カジノディーリング実技: ミディバカラ(基礎)を習得できる
13回目	カジノディーリング実技: ミディバカラ(基礎)を習得できる
14回目	これまでの学習内容を復習し、問われる質問に的確な返答ができるようになる
15回目	授業の振り返り、テーブルゲームの運営手法について論じることができる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
 ・前期試験: 実技試験(30問)
 ・後期試験: 筆記試験(いずれか1ゲーム)

受講生への メッセージ

IR(統合型リゾート)は近い将来日本に誕生する新規産業であり、カジノディーラーは日本で初めて誕生する特殊技能職です。
 IRの有効性とカジノの本質をしっかりと理解し、楽しくディーリングを学んでください。

【使用教科書・教材・参考書】

講師が用意するハンドアウト資料、プレイングカード(1人に1デッキ配付)

授業シラバス

科目名 (英)	ディーリング (カジノディーリングⅡ) Casino Dealing Ⅱ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

ラスベガス・ディーラーズスクールと韓国7LUCKカジノでディーリングトレーニングを修了した後、シンガポール・マリーナベイサンズのカジノに勤務。
 大阪観光大学および神戸山手大学のツーリズムプロデューサー養成講座の客員教授。トラジャル旅行ホテル専門学校のカジノマネー講座の非常勤講師を歴任。
 日本カジノスクール大阪校のマネージャーとして世界基準のカジノディーラー人材教育とスクール運営。(著書:「IRの有効性とカジノの本質」)
 大阪府と地元企業のIR関連アドバイザー支援(大阪府議会・IR代表質問の作成補助、地元企業のIR参画「大阪IR推進100社会」広報担当)

【授業の学習内容】

・海外事例にみるIR(統合型リゾート)の有効性 ・世界のカジノの歴史と文化 ・日本IRの有効性(法律・制度設計・開発計画)
 ・カジノの本質とレスポンスブルゲーミング ・カジノディーリング実技(基礎・ブラックジャック・バカラ・ルーレット・ポーカー) ・カスタマーサービス

【到達目標】

世界で通用するカジノディーリング技術と知識の習得。日本のIRを正しく理解することで将来のIRビジネスへのビジョンを持つこと。

授業計画・内容

1回目	カジノディーリング実技: ミディバカラ(応用)を習得できる
2回目	カジノディーリング実技: ミディバカラ(応用)を習得できる
3回目	カジノディーリング実技: ミディバカラ(総合)を習得できる
4回目	カジノディーリング実技: ルーレット(基礎)を習得できる
5回目	カジノディーリング実技: ルーレット(基礎)を習得できる
6回目	カジノディーリング実技: ルーレット(応用)を習得できる
7回目	カジノディーリング実技: ルーレット(応用)を習得できる
8回目	カジノディーリング実技: ルーレット(総合)を習得できる
9回目	カジノディーリング実技: テキサスホールデムポーカー(基礎)を習得できる
10回目	カジノディーリング実技: テキサスホールデムポーカー(応用)を習得できる
11回目	カジノディーリング実技: テキサスホールデムポーカー(総合)を習得できる
12回目	カスタマーサービス: ブラックジャック/ルーレットを習得できる
13回目	カスタマーサービス: ミディバカラ
14回目	カスタマーサービス: テキサスホールデムポーカーを習得できる
15回目	1～14の振り返りで理解度を確認する

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
 ・前期試験: 実技試験(30問)
 ・後期試験: 筆記試験(いずれか1ゲーム)

**受講生への
メッセージ**

【使用教科書・教材・参考書】

講師が用意するハンドアウト資料、プレイングカード(1人に1デッキ配付)